

地域包括ケアビジョンとその方向性

～加賀市版地域包括ケアシステムの構築に向けて～



平成27年4月

加賀市

目 次

第1章	はじめに	1
1	地域包括ケアシステムの構築について	1
2	加賀市での地域包括ケアシステムの必要性	2
3	5つの要素とその計画	3
4	地域包括ケアビジョン策定のための体制	4
第2章	加賀市の現状	7
1	課題の抽出について	7
2	地域包括ケアにおける5つの要素の現状と課題	8
3	5つの要素の現状と課題のまとめ	17
4	日常生活圏域の設定	18
5	地域の状況	19
第3章	加賀市の目指すべき姿	21
1	加賀市の目指すべき姿の基本的な考え方	21
2	地域包括ケアビジョンと方向性	24
第4章	今後の重点事項とスケジュール	27
第5章	住民主体と協働事業について	30
第6章	地域包括ケアシステムの構築に向けた行政の役割	46
第7章	加賀市地域包括ケア検討委員会とワーキング	47
1	加賀市地域包括ケア検討委員会委員	47
2	ワーキング構成職員	48
3	検討委員会・ワーキングの開催内容	49
第8章	各種資料	50
1	圏域別統計データ	50
2	地区カルテ	64

1 地域包括ケアシステムの構築について

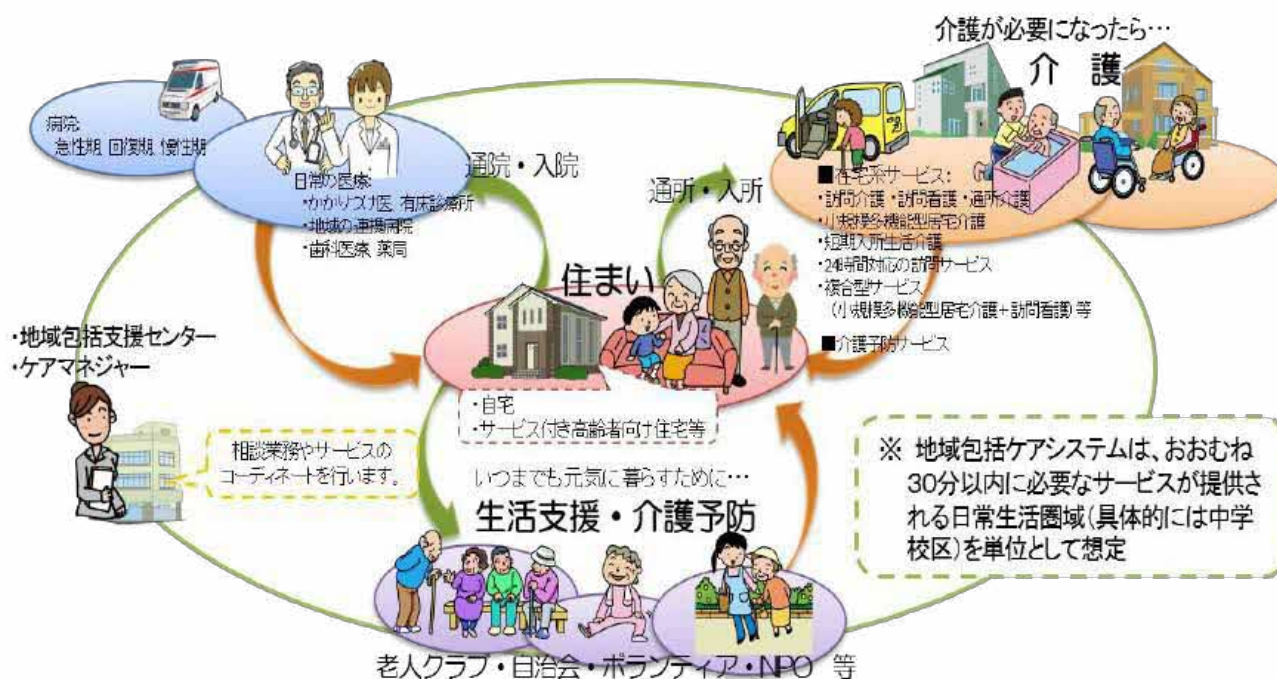
団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、予防・医療・介護・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステム構築の実現が求められています。

今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要となります。

高齢化の状況を見ると、人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部や75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、大きな地域差があります。

そのような中で、地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が、地域と協働し、地域特性に応じて作り上げていくことが必要となります。

地域包括ケアシステムの姿



2 加賀市での地域包括ケアシステムの必要性

日本では急速に少子高齢化が進んでおり、「団塊の世代」が75歳を迎える2025年には高齢者数が3,500万人を超え、高齢化率も30%を超える見込みです。

本市においても同様の課題を抱え、2025年には人口は6万人を切る一方で高齢者は2万1千人を超え、高齢化率も36%に達する見込みとなっています。

少子高齢化を背景として、2025年を迎えるにあたり大きく以下の4点の課題が見えてきます。

(1) 「単身・高齢者のみ世帯の増加」

総世帯数が約28,000世帯に対し高齢者のみで構成される世帯が約9,300世帯となり、高齢者のみ世帯は3分の1を占め、さらに単身高齢世帯は5,500世帯を超え、5分の1が独り暮らしの高齢者となります。

(2) 「要支援・要介護認定者の増加」

高齢者の増加に伴い要支援・要介護認定者は4,500人に上り、高齢者の5人に1人が何らかの支援や介護が必要となります。

(3) 「認知症高齢者の増加」

国では、何らかの認知症の症状を有する人の数が5人に1人に増加すると試算しており、本市に当てはめると、約4,000人の方が認知症になると見込まれます。

(4) 「介護の担い手となる人材の不足」

生産年齢（15～64歳）人口は31,000人となり、高齢者介護の担い手となる人材は不足し、1人の高齢者を約1.47人で支える状況となります。介護職員数も不足する中で、現在の介護保険サービスの提供体制を維持することが困難となります。

本市においては、上記の（１）～（４）の状況をふまえ、行政サービスのみならず、NPO、ボランティア、民間企業等の多様な事業主体による支援体制を構築することが求められます。同時に、高齢者の社会参加をより一層推進することを通じて、元気な高齢者が生活支援の担い手として活躍するなど、高齢者が社会的役割を持つことで、生きがいや介護予防につながる取組により、住み慣れた地域で自分らしい暮らしが継続できる社会の実現を目指すことが重要となります。

以上のことから、本市における地域包括ケアシステムの体制構築について検討を行いました。

3 5つの要素とその計画

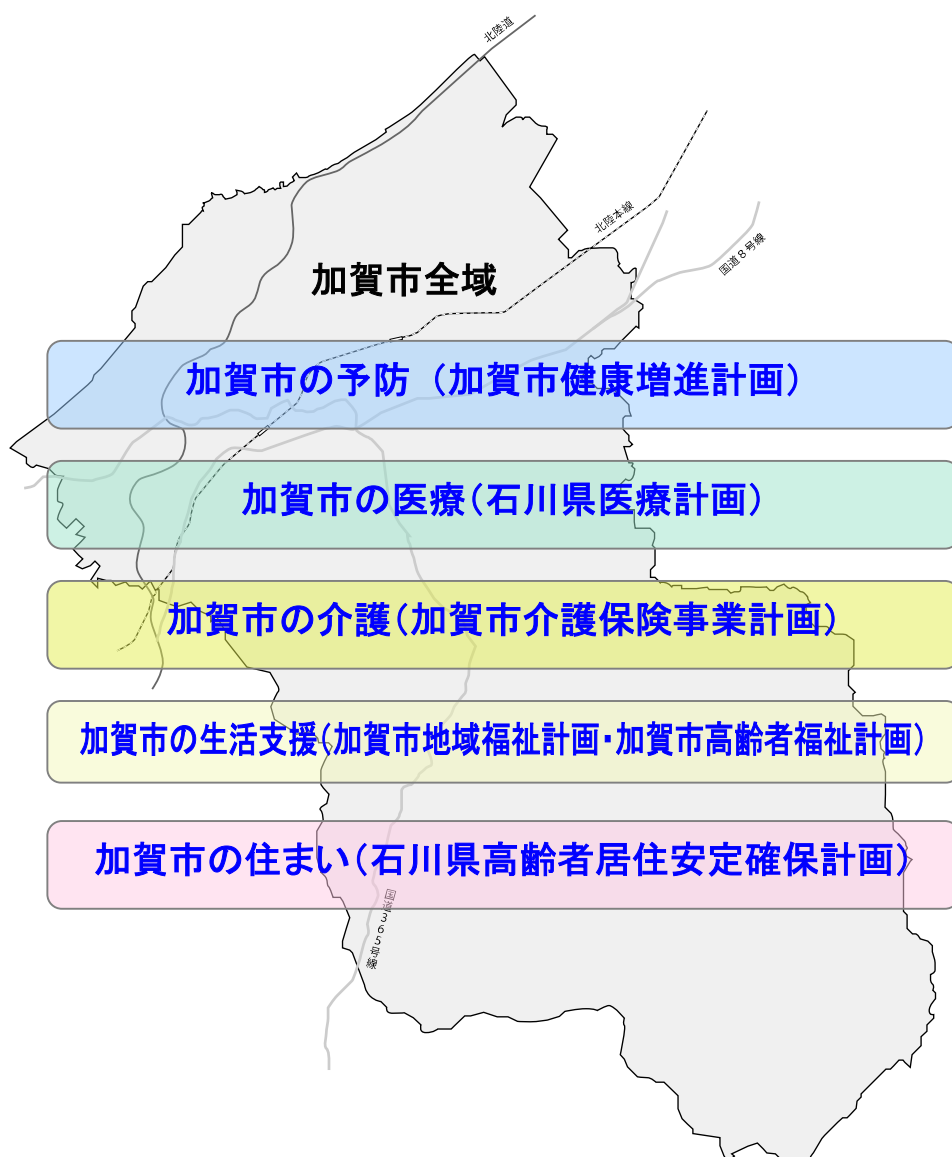
本市では、本市の将来都市像やそれを実現するためのまちづくりの基本構想と基本計画を分野別に定めた総合計画を策定しております。

これまで加賀市では、図のように「予防」、「医療」、「介護」、「生活支援」、「住まい」の各計画を加賀市全域のものとして策定し、それぞれの担当課がそれぞれの地域に働きかけをして、施策に取り組んできました。

下図の分野別の計画においては、自らが生活する地域で、様々なサービスを組み合わせで一体的に受けることができるよう、各地域で5つの要素の施策を、整合性をもって進める取組が求められています。

地域包括ケアシステムの具現化を図っていくために目指すべき姿を設定するとともに様々な手段、手法により実現を図っていく必要があります。

【他計画との位置づけ】



4 地域包括ケアビジョン策定のための体制

地域包括ケアシステムの構築にあたり、5つの要素にかかわるサービス担当課職員からなる加賀市地域包括ケア庁内横断ワーキング（以下「ワーキング」という。）を6月に立ち上げ、人口動態をはじめ各課で保有している様々な情報や各種アンケート結果、また、市内各地区で開催した地域ケア会議（地区座談会）から将来についての不安、またワーキング参加職員が業務で見聞している事などから加賀市の現状や課題を整理し、加賀市で不安なく暮らし続けることができるためにどのような姿を目指すべきかを検討を重ねました。検討にあたっては、加賀市地域包括ケア検討委員会を設置し、外部の有識者からの意見も取り入れ、加賀市版地域包括ケアシステム構築に向け、加賀市での5つの要素ごとの目指すべき姿＝地域包括ケアビジョン（以下「地域包括ケアビジョン」という。）と、地域において地域包括ケアビジョンを推進するための共通方針として地域包括ケアビジョンの方向性を決めました。

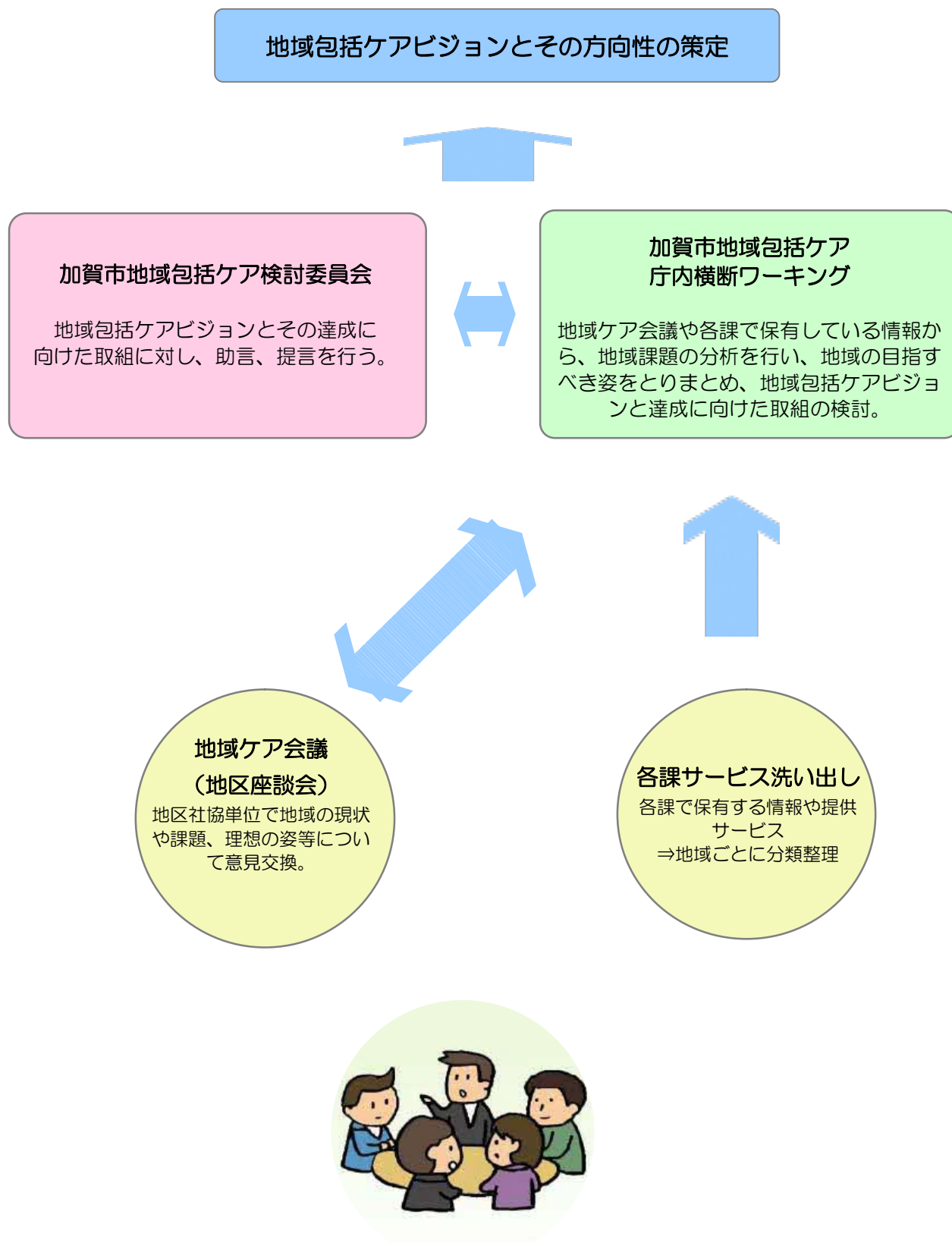
ワーキングの構成と、地域包括ケアビジョンとその方向性の策定までの流れは次のとおりです。

〔庁内横断ワーキングの構成〕



※ 平成26年6月現在の部局名を記載しています。（平成27年4月に機構改革を行っています。）

〔「地域包括ケアビジョンとその方向性」策定までの流れ〕



(参考)

地域包括ケアシステムの「5つの構成要素」について

(参考) 地域包括ケア5つの要素 平成25年3月地域包括ケア研究会報告書より要約

地域包括ケアシステムを構成する要素として、これまで「予防」「医療」「介護」「生活支援サービス」「住まい」という5つの構成要素が掲げられています。これをより詳しく表現すると、「介護・リハビリテーション」「医療・看護」「保健・予防」「福祉・生活支援」「住まいと住まい方」となります。

これらの構成要素は、実際には、ばらばらに提供されるのではなく、それぞれの役割に基づいて互に関係しながら、また連携しながら在宅の生活を支えています。

「住まいと住まい方」を地域の生活の基盤をなす「植木鉢」に例えると、それぞれの「住まい」で生活を構築するための「生活支援・福祉サービス」は植木鉢に満たされる養分を含んだ「土」と考えることができます。「生活（生活支援・福祉サービス）」という「土」がないところに、専門職の提供する「介護」や「医療」「予防」を植えても、それらは十分な力を発揮することなく、枯れてしまいます。

従来は並列関係で5要素が理解されてきていますが、このように捉え直すことにより、地域包括ケアシステムにおいては、「予防」「医療」「介護」という専門的なサービスの前提として「住まい」と「生活支援・福祉サービス」の整備があることが理解できます

これらの関係を示したものが下図のとおりです。

地域包括ケアシステムの5つの構成要素と「自助・互助・共助・公助」

○高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができ、構築を目指す「地域包括ケアシステム」。

地域包括ケアシステムにおける「5つの構成要素」



「介護」、「医療」、「予防」という専門的なサービスと、その前向きに連携しながら在宅の生活を支えている。

【住まいと住まい方】

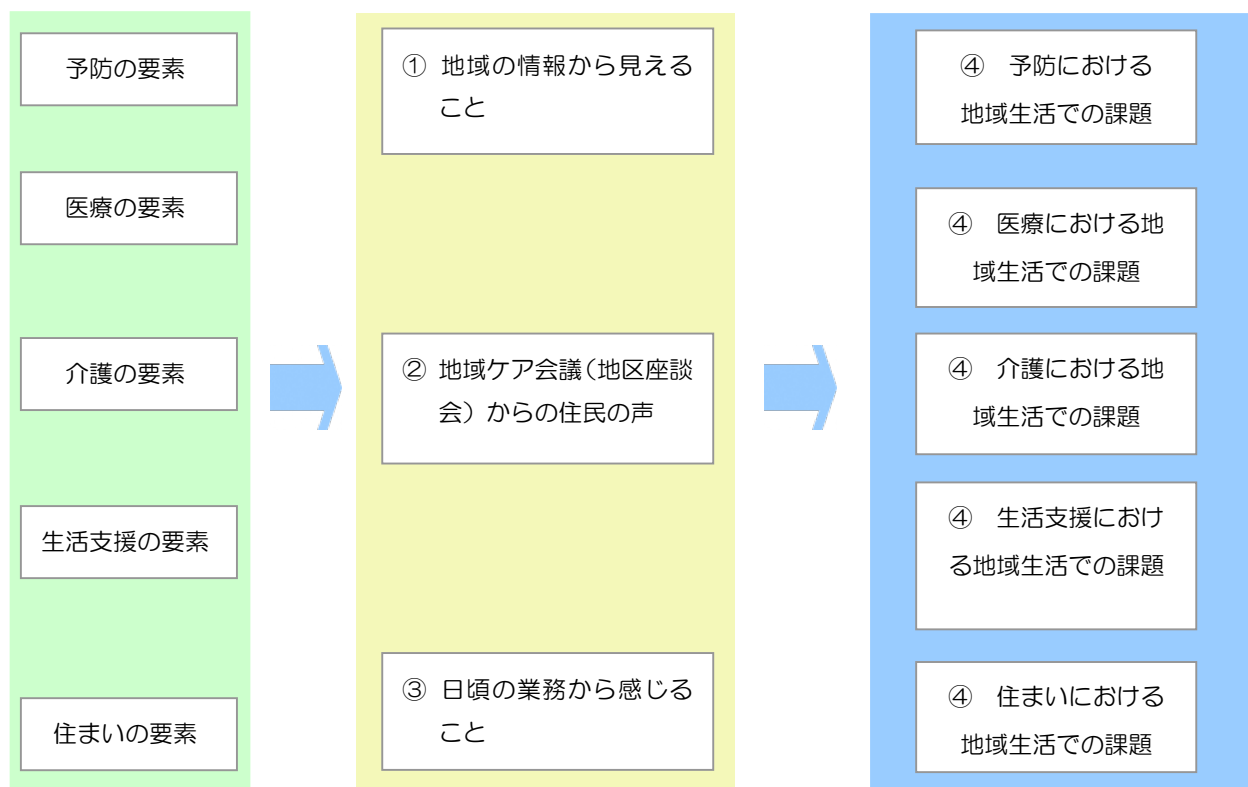
●生活の基盤として必要な住まいが整備され、本人の希望と地域包括ケアシステムの前提となる高齢者のプライバシーと尊厳が十分に守られる。

1 課題の抽出について

地域包括ケアビジョンを求めるにあたり、①地域の情報から見えること②地域ケア会議（地区座談会）からの住民の声③日頃の業務から感じることの3点から本市の5つの要素における④地域生活での課題を洗い出し、検討を行いました。

5つの要素における課題は、次のとおりです。

〔5つの要素の課題抽出プロセス〕



(1) 予 防

地域の情報から見えること（統計データ・アンケート）

- ・人口は減少するが、高齢者は増加しており、高齢化が進んでいる。
（高齢化率 H26：30.2%⇒H37：35.9%）
- ・地区別高齢化率は、地域によるばらつきがある。（H26 最大地区：42.3%、最少地区：22.1%）
- ・高齢者の10人に1人が認知症の症状を有している。（H26 認知症高齢者率 11.3%）
- ・健診の受診率が低い。（H22 受診率 石川県：37.1%、加賀市：31.2%）
- ・健診受診者で糖尿病の有病率が増えている。（H22：10.8%⇒H23：14.1%）
- ・糖尿病性の人工透析者数が増加している。（H7：13人⇒H23：73人）
- ・女性の飲酒・喫煙率が高い。（H22 喫煙率 石川県：5.5%、加賀市：8.7%）（H22 飲酒率 全国：7.5%、加賀市：8.2%）

<H26.3 実施アンケートより>

- ・「介護予防で行いたいこと」についての回答。 1位「筋力トレーニング」（783/1724人）、
2位「認知症予防」（699/1724人）
- ・「介護予防を行いたい場所」についての回答。 1位「自宅から近い公共施設」（523/1724人）、
2位「自宅・友人宅」（403/1724人）

<H26.7 実施アンケートより>

- ・「ふだんの日には主にどのようにすごしているか」の回答。1位「テレビ・ラジオ」（1248/2402人）

地区座談会から見えること（住民の意見）

- ・介護や病気になり家族に迷惑がかからないか心配。
- ・今後、どの程度人に頼らなければいけないのか分からないため心配。
- ・死ぬまで家で暮らしたいが、暮らし続けられるか不安。
- ・施設に入らず PPK（びんぴんころり）で生涯がおわればいい。
- ・認知症になりたくない。認知症にならないために予防できる取り組みがあるといい。
- ・健康にいられるように身体を大切にしていきたい。
- ・総湯に歩いて行き続けたい。 ・歩けなくなったら困る。
- ・車の運転ができなくなった時の交通手段が心配。
- ・畑が高齢者の方の生きがいや交流につながっている。
- ・要支援になる前の予防が大切。 ・お稽古事が盛ん。趣味が生きがいである。
- ・地域活動（サークルなど）が活発である。
- ・地域の高齢者同士のつながりが薄いように思う。
- ・高齢になるにつれ、外出機会が少なくなり、閉じこもりがちになる。
- ・身近に気軽に集まれるサロンを作りたい、参加したい。
- ・若者が市外で就職して帰ってこない。（働く場がない。）
- ・高齢世帯が増えており、今後、ますます近所付き合いが重要となる。
- ・サービスなどの情報を知らない。必要な情報が届いていない。

各課の業務から感じること

<生涯学習の視点から>

- ・子供から青少年、高齢者と対象範囲が広く、ピンポイントに対象を絞った事業がない。また、事業の達成度がわかりにくい。

<健康施策の視点から>

- ・新病院に健診センターができるが、保健センターとリンクできるところがあるか検討が必要ではないか。
- ・保健センターとの連携体制が大切である。（発症⇒治療 その後の重症化、再発予防にどう関わっていくことができるのか。）
- ・糖尿病の有病率が増えており、心臓病や脳卒中のリスクが高くなっている。

<介護予防の視点から>

- ・介護予防教室をしても送迎の問題で参加できない人がいる。
- ・予防教室終了後、ADL が低下する場合がある。
- ・住民主体のサークル活動もリーダーにお任せで負担が大きく、継続困難なサークルもある。
- ・予防の要素で事業化している課が5課あるがお互いに何をしているか知らない。
- ・心身の状態が悪くなってからの相談が多い。
- ・高齢者が集う場所（松風荘のような）が少なくなっている。
- ・65歳～74歳の元気な高齢者世代の役割や、活躍できる機会や就労の場がない。同対象の予防事業もない。空白の10年。

地域生活での課題

<住民主体の活動>

- ・地域ごとに意識の差があり、住民活動交流が活発(町単位)な地域とそうでない地域がある。
- ・サークルの後継者不足、新規加入者が増えない。
- ・行政と住民の協働による住民主体の体制や取組ができていない。

<役割・生きがい>

- ・全市民を対象にした生涯学習の事業の情報を提供しても、事業のポイントが絞られていないため参加率が低い。
- ・予防教室の終了後、生活の張りや生きがいにつながる取組に至っていない。
- ・若い時からの経験を生かす場(趣味に取り組んでいる人も多い)や特技がなくてもできることを担うような出番づくりがあるとよいのではないか。
- ・地域に関心を持ち、地域の中での役割に繋がる活動を支援する必要があるのではないか。
(子どもの安心・安全の居場所の提供、放課後子ども教室やまちの先生派遣事業に、地域の高齢者が参加することができないか。自分が必要とされていることが、生きがいと張り合いにつながり、不安の解消となり地域のつながりの強化になる。)

<地域で集う機会の充実>

- ・退職後、日常(休日)の過ごし方として地域の中で生きがいや役割(目標)を伴う活動機会が少ない。個々の過ごし方になっている。
- ・独居、高齢同居で日々に変化がない人も多い。

<移動手段と予防>

- ・何か活動したくても移動手段がない人も多いが、逆に、車に乗れる人は、移動手段が自家用車に偏ってしまい、生活の中であまり歩かない。

<情報の発信>

- ・情報が行き届いていない。活動自体はあるけれど知らない。
- ・認知症の正しい理解の不足など、正しい情報を周知できていない。

<住民意識>

- ・定年後の過ごし方では環境的にも便利になった面も多く、人に頼ったり頼られたりという意識を迷惑になると捉えている人が多い。
- ・介護が必要になったらおしまいという考えが大きい。(マイナス思考)
- ・市民は病気(認知症)にならない方法、予防法を知りたい。
- ・行政、地域住民同士の接点が少ないため、これからの暮らし方について等、考えが分からない。(取り組むヒントが分からない。)
- ・若者が働き手になっており、家にいる親の事を構う時間がない。

<行政の役割>

- ・心身の状態が悪くなる前の予防的な関わりができていない。
- ・健康課施策からの連動(つなげた関わり、保健推進員経験者→介護予防リーダーのような)や他課との連携した予防的取組が少ない。
- ・発症リスクごと、病気ごとの教室はあるが参加が少ない。(市が対象要件を区切っている。切り口を生きがい、社会参加にした方が興味がわくのではないか)

(2) 医 療

地域の情報から見えること（統計データ・アンケート）

<高齢者人口の増加>

※国立社会保障・人口問題研究所の統計より

- ・2025年に後期高齢者人口のピークとなる。（2015年：11,130人 → 2025年：14,109人）
- ・後期高齢者の割合は増え続ける。（2015年：16.2%→2025年：23.0%→2040年：25.1%）

<アンケート結果>

- ・長期療養が必要な場合にどこで暮らしたいか。（自宅：33.4% 病院：23.4% 施設：36.9%）
- ・余命6か月程度の場合にどこで暮らしたいか。（最期まで自宅：12.3% できるだけ自宅：26.6% 状態により自宅と病院等：28.2% 病院：17.4% 施設：8.3%）
- ・自分が病気や要介護状態になった場合のことを考えたことがあるか。
（60代：61.3% 70代：72.4%、80代：73.8% 90以上：53.7%）

<在宅医療に関する地域資源>※県医療計画の指標より

- ・看取りを実施している診療所数が多い。（人口10万人対：5.5（全国2.4））
- ・在宅歯科診療所数は少ない。（人口10万人対：1.4（全国3.2））
- ・24時間体制の訪問看護ステーションの従業員数が少ない。（人口10万人対：9.6（全国16.0））
- ・在宅死亡者数が少ない。（人口1万人対：11.6（全国15.3））

<救急医療体制>

- ・一時より改善したが市外への搬送が依然多い。（H21年：32.3% → H25年：17.6%）

地区座談会から見えること（住民の意見）

- ・高齢世帯、単身高齢者世帯の増加。
- ・介護してもらえない家族がいない。
- ・健康に対する不安（認知症、介護が必要となったら）
- ・家族がいても、迷惑や世話をかけたくない。
- ・病気になってもできるだけ住み慣れた家で暮らしたい。それができるか不安。
- ・家族であっても本音を言えない。
- ・何かあったときにどこへ相談すればよいか。
- ・近くに診療所があれば安心できる。往診でもよい。
- ・経済的な不安（年金、保険料、医療費、介護にかかる費用）
- ・24時間の医療体制の整備

各課の業務から感じること

<医療・介護の人材>

- ・病院勤務医、看護師等が不足により病院スタッフが疲弊している。
- ・在宅医（次世代を支える若い人）、ケアマネジャー、訪問看護ステーションの看護師などが不足している。
- ・訪問歯科診療を実施する医師が少ない。（訪問歯科診療のニーズが十分把握されていないことも一因）

<新病院への交通手段>

- ・通院手段について不安の声がある。

<市民の意識、理解>

- ・病気や要介護状態になった場合に、どのように暮らしたいかを考えているかどうか疑問である。
- ・活用できる資源、サービスの知識、理解が十分ではない。（周知啓発も十分ではない。）
- ・状態に応じた適切な医療・介護サービスを選択していない。病院志向の傾向がある。

<連携の強化>

- ・組織的な連携強化が必要である。（病病連携、病診連携）
- ・医療者同士の連携や医療と介護の連携をさらに図っていく必要がある。（顔の見える関係づくり）
- ・診療所の医師がかかえ過ぎるなど、必要なときに病院へつながっていない。
- ・薬の飲み残しが多い。（医療、薬、介護の連携）

地域生活での課題

<救急医療体制の強化>

- ・二次救急をできるだけ市内で受け入れる体制の構築が求められる。
- ・満床による受け入れ困難を避けるためには、市立病院（急性期）と慢性期病床との連携が必要である。
- ・在宅患者の急変の際に受け入れる等、病院側のバックアップ（支援体制）が必要である。（介護者の休息のため、レスパイト入院（一時的受け入れ入院）への対応も）

<在宅医療体制の強化>

- ・24 時間、365 日支えられる体制の構築が必要である。
- ・訪問歯科診療や口腔ケアの推進が重要である。
- ・在宅患者の服薬管理や指導（一包化など）の推進が必要である。

<医療、介護の人材の確保>

- ・新病院における医師の招へい。教育のできる病院の体制構築が必要である。
- ・看護師の養成、潜在看護師の発掘が重要である。
- ・訪問看護、ケアマネジャー、介護士等の確保、養成が必要である。

<医師の負担の軽減>

- ・病院の勤務医、診療所の医師に過度な負担がかからない体制でなければ持続困難である。
- ・コメディカル（看護師、技師等の医療従事者）の力で医師の負担を軽減できないか。

<市民への周知啓発>

- ・高齢者の在宅生活を支えるサービス、制度などを「知る」ための周知啓発や市民の意識改革が求められる。
- ・市民が「できること」、「できないこと」を正しく理解できるよう伝えていくことが必要である。
- ・状態に応じた適切な医療、介護のサービスを利用できるよう知ってもらうこと。病院は終の棲家ではないことを理解してもらう。
（例、急性期→回復期→慢性期→在宅や介護施設 など）
- ・市民が主体となって地域医療を守る取組、意識の醸成が必要ではないか。
（兵庫県「県立柏原病院の小児科化を守る会」、宮崎県延岡市「地域医療を守る条例」の例）

<連携の強化>

- ・患者の状態によって適切なタイミングでのバトンタッチができると良いのではないか。
（かかえ過ぎず病院へ。入院治療が終われば、かかりつけの診療所へ）
- ・医療関係者同士、医療と介護の職種間の連携を深めていく取組が重要である。
- ・患者・利用者の情報の共有。多職種での連携、情報共有の手法について検討が必要である。

<公共交通体系の整備>

- ・各地域から統合新病院へ、地域内での移動（買い物、診療所への受診など）のための公共交通体系の整備が求められる。

(3) 介 護

地域の情報から見えること（統計データ・アンケート）

- ・人口は毎年 1,000 人規模で減少する。
- ・65 歳以上の人口 21,376 人、高齢化率 30.2%である。(H26.4)
- ・65 歳以上の 11.3%が何らかの認知症の症状を有している。(H26.4)
- ・認定者のうち 85.7%が 75 歳以上 (H26.4)。
- ・「認知症」、「筋骨格系疾患」、「骨折」、「脳卒中」が介護を必要とする原因要因の上位を占める。
(H23 年度下半期の新規申請者 697 人の 56%)
- ・基本チェックリスト返答者の 34.9%に生活機能の低下がある。
- ・要介護状態や認知症になっても、地域での生活（高齢者が自宅やバリアフリー住宅への住み替え等）を希望している人の割合が約半数である。(54.7%)
- ・要支援の 27.0%がサービス未利用者である。
- ・要支援認定者の訪問介護内訳の 7 割が生活援助である。
- ・送迎付きで高齢者向けの通いの場がない。
- ・介護サービスを利用しているが、実際の介護の方法や認知症状への対応が分からないという意見がある。
(23.6%)
- ・要支援訪問介護利用者の大半が生活援助を利用している。(要支援 1：85.7%、要支援 2：62.6%)
- ・介護保険制度について住民への周知が不十分である。('制度は分からない内容が多い'他含め 75.6%)
- ・介護者は可能な限り在宅介護を希望している。
(「できるだけ長く在宅」33.9%、「長く在宅でゆくゆくは施設」43.9%)

地区座談会から見えること（住民の意見）

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・妻が亡くなった時ごはんが作れない。 ・一人になったら子供のいる都会へ出たい。 ・近くで集まれる場所づくり（サロン）をしたい。 ・畑作業は生きがいや、認知症予防になる。 ・先祖の財産（家、田畑、墓）を守りたい。 ・介護施設が多くて保険料が高くなるのではと心配。 ・近所付き合いは必要と思うがどうすればいいか。 ・健康な今の状態をずっと持ち続けていきたい。 ・介護の世話には絶対になりたくない。 ・もしもの時に誰が助けてくれるのか。 ・必要時、気軽に見守ってくれる人がいるか不安。 ・子供が遠方にいるので誰が親を看ってくれるか心配。 ・雪かき、草むしりがいつまでできるか心配。 ・死ぬまで自分の家で暮したい。 ・独居老人になった場合の頼れる機関があるか心配。 | <ul style="list-style-type: none"> ・要介護 1・2になる前の予防が大切。 ・家族に迷惑をかけたくない。 ・家族でも本当のことを言えない。 ・必要な情報が届いていない。 ・わがままの言える介護施設がいい。 ・意欲のある高齢者が多い。 ・車が乗れなくなっても外出できる手段がほしい。 ・若者が地元に戻ってこない。(働く場がない。) ・高齢者は地域とのつながりが強い。 ・少子高齢化で、介護してくれる人が不足する。 |
|--|--|

各課の業務から感じること

- ・事業所間の法人を超えた繋がりが強い。
- ・入浴や移動の問題で介護申請する人が多い。
- ・友人がデイサービスに通っているから自分も行きたいという理由で介護申請をする人が増えた。
- ・認知症が重症化してからの相談が多い。
- ・家族や地域が限界を迎えてからの相談が多い。
- ・相談時には既に地域との関係が途切れたり、悪化している場合が多い。
- ・高齢になってから新たに地域との関係を構築していくことが難しい。
- ・男性の地域活動・社会参加が少ない。
- ・公共施設がバリアフリー化されていない。
- ・かかりつけ医に介護の情報を届けられていない。
- ・高齢者自身が地域で活動できる場所や機会がない。
- ・自主的な住民活動が活発な地域もある。
- ・家族の介護負担が大きくなり施設入所となる場合が多い。
- ・既存サービスの内容に本人の生活を当てはめた支援になっている。

地域生活での課題

<現状把握>

- ・少子高齢化により、一人暮らし高齢者や高齢のみ世帯が増加。介護認定者を受ける人も増え、老老介護・認認介護（認知症の人が認知症の人を介護する）の問題が深刻になっている。
- ・高齢になるほど介護の問題を直視できていない。

<介護者支援>

- ・介護者（家族等）に対する支援方法が限定的で、介護サービス利用時以外の介護者の身体的・精神的な負担が軽減できていない。
- ・介護サービスを利用している家族が介護の方法を知らない。専門職が介護者を含めたチームとして本人を支えるという意識が薄い。
- ・家族の負担が大きくなり在宅を諦める状況にある。たとえ一人暮らしでも対応できるような介護サービス（安心感）であれば家族負担の軽減が可能である。

<生活支援>

- ・「介護」が必要となる手前の基本的な「生活支援」に対する支援方法がない。
- ・“交通手段”が確保できなければ日常生活全般に支障が生じる。

<サービスのあり方>

- ・緊急時対応を含めた 24 時間 365 日の自宅での生活を支える安全・安心の仕組み（体制）が不十分である。
- ・介護サービスの利用目的が本人にとっての「楽しみ」ととどまっており自立支援につながっていない。（手段の目的化）
- ・制度の枠に縛られたこれまで通りのサービス提供では、個々の生活を支えることが困難である。
- ・ケアに人が合わせるのではなく、人に合わせて必要なケアを提供する仕組みが必要である。（既存サービスの多様化が求められる。）

<地域活動の充実>

- ・高齢となる前から地域活動に参加していくための仕組みがない。
- ・高齢者自身が地域で活躍できる場所や機会がない。
- ・地域の取組や活動を行政が把握・共有できていない。

<相談体制>

- ・介護や認知症になる手前の早期の“出会い”ができていない。
- ・気軽に相談できる地域の窓口の拡大が求められる。

<情報発信>

- ・多くの市民が介護保険制度の内容を知らずに保険料を徴収されおり、住民への周知ができていない。
- ・介護経験のない人の方が「介護は大変」というイメージが先行しており、施設入所の意向が高くなっている。介護の情報や知識を正しく伝えていく必要がある。
- ・身近な相談先であるかかりつけ医に介護の情報を届けられていない。医療から介護への連携が不十分である。

(4) 生活支援

地域の情報から見えること（統計データ・アンケート）

- ・人口は毎年 1,000 人規模で減少している。(H26：70,885 人⇒H37：58,893 人)
- ・高齢者数の増加が見込まれる。(H26：21,376 人⇒H30 年：22,357 人⇒H37：21,127 人)
- ・一人暮らし高齢者世帯数が増加している。(H20：3,944 世帯⇒H25：4,718 世帯)
- ・65 歳以上の 11.3%が何らかの認知症の症状を有している。
- ・生活保護受給世帯数、人数が増加している。(H20：603 世帯 725 人⇒H25：736 世帯 866 人)
- ・被後見人の人数が増加している。(H14：9 人⇒H24：112 人)
- ・要支援認定者の訪問介護内訳の 7 割が生活援助である。
- ・農業の担い手である認定農業者が約 270 戸、約半数が 60 歳以上。水稻作農家は約 1,000 戸。高齢化、農業機械の故障・老朽化を契機に、年に 20～30 戸が離農している。
- ・タクシーと路線バスの料金比較 大聖寺駅～山代温泉東口（タクシー約 2,300 円、路線バス 320 円）
- ・バス路線が廃止されている。(11 路線⇒3 路線 (H20.5) ⇒4 路線 (H26.4))
- ・米価が下落している。(H23 15,836 円/60 kg⇒H25 12,366 円)
- ・生産コストは上昇している。(H23 1,421 千円/戸⇒H25 1,516 千円/戸)

＜アンケートより＞

- ・日常の動作で不自由又は出来ないことは、「調理」、「ごみ出し」「住居内の掃除」との回答が多い。
- ・日常生活で支援をお願いする際、どのような手助けがあればよいかは、「日常生活の困りごとの相談窓口の設置」「解決や手助けを行う人材の配置」との回答が多い。
- ・高齢者介護のあり方について、どのように考えているかは「本人や家族、国や地方自治体、地域住民の支え合い、すべての取組が必要である」との回答が一番多い。
- ・介護保険制度について「よく知っている、だいたい知っている」が24.4%にとどまっている。

地区座談会から見えること（住民の意見）

- ・息子が今は東京に居るが将来は帰ってきて欲しい。
- ・人の手を煩わすようにならないか、子供に迷惑をかけるのではないか。(近所にも)
- ・江堀人夫。(山刈り・草刈り)(義務感で行っているわけではなく、リクエーション的な活動)
- ・若い人が減って、町内行事ができない。
- ・昔はバスが通っていたが、今は乗り合いタクシー。
- ・(将来妻に先立たれたとき)食事はどうしたらよいか。
- ・家の周りに草が生え家も汚くなってしまうまいか。
- ・先祖の財産(家、田畑)を守りたい。
- ・町の中で何かあると通報してくれる(区長)。
- ・年金で生活できるのか。
- ・どこに相談すればいいか。
- ・地域に銭湯がなくなったので、今後の地域の資源がなくなるかとも思うと日常生活に不安がある。

各課の業務から感じること

＜地域福祉の視点から＞

- ・権利擁護など、困りごとが深刻化してからの相談が多い。
- ・非正規労働者や、低年金者が増えているのか生活困窮のリスクが高い層が増加しているように感じる。

＜まちづくりの視点から＞

- ・地域の世話人の有無により、高齢者サロンなど地域活動の活発さに違いがある。
- ・生活支援の仕組みを作っても、顔が見える関係性が地域にないと、仕組みがうまく機能しないと感じる。

＜交通の視点から＞

- ・分散した都市で、車が無いと不便だが公共交通が少ない。
- ・乗合タクシーは、地域で世話をする人の後継者がいない。
- ・近所や知り合いで送ってくれる人がいないのか、乗合タクシーを整備しても、一人で利用することが困難な人（認知症や歩行など）が多い。
- ・バスがあれば乗合タクシーよりバスを使う傾向がある。

＜農業の視点から＞

- ・米価の下落、生産コストの高騰など厳しい状況である。現在耕作されている農地は、今後誰が管理、耕作していくのか、後継者が心配である。
- ・認定農業者もいるが、農業者の高齢化が進んでいる。
- ・町内単位で農業運営組織を作っても高齢者が多い。
- ・生きがいとして農業に取り組めるとよいと感じる。

＜高齢者担当からの視点＞

- ・高齢者の困りごとを解決するため、その家族への支援も必要だが、高齢者担当だけで解決できない。
- ・近所で支援してくれる人がいても、金銭管理までしてくれる人はいない。
- ・介護より日常生活の支援に対する不安が多いように感じる。
- ・緊急時の対応に不安を感じている人が多いように感じる。

地域生活での課題

<家事支援>

- ・アンケートでの回答や座談会での意見から、家事に不安があるとの意見が多くみられることから、移動販売などの家事支援をしていく必要がある。
- ・農業者が減少しており、10～15年後には高齢により離農する農業者が急増することが予想される。農業を就労、生きがい、役割づくりとして利用できないか。また買い物ができない人のために、自宅の近くの畑で直接農作物を購入できることができないか検討する価値がある。

<交通手段の問題>

- ・バスや乗り合いタクシーを一人で利用することが困難な人の通院や買い物にどう対応するかが課題である。利用できるよう工夫、移送の確保、付き添い、同行、待合の工夫で対応できないか検討が必要である。

<情報提供の仕組みづくり>

- ・成年後見の市長申立の件数が増加しており、認知症との診断を受けている人も多いことから、これからの暮らしの備えとして、本人がどう暮らしたいかを考えて記録しておくことが必要であり、判断能力の低下が進む前に成年後見制度の早めの普及啓発が必要である。

<本人主体>

- ・行政のサービスやメニューが地域の実態に即しておらず使いづらいため、地域の実態を把握して対象要件の緩和など地域の実態に合わせたかたちにする必要がある。
- ・困りごとの相談を受けた際に、解決につながるサービスがあっても、その情報を知らなかったり、介護保険制度でもあまり知られていなかったりする。フォーマルサービス、インフォーマルサービスを問わず、本人に提供できる情報を一元的に管理してつなぐ仕組みが必要である。

<住民主体>

- ・住民が主体となって、事業所、行政と一緒に福祉行政を進める際には、住民で考えるための支援が必要である。例えば、地域の世話役となるリーダー的な人と一緒に取り組む支援が必要である。
- ・各課担当者の現在業務からも、様々な不安を抱える人がいることがわかる。現在業務の評価改善にあたり、市職員の意識が運営の効率化に向いているように感じられ、市民生活の不安を和らげることや取り除くための目的・ねらいを今一度明確にしたうえで、今後どのように取り組むかを考えられていないのではない。

<生活困窮者>

- ・生活困窮者自立支援対策として、生活保護に至る前の段階の自立支援策の強化を図る必要がある。

<相談体制>

- ・座談会の意見では、介護よりむしろ日常生活の困りごとに対する不安の方が多い。アンケートからも困りごとの相談窓口の設置が望まれており、地域の身近なところで相談できる拠点や機会が必要である。
- ・生活支援の内容が複数の課にまたがるため、庁内各課で一緒に考える必要がある。

(5) 住まい

地域の情報から見えること（統計データ・アンケート）

- ・人口は毎年 1,000 人規模で減少する。（H26：70,885 人⇒H37：58,893 人）
- ・一人暮らし高齢者世帯数が増加している。（H20：3,944 世帯⇒H25：4,718 世帯）
- ・地区別高齢化率は地域によるばらつきがある。（最大地区：42.0%、最小地区：22.1%）
- ・地区ごとの高齢化率で、各圏域の中で中心地となる地区でも高い。
（大聖寺 31.1%、山代 29.2%、片山津 32.7%、山中温泉地区 40.0%）
- ・介護認定者のうち認知症高齢者の割合が 49.1%となっている。
- ・市営住宅のバリアフリー化の整備状況が 40.8%である。（平成 25 年 4 月、全 456 戸中 186 戸）
- ・市営住宅入居者の高齢者の割合が 51.1%である。（平成 25 年 4 月、587 人中 300 人）
- ・市営住宅の入居世帯（374 世帯）のうち高齢者を含む世帯は 69.5%（260 世帯）である。また、高齢者のみの世帯は 57.8%（216 世帯）、高齢者単身の世帯は 47.3%（177 世帯）である。（平成 25 年 4 月）
- ・持ち家率は 73.9%である。（平成 22 年国勢調査）
- ・空き家件数は 1,156 件である。（平成 20 年消防調査）

地区座談会から見えること（住民の意見）

- ・病気になりたくない。
- ・病気になったら誰に面倒をみてもらうか。
- ・食事作りが心配。
- ・雪かきや草むしりがいつまでできるか心配といった生活についての意見が見られる。
- ・交通の便が悪いので、運転ができなくなったとき、不便。
- ・病院へ行くときの交通手段が今後あるか不安。
- ・家の周りの手入れができなくなる。
- ・家の周りに草が生え、家も汚くなってしまわないか。
- ・空き家が増えてきている。
- ・空き家が増えて心配。
- ・シェアハウスの老人用があればよい。
- ・空き家対策としてシェアハウスを活用できるとよい。
- ・残った家の始末を子供がしてくれるか。
- ・自分達がいなくなった後の自宅の管理・処分は？

各課の業務から感じること

（市営住宅の視点から）

- ・市営住宅の入居者に占める高齢者の割合が高く（65 歳以上 51.1%）、入居者の年齢層が高くなっている。高齢化に伴い共有部分の清掃やごみ当番など自治会組織としての運営が年々難しくなっている。
- ・低家賃のため、高齢者のアパートからの住み替え希望者が多いが、市営住宅にはエレベーターがなく、現状では入居後数年で再度住み替えが必要になっている。
- ・市営住宅入居継続のまま入所や長期入院する高齢者が増え、住宅が荷物置き場化している。退院後の行き場がないという不安からか、なかなか退去には結びつかず、他の住宅困窮者への住宅斡旋ができないでいる。
- ・連帯保証人の条件を満たす人を見つけられないため、低所得の住宅困窮者が市営住宅を含めた賃貸住宅に入居できない。
- ・身寄りがない市営住宅入居者が亡くなった場合、家財道具の処分に困っている。（費用負担と処分の判断）
- ・加齢等で判断能力が低下してしまうと、収入申告や明け渡し等、市営住宅に係る様々な手続きが本人の力だけではできなくなる場合がある。
- ・市営住宅は常に入居待機の状態だが、人口減少と単身高齢者世帯の増加により今後ますます空き家が増えていくと考えられる。

（高齢者福祉の視点から）

- ・住宅改修は介護認定がないと利用できない。
- ・温泉街の住宅にお風呂がなく住宅改修を利用できない。
- ・住まいではなく、住まいを取り巻く環境や生活支援が重要である。
- ・2階から1階への住み替えなど、相談があっても支援策がない。

地域生活での課題

<市営住宅について>

- ・持ち家のない年金生活者にとっては、加賀市内で住居を探す場合、選択肢が家賃の安い市営住宅になってしまうのが現状である。市営住宅でバリアフリー化されているのは4割であり、エレベーターもないことから、高齢者が安心して住み続けられる住環境になっていない。また、市営住宅の入居者も高齢化していて、共有部分の管理やごみ当番などに支障が出ている。

<空き家について>

- ・空き家を管理する人がいないため、草刈りや雪かきなどがされないだけでなく、周辺住民へ防犯防火上も不安を与えている。利用できる空き家を利用したい人に情報提供し、つなげる仕組みができるとよい。
(賃貸契約時の連帯保証人について)
- ・市営住宅に限らず住宅の賃貸を希望した場合、ほとんどが連帯保証人をたてるよう求められるが、一人暮らし高齢者や収入の低い高齢者は連帯保証人の条件を満たす人を見つけることが困難で、希望する住宅に入居できていない。

<どんな状態になっても>

- ・単身高齢者世帯が増加していることから、入居者や家屋の所有者が、亡くなる前や判断能力が低下する前に契約や財産処分をどのようにするか考えておくことが必要で、後見人制度を活用するための周知も不十分である。

<住まい方の工夫>

- ・住み慣れた家に住み続けるためには、住まいというより交通などの住まいを取り巻く環境や雪かきなどの生活支援が重要である。

<制度について>

- ・住宅改修を利用しようとしても、介護保険の認定がないと利用できず、認定に至る手前の人に対応できていない。また、もともとお風呂がない住宅には住宅改修が利用できない。

<住み替え>

- ・本人が住み替えを希望しても、支援する方法がない。

3

5つの要素の現状と課題のまとめ

介護や支援が必要な高齢者は、住みなれた地域で暮らしたいと願っていても、現実には多くの高齢者が自宅から離れた施設への入所を選択せざるを得ない状況にあります。その理由は、地域に365日24時間の安心を得るためのサービスや取組がないことが挙げられています。

5つの要素における地域生活での課題を整理したところ、行政、民間事業者、各種団体により生活支援に資するサービスが、各々で行われていることが明らかになりました。

さらに、それらのサービスや取組の情報が必要な人に十分に届いていない実態も見えてきました。必要な人に必要な情報を届け、必要な支援につなげることが重要になります。

また、地域によっても社会資源に差があり、例えば路線バスの運行でも地域により、バスが通る地域と通らない地域があったり、医療機関においても、診療所がある地域とない地域があります。その地域にバス路線や医療機関をすべて設置することは困難です。どの地域に住む高齢者に対しても5つの要素が満たされるような支援が求められます。

高齢者が住みなれた地域で生活を継続できるように、市の区域を分割した「日常生活圏域」を設定し、専門職、介護事業者、行政だけではなく、本人や家族、町内会等の住民組織や商店などすべての住民が関わりをもつ、各地域の特性に応じた加賀市版地域包括ケアシステムの構築に取り組みます。

平成 19 年 3 月に策定された『加賀市総合計画』においては、加賀市に 7 つの地域拠点「大聖寺/山代/片山津/橋立/動橋/作見/山中」を位置づけ、周辺地区の都市機能を補完し、地域全体の快適な生活環境が確保できるように基盤整備を推進することとしています。

『加賀市総合計画』における 7 地域拠点（20 ページ参照）と整合性をとり、日常生活圏域は、次の 7 圏域としています。さらに、圏域を細分化した、まちづくり推進協議会単位の 21 地区を基本として、地域の現状や資源の把握を行いました。

〔日常生活圏域区分〕

圏 域	地 区
大聖寺圏域	大聖寺地区・南郷地区・三谷地区・三木地区・塩屋地区
山代圏域	山代地区・勅使地区・東谷口地区・庄地区・別所地区
片山津圏域	片山津地区・金明地区・湖北地区
橋立圏域	橋立地区
動橋圏域	動橋地区・分校地区
作見圏域	作見地区
山中圏域	山中温泉地区・河南地区・西谷地区・東谷地区

〔日常生活圏域図〕



5

地域の状況

市民から地域包括支援センターへの相談内容の地区分析を見ると、山中温泉地区や南郷地区では、生活支援に関する相談が件数全体の 25%を超えている一方で、医療に関する相談は、5%程度になっています。これに対し、東谷口地区では生活支援に関する相談が 2.8%にとどまる一方で、医療に関する相談は、30%近くを占めています。また、相談件数の比較については、人口規模の大きい山代地区で、件数の合計が 1,200 件を超えるのに対し、塩屋地区では、合計でも 60 件程となっています。このように、相談ひとつをとっても、地域により、内容も量にも差異があることから、すべての地域を一律に考えるのではなく、各々の状況に応じた取り組みが必要なのは明らかです。

地域特性に適したサービスの充実の一助とするため、地域の状況として、高齢者に関する地区ごとのデータを圏域別にまとめ、参考資料で示します。

1

加賀市の目指すべき姿の基本的な考え方

本市では、総合計画を策定し、その考えに基づき分野ごとに個別の事業を行っています（3ページ参照）。しかし、地域での暮らしの継続に資する地域包括ケアシステムの構築においては、「予防」、「医療」、「介護」、「生活支援」、「住まい」の要素の取組をそれぞれの担当課が個別に地域に働きかけをしているだけでは実現できません。すべての取組は、そこに住む高齢者や住民のために行っていることであり、まずは、このような資源を有機的に活用する仕組みやつなぐ支援により地域での暮らしの充実を図る必要があります。また、地域での一人ひとりの暮らし方が異なるため、本人中心の視点が5つの要素の取組の核となります。

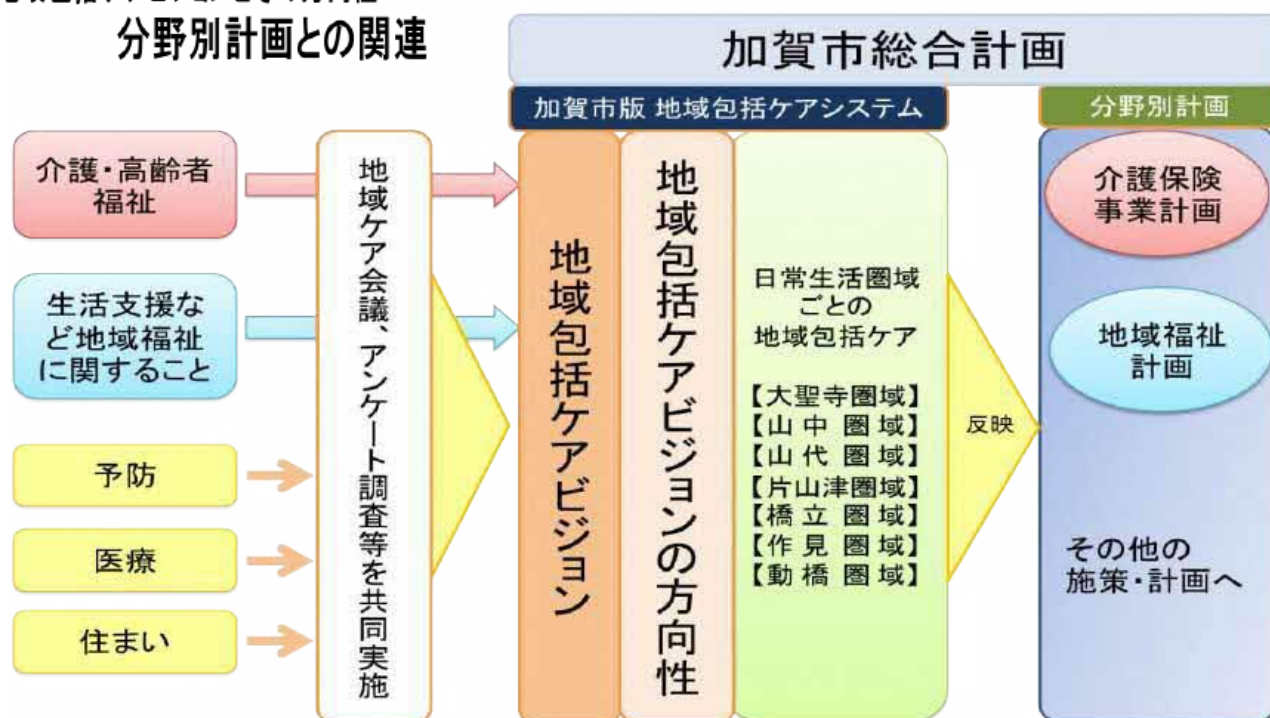
分野ごとの個別事業を本人の自宅や、地域での暮らしに必要なサービスとして届けるために、5つの要素の目指すべき姿を明確にする「地域包括ケアビジョン」を策定し、さらには、そのビジョンを具現化するために意図を示しました。

また、24時間365日の一人ひとりの望む暮らしは、公的サービスだけでは実現できません。そのためには、自らが考え、決定し、行動することが大切です。さらに、一人ひとりが地域で生活する住民であることを自覚し、地域のことを自らのこととして捉える必要があります。「地域包括ケアビジョン」を地域に推進していくためには、上記のような本人主体と住民主体を軸にし、様々な社会資源やネットワークを活かすことが必要です。

地域包括ケアシステムの構築には、市内だけでなく地域の住民や関係団体、事業者とも基本的な考え方を共有し、地域ごとの特性を活かした活動の展開が求められます。

本市では、加賀市総合計画に基づく各実施計画の施策に、地域包括ケアビジョンとその方向性の考えを反映させ、各計画書を加賀市の目指すべき姿を実現するための宣言書とします。

地域包括ケアビジョンとその方向性 分野別計画との関連



本市においては、加賀市版地域包括ケアシステムの構築にあたり、システムを構成する5つの要素の目指すべき姿を求めた「地域包括ケアビジョン」を次のとおり定めます。

〔地域包括ケアビジョン〕

「予防」	誰もが自らの将来に関心を寄せ、健康の維持・増進に取り組み、身近な地区の中で、生きがいや居場所のある今日と同じ明日を迎えることができるまち
「医療」	どんな環境や場所にいようと、住みなれた自宅や地域において、生活に沿った最適な医療により、最期まで本人の望む生活が続けられるまち
「介護」	本人の人生やこだわりに寄り添い、最期まで尊重し、「できる力」を活かしながら住み慣れた地域で歩み続けることができるまち
「生活支援」	本人の望む暮らしの実現のために、向こう三軒両隣のお互いさまの関係の中で、持っている力を発揮し、さらなる助け合いが生まれるまち
「住まい」	誰もが、最期まで住みたいところに住み続けることができるまち

〔地域包括ケアビジョンの方向性〕

「本人主体」	私らしくあり続けることを大切にし、共に考え、認め合うことができるまち
「住民主体」	「自分たちのまちは自分たちで」をモットーに、自らの決定に責任をもち、住民、行政、事業者が協働し、支え合える地域づくり
「圏域単位で予防・医療・介護・生活支援・住まいの5つの要素が一体的に提供されるもの」	これまでのつながりや関係を大切にし、本人や地域の力を活かし、暮らしを継続するために、「本人主体」と「住民主体」を基本的考えとし、地域ごとのランドデザインを描くこと

この地域包括ケアビジョンは、総合計画の施策の柱である「ともに支えあう健康で豊かなまちづくり」と合致しています。

加賀市版地域包括ケアシステム

“本人の暮らし”に視点を当てた5つの要素を一体的に提供するための
住民・事業者・行政の協働による地域づくり



地域包括ケアビジョンとその方向性の意図は、26～28 ページのとおりです。

上図は、縦軸で先に示した5つの要素の目指すべき姿を表し、横軸で5つの要素をつなぎ、地域包括ケアビジョンを地域で推進するための共通方針を表しています。

また、17ページの課題で述べたように、例えば、医療機関がない地域でも、訪問診療や地域での支え合いによる通院支援によって、医療の要素が本人に届けられるような地域づくりを目指すことが加賀市版地域包括ケアシステムの構築につながります。

加賀市版地域包括ケアシステム

(加賀市地域包括ケアシステム)

ともに支えあう健康で

～病気になっても、介護が必要になっても、たとえ認知症になっても～



予防の目指すべき姿 (予防のビジョン)

誰もが自らの将来に関心を寄せ、健康の維持・増進に取り組む、身近な地区の中で、生きがいや居場所のある今日と同じ明日を迎えることができるまち

〈ビジョンの意図〉

- 若いころから健康への意識をもつことが、生活習慣病の予防である。
- 自らの健康に配慮できるのはまず自分である。常に頭の片隅に養生する意識を持つこと。
- 健康を維持するためには、役割や目的を持つことが大切である。
- 予防することが目的ではなく、日常生活の延長で目的や目標に向かっていく行動や取組みをすることが予防につながる。
- いわゆる校下程度の顔なじみのエリアの中で、日常の延長線上として暮らす範囲である。
- 生きがいや居場所とは、自分のペースでいたいことができること。
- 今日と同じ明日とは、一人ひとりにこれまでの暮らしがあり、それが不安なく続いていくこと。
- 自らの最期をどのように迎えるかを考え、備えておくことが必要である。



医療の目指すべき姿 (医療のビジョン)

どんな環境や場所にしようと、住み慣れた自宅や地域において、生活に沿った最適な医療により最期まで本人の望む生活が続けられるまち

〈ビジョンの意図〉

- 住んでいる場所や状態によってサービス内容が変わるのではなく、どんな環境や場所にしようとも必要な医療が届くことが大切である。
- 生活を支える医療は、医師・看護師等の医療職だけで完結できるものではない。
- 地域での暮らしを支えるためには、本人、家族・介護者をはじめ、医療職、介護職などの多職種が医療の旗のものと本人の生活の継続に向けて協力することが大切である。
- 医療は切り離されたものではなく、生活の一部である。
- 病気に対する不安は誰にでも常にある。本人にとって必要な時に必要な情報が届くことが大切である。
- 重症化しても、本人の声にならない声に耳を傾け、自己実現に向けた支援をあきらめないこと。
- 人によって価値観・人生観は異なることから、人生の最期の迎え方を含め、自分で選択し、決定できることが本人にとっての最適な医療である。
- 本人が置かれているすべての状況に目を向け、24時間365日途切れることなく連続する生活があることを理解すること。

介護の目指すべき姿 (介護のビジョン)

本人の人生やこころの思い、最期まで尊厳を活かしながら、安心して生活できるよう支えあうまち

〈ビジョンの意図〉

- 介護が必要となって大限に活かしながら、ではなく、必要なところまで支えあうことが介護である。
- 本人を支えるために本人を一番身近で支えることが、本人支援である。
- 生活は、本人が主人の人、専門職は、本人の走者である。
- 重度化しても、本人を傾け、自己実現に向かい合うこと。
- 本人が置かれている状況、24時間365日途切れることなく生活があることを理解すること。
- 過去、現在、未来と自宅や地域の一人として支えあうこと。
- 人生の主人公とは、きた道（生活スタイル、思い等）を大切にすること。
- 認知症や身体機能の低下を生活する一人の「生活」と受け止め、支えること。

ムとして目指すべき姿

括ケアビジョン)

豊かなまちづくり

になっても住みなれたまちで暮らし続けるために～



目指すべき姿 (ビジョン)

「だわりに寄り添
重し、「できる力」
、住み慣れた地域
とができるまち

の意図>

も、本人の持つ力を最
できることを奪うので
のみ周囲が手を貸すこ

は、本人だけでなく、
える家族・介護者を支え
こつながるものである。
公である。家族や地域
、の生活を下支えする伴

の声にならない声に耳
けた支援をあきらめない

すべての状況に目を向
途切れることなく連続
を理解すること。
続く暮らしを理解し、
ての生活が担保・尊重

これまで本人が生きて
マイル、楽しみ、こだわ
し、それが尊重される

低下によらず、地域で
居る者＝人」として、丸ごと

生活支援の目指すべき姿 (生活支援のビジョン)

本人の望む暮らしの実現のため、向こう三軒両隣のお互いさまの関係の中で、持っている力を発揮し、さらなる助け合いが生まれるまち

<ビジョンの意図>

- 本人がこれまでの人生中で培ってきた人間関係を活かし、向こう三軒両隣のお互いさまの関係を通じて、提供する側、される側といった一方通行ではない双方向の関係づくり。
- 地域の中には役割と義務がある。一人ひとりの生きがいや役割、仕事づくりを通して自らの持っている力を発揮する。
- 頼り合い、その人のできる範囲で互いの生活に不足するちょっとしたことを担いあう、お互いに「助けて」と言える地域。
- 地域の主人公は住民である。地域住民の声に耳を傾け、自らのまちを自らが考える。
- 「住民」「事業者」「行政」がパートナーとして協働で地域のことを考え取り組む。
- 地域みんなが、地域みんなので、地域のみんなの生活を支える。



住まいの目指すべき姿 (住まいのビジョン)

誰もが、最期まで住みたいところに住み続けることができるまち

<ビジョンの意図>

- 自分が選んで住みたいところに住み、暮らし続けられること。
- 生活の拠点であること。
- 身体機能の低下、認知症の発症、年齢、経済力、どんな状態になっても住まい続けることができること。
- 自分にとって「帰ることができる場所」として、存在し続ける場所になること。
- すべての市民が、プライバシーが保たれ、ほっと一息落ち着ける場所が確保されること。
- 本人が主（あるじ）として過ごすことのできる居場所。



地域包括ケアビジョンの方向性

本人主体

「私らしくあり続けることを大切にし、共に考え、認め合うことができるまち」

意図

- その人の歩んできた人生や、価値観を尊重し、その人の思いを理解しあい、本人の暮らしに応じた支援を行い、本人が望む暮らしを応援する。



住民主体

「自分たちのまちは自分たちで」をモットーに、自らの決定に責任をもち、住民、行政、事業者が協働し、支え合える地域づくり

意図

- 地域の課題を自分ごととしてとらえ、我がまちをつくるのは自分たちであるという意識を持つ。
- 住民自身が担い手となり、自分たちで決めたことには、その結果に責任を持つ。
- 自主的な活動をけん引するリーダーと支える仲間がいる。



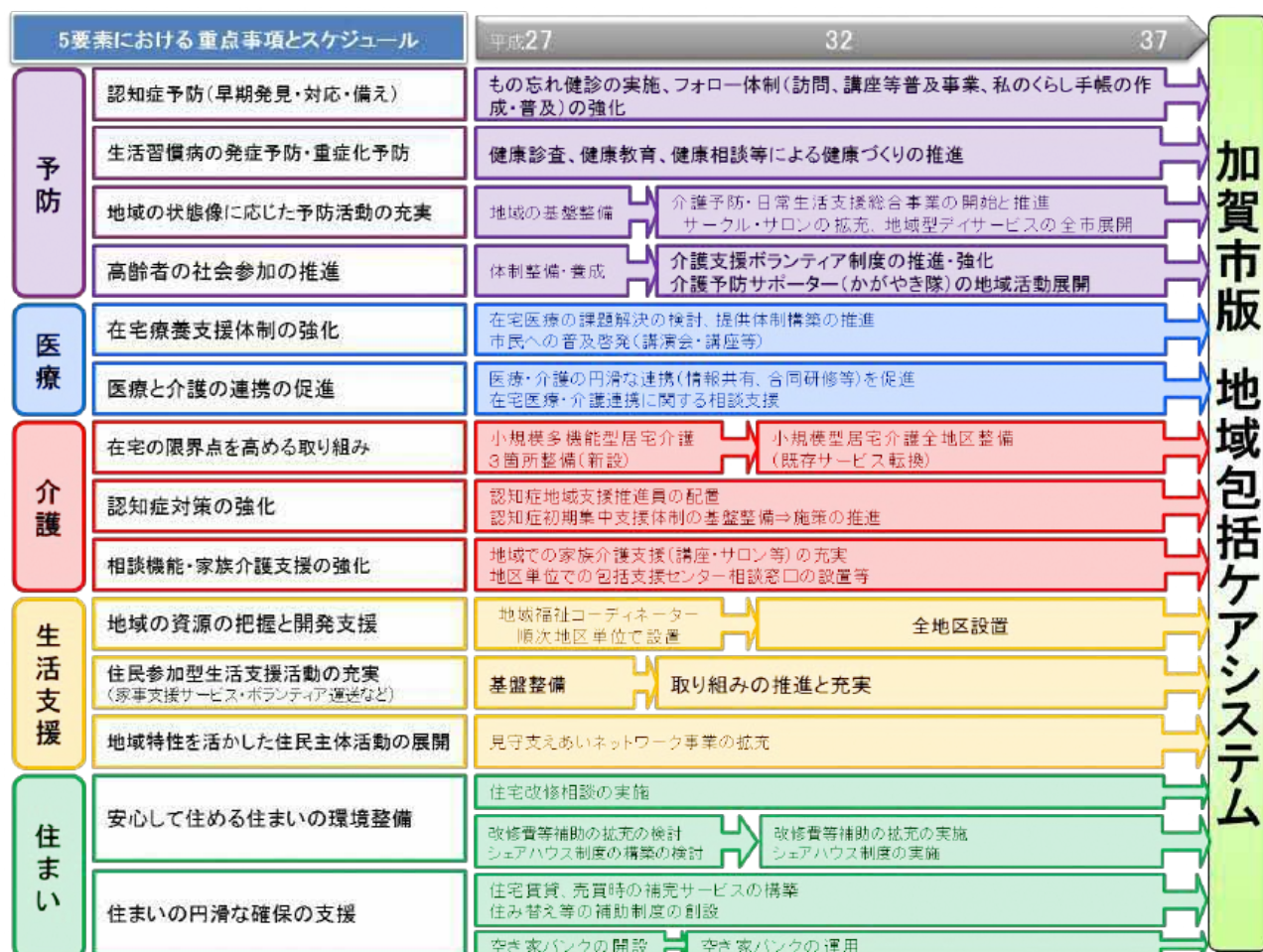
圏域単位で予防・医療・介護・生活支援・住まいの5つの要素が一体的に提供されるもの

これまでのつながりや関係を大切にし、本人や地域の力を活かし、暮らしを継続するために、「本人主体」と「住民主体」を基本的考えとし、地域ごとのグランドデザインを描くこと

意図

- 本人主体、住民主体は当事者視点の“言葉”。一体的提供とは、要素の組み合わせではなく、5つの要素がそれぞれのニーズに応じて統合され、提供されること。
- これまでの暮らしを継続するための、本人の力、周りの力の発揮によるのぞむ暮らしの実現に向けた取り組み。
- “暮らし”に視点を置いた本人に対する「個の支援」の積み上げにより、面としての地域課題にも取り組む。





加賀市版地域包括ケアシステムの構築として、各圏域で地域包括ケアビジョンとそれを具現化するための「方向性」の考え方を共有することが必要です。

その際、「地域包括ケアビジョン」の推進は、2025年を見据えた中・長期的な視点のもと、上図で示したように5つの要素に関連した各課での重点事項や施策を確実に進めていくことが重要となります。

(イメージ図)

豊かなまちづくり

たとえ病気になっても、介護が必要になっても、認知症になっても住みなれたまちで暮らし続けるためには「予防」「医療」「介護」「生活支援」「住まい」の5つの要素が地域の特徴と合わせて提供できる仕組みが大切になります。地域で支える「加賀市地域包括ケアシステム」を一緒につくっていきましょう。



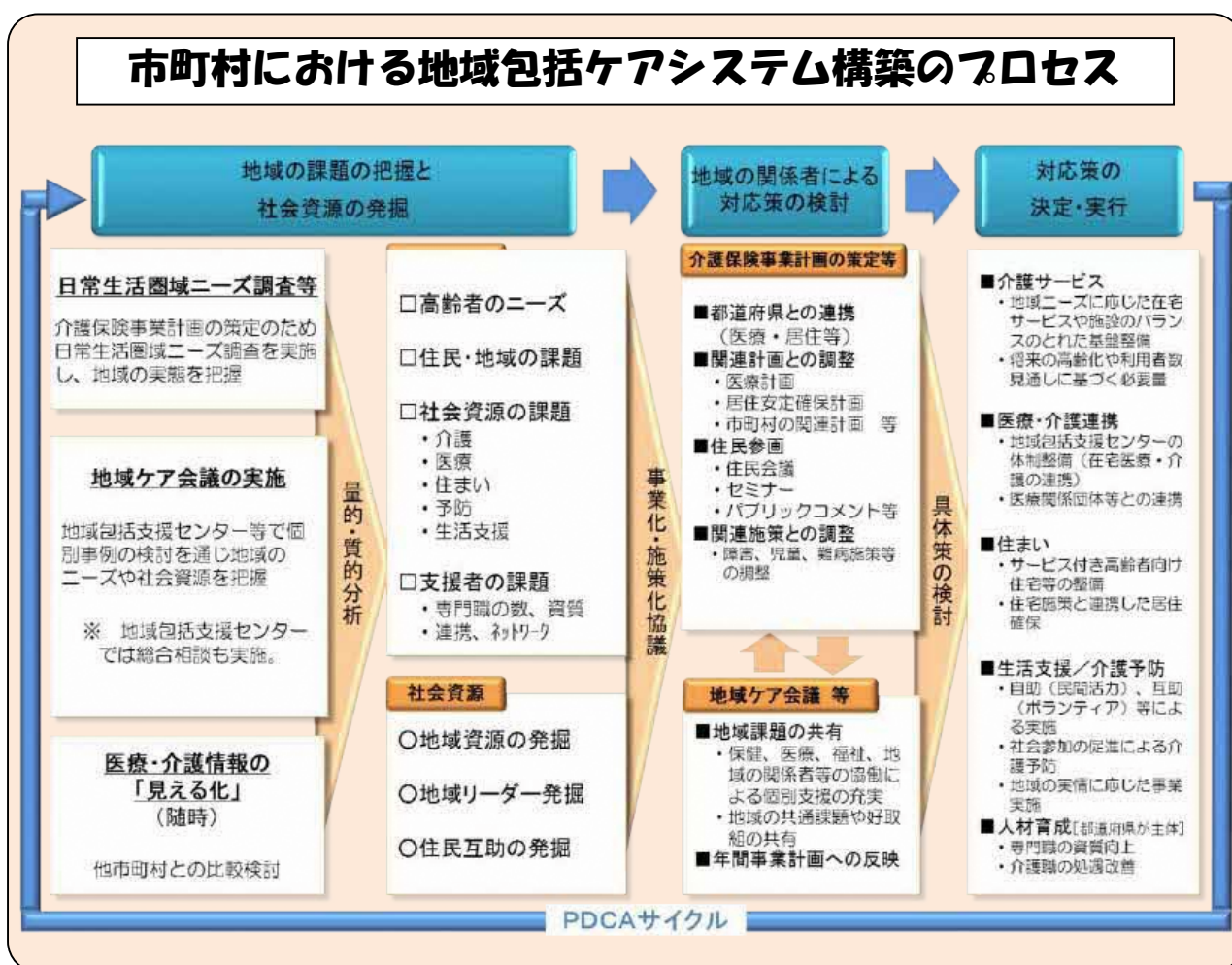
ワーキングで、5つの要素の関連事業を整理した際に、市役所や社会福祉協議会、シルバー人材センター、民間事業者等による取組によって、既にさまざまな生活支援サービスが運営されていることや、介護や福祉分野だけではなく教育等の部局においても、同じような対象者に対する取組を実施している場合もありました。

これを受け、5つの要素ごとの重点事項（P27 参照）を効果的に推進し、高齢者一人ひとりの暮らしの支援につながるように地域包括ケアビジョンの方向性に謳う「5つの要素の一体的提供」を行政として実践します。

その方法として、事業の目的や実施方法を検討する段階で、関連課が情報を共有し、すり合わせを行った協働事業を検討しました。

この協働事業は、地域と共に「住民主体」の活動を支援する取組です。「住民主体」を進めるためには、下図の様な地域ケア会議を通して、住民自身が地域の特性や課題を把握し、考える機会が必要です。その課題を解決するためには、住民同士のつながりや、事業所の力、既存の資源を活かした支援や取り組みが求められます。

行政、専門職、本人や家族、地域住民、各種団体等がそれぞれの役割を発揮し、できることから取り組むことが、地域包括ケアシステムの構築につながります。



※出典 厚生労働省

以下、ワーキングで検討した 6 つの協働事業の概要と実施スケジュールを紹介します。

(1) 見守り体制

【事業名】	地域見守り事業
＜事業目的＞	地域住民による見守り体制の強化を目的とする。
＜事業概要＞	本市では高齢者の見守り体制が不十分であったり、行方不明高齢者の搜索体制が未構築である。 既存のメール配信機能を活用し、行政・事業者・地域住民の協働による幅広い搜索ネットワークの体制を確立するための事業。 住民自身や民生委員等の協力団体、民間事業者（新聞配達や介護サービス事業者等）による幅広い視点からの日常的な見守りに加え、緊急時には防災メールを活用した行方不明者の搜索メール配信や不審者情報の発信を行うことで、地域を包括的に見守る仕組みとする。 例）安心メール配信事業（仮称） 既に運用している加賀市防災メールとホームページに、行方不明高齢者の情報配信を行い、搜索態勢の構築・強化を図る。

(2) 地域活動

【事業名】	地域活動支援事業
＜事業目的＞	住民主体、地域主体で活動できる仕組みをつくりだせる地域づくりを目的とする。
＜事業概要＞	地域には様々な組織、団体、協力してくれる市民がいるが、バラバラに活動している。必要な人に必要なサービスが届くよう、地域の支援と地域住民を結びつける活動を行う。 例）地域包括支援センターのランチ、地域コーディネーター設置事業 地域包括支援センターのランチを、身近な地域の相談窓口として設置する。 市内複数地域に地域コーディネーターを配置し、地域の実態を把握し、まちづくり協議会や公民館などの地域組織、民生委員、社会福祉協議会などの社会資源と連携して高齢者支援活動を行う。 例）おたっしやサークル活動補助 サロン活動や、空き農地を利用した農作物づくりなど、地域の高齢者が参加できる活動に助成する。 サロン活動、各種教室活動先にまちの先生の情報を提供し、活動活性化を促す。

(3) 生活支援

【事業名】

生活支援事業

<事業目的>

元気な高齢者の活躍の場をつくり、自身の介護予防と、高齢者の日常生活支援を確保する。

<事業概要>

介護サービスには至らない生活動作（例 掃除、洗濯、調理、買い物、ごみだし、電球交換等）が困難となってきた高齢者に対して、必要な情報や支援が届くよう、ご近所間の支援や住民参加型の仕組みを構築する。また、生活支援者として役割をもち、継続的に支援できるような仕組みとする。

例) 新しい家事支援・買い物支援サービス

- ・地域包括支援センター等のマネジメントにより家事支援が必要な対象者に対して、シルバー人材センター等により、有償ボランティアとして支援者を派遣し、自宅での家事を支援する。
- ・買い物が困難な人の自宅に食料品などの移動販売を行う。
- ・支援者の養成講座の周知と開催。
- ・養成講座の修了者や地域の世話役さんによる地域単位の地域ケア会議の開催

例) 社会資源情報提供

- ・市の各課のサービス情報が必要時提供できるよう、一元管理した情報を地域コーディネーターやまちづくり推進協議会等に定期的に情報提供を行う。

例) ボランティア運送・配食等新たな住民主体の生活支援事業の創設

- ・ご近所間の支援だけでなく、またフォーマルサービスでは補いきれないことを住民が考え、提案する取り組みに対して既存事業の利活用も含め支援する

(4) 住まい

【事業名】

かがすまいる事業

<事業目的>

自分が暮らしやすい住まいを必要としている人に、空き家などの情報を提供したり、仲介することで、住まいを確保する。

空き家を活用してグループホームやシェアハウスのように一緒に生活することで、安心して生活できる。

<事業概要>

空き屋を管理する人がいないため、草刈りや雪かきなどがされていないだけでなく、周辺住民へ防犯防火上も不安を与えている。また、シェアハウスの高齢者版があると良いとの意見がある。空き家の情報提供や、シェアハウスとして空き家の活用を行う。

例) 空き家情報提供事業

空き家（売りたい人、貸したい人）の情報を収集整理し、住み替えや転入しようとする人に、空き家の情報を提供して、マッチングを行う。

例) シェアハウス事業

日常生活はある程度できるが、一人では不安が大きい人に対し、空き家などを活用して同じように不安を抱えている人と一緒に生活できるような場の立ち上げを支援する。空き家をシェアハウスとして利用する際に、バリアフリーの改修に対する補助を行う。またその管理や運営を地域の組織に委託する。

【事業名】

在宅医療・介護連携推進事業

＜事業目的＞

疾病を抱えても、自宅等の住み慣れた生活の場所で療養し、自分らしい生活を続けられるためには、包括的かつ継続的な在宅医療・介護の提供を行うことが必要。このため、多職種協働により在宅医療・介護を一体的に提供できる体制構築を図る。

＜事業概要＞

自宅での療養生活を継続できるよう、加賀市医師会等地域における医療・介護の関係機関で設置した在宅医療連携推進協議会を中心に在宅療養に関する様々な課題整理、解決のための協議を行い実践する。また必要時関係団体等へも提案していく。

例)在宅医療と介護の連携を推進する事業

在宅医療連携推進協議会を中心に、医療・介護に関する地域資源の把握や退院時情報共有ツールの検討

- ・認知症ケアパス作成と啓発
- ・多職種連携研修の開催
- ・地域の在宅医療と介護の連携を支援する相談窓口の運営
- ・在宅医療と介護の連携について市民向け周知啓発（出前講座）

例)市民が主体となって地域医療を守る取り組み

- ・市民自身がコンビニ受診を防止し、地域のかかりつけ医や医療機関を守るための啓発活動
- ・看護師 OB 等の活躍の場の提供支援

例)加賀市新交通体系

- ・医療機関までの足の確保として交通体系を整備する

【事業名】

めざせ健康長寿推進事業

＜事業目的＞

市民が健やかに生活し、老いることができることで健康寿命の延伸につながる。

＜事業概要＞

「かがし健康応援プラン21（第二次）」「食育プラン2008」に基づき、「自分の健康は自分で守る」という意識の向上を図り、健康の維持・増進に向けた個人の取組に繋げ、市民の食生活・運動をはじめとする生活習慣の改善により健康づくりを推進する。

例)保健推進員活動事業

市内各地域約 450 名に保健推進員を委嘱することにより、以下の活動を行う。

- ・地区まちづくり推進協議会との協働により、運動・栄養・がん予防等健康づくりの講座を開催する。

例)生活習慣病予防事業

- ・要介護認定の原因の 4 割を占める生活習慣病の一つである糖尿病の発症と重症化予防のため、医療機関と連携した保健指導を実施する。

提案事業名	地域見守り事業		
目標・指標	活動指標	設定理由	課
	安心メール登録者数	地域の搜索ネットワークを形成	長寿課
	安心メール登録者数	高齢者問題への意識付け	地域包括支援センター
	安心メール登録者数	地域の搜索ネットワークを形成	企画課
	安心メール登録者数	地域の搜索ネットワークを形成	障がい福祉課
	見守りネットワーク登録者・協定締結件数	日常の重層的な見守りや災害時の安否確認や避難支援体制の仕組みの推進	地域福祉課
	ゆるやかな見守り協定締結事業者数	見守りネットワークへの協力・新たな共助の構築	地域福祉課
	混乱のない効果的な情報網の構築	安心・安全でより充実した学校生活を提供するため	学校指導課
役割分担	課	役割(各課ができること)	
	長寿課	行方不明者情報の発信	
	地域包括支援センター	認知症や介護予防に関する情報提供、市民意識向上のための啓発・普及	
	地域福祉課	一人暮らし高齢者等の日常時の見守りから災害時の安否確認や避難支援を円滑に行うための仕組みづくり・意識付け	
	企画課	交通事業者への事業説明・メール登録依頼	
	障がい福祉課	行方不明者情報の発信	
	学校指導課	不審者情報の発信	
他団体とのネットワーク (協力団体)	団体名	理 由	
	警察	取り組み趣旨の理解・協力	
	介護サービス事業者協議会	協議会のネットワークを活用した見守り・搜索体制の構築	
	まちづくり推進協議会	地域住民への普及啓発	
	交通事業者	交通ネットワークを活用した見守り体制の構築	
実施体制			

地域見守り支えあいネットワーク: 一人暮らし高齢者及び高齢者のみ世帯や障がい者などの日常の見守りや災害時の安否確認や避難支援を円滑に行う事業

ゆるやかな見守り体制: 協定を締結した民間企業が、ふだんの生活や仕事の中で、住民のちょっとした異変に気づいた時に行政へ連絡を行う事業

実施内容	H26	H27	H28	H29	H30～	数値目標
○地域見守り支えあいネットワーク事業 見守りネットワークの形成						・見守りネットワーク登録数 【3200人→3600人】
制度説明会の実施						・説明地区数 【190町→281町(全町)】
ゆるやかな見守り体制の構築						
○安心メール事業 関係機関との実施体制協議						
協力機関・団体向け説明会開催						
防災メールによる配信						・メール登録者数 【4000人→5000人】
新HPによる配信						・メール登録者数 【0人→1000人】
不審者情報の配信						
既存ネットワークによる配信						
新HPのメール機能への統合						
搜索模擬訓練						・訓練実施回数 【 年1回 】

取り組みにおける工夫
・既存の活動団体や民間業者を巻き込み、効果的な制度の普及を図る
・非常時・緊急時のみの発信ではなく、講演会や市民講座等の情報発信により“非日常的”から“日常的”な情報ツールとする

・防災メールを活用した不明者情報の発信を開始する
・新HPを活用した不明者情報の発信を開始する
・広報や説明会を通し、事業の周知・普及を行う。
・事業者協議会や地域を巻き込んだ行方不明高齢者の搜索模擬訓練を行う

 すぐできる

 工夫してできる

 予算化必要

提案事業名	地域活動支援事業		
目標・指標	指 標	設定理由	課
	地域協力者の把握数	馴染みの関係の中での支援の充実を図る(第1層)	長寿課
	虚弱高齢者の把握数	地域の実態を把握し、早い段階から地域の支援と地域住民を結びつける	地域包括支援センター
	おたっしやサークル登録団体数	サロン活動など、住民活動の活性化	地域包括支援センター
	認知症サポーター養成講座開催数	認知症に対する理解の普及・啓発	地域包括支援センター
	情報提供数	地区の取り組みを他地区に紹介する	まちづくり課
	まちのせんせい登録数	まちのせんせいの周知・啓発によって活性化を図る	生涯学習課
	健康・医療講座開催数	健康・医療に関する情報提供の機会を増やす	新病院・地域医療推進室
	まちの先生のマッチング数	農業を教えてくれる人と教えてほしい人・団体とを結びつける	農林水産課
役割分担	課	役 割(各課ができること)	
	長寿課	介護や介護予防に関する情報提供、考え方の啓発・普及(住民・介護保険事業所等)	
	地域包括支援センター	コーディネーター・ランチの後方支援、おたっしやサークル活動支援	
	地域福祉課	民生委員、福祉人材と連携した相談体制の整備	
	まちづくり課	市と地区との連絡調整	
	生涯学習課	まちのせんせい・自然体験サポーター・かもまる講座の情報提供。公民館との連携	
	新病院・地域医療推進室	医師会・協議会との調整	
	農林水産課	農業を教えてくれる人の紹介	
他団体とのネットワーク (協力団体)	団体名	理 由	
	公民館	取り組み趣旨の理解	
	まちづくり推進協議会	取り組み趣旨の理解	
	シルバー・JA・地区社協(会員)などの地域住民	地域課題に対する共有と、「ちょっとした支援」に対する提案(地域活動支援または個の支援)	
	社会福祉協議会	社協の既存のネットワークと事業のマッチング	
	介護保険事業所	地域の一員としての協力	
	医師会・協議会	取り組み趣旨の理解、講師の派遣	
	実 施 体 制(一例として)		

顔の見える関係づくり 向こう三軒両隣の再構築

地域活動 おたっしやサークル等

つなぐ支援

まちのせんせい 地域協力者 (JA・JA・JA 会員)

つなぐ支援

地域包括支援センター 社会福祉協議会

つなぐ支援

介護事業所等に設置

地域ケア会議

地域に密着した組織を強化 (市役所後方支援)

包括ランチ・地域コーディネーター (22箇所)

情報や支援や協力がうまく回っていく 地域づくり

包括ランチ：地区単位に地域包括支援センターの窓口を設置し相談を受付する。

地域コーディネーター：地域に支援が必要な人に、必要な情報を提供したりお手伝いできる人とつなげる支援を行う。介護予防基本チェックリストのハイリスク者の訪問による早期対策も行う。

おたっしやサークル：地域住民主体のもと、定期的に地域の公民館等を拠点に介護予防に資する活動や趣味活動等に対して活動費の補助及び講師派遣を行う。

提案事業名	生活支援事業		
目標・指標	指 標	設定理由	課
	移動販売箇所数	買い物の利便性向上と訪問の際の見守りによる高齢者等を支援する。	地域福祉課
	屋根雪下ろし助成事業補助金交付件数	屋根雪下ろしが困難な人を支援する。	
	ボランティア運送導入地区数	自分たちの移動手段の確保に取り組む地域を支援する。	企画課
	まちづくり推進協議会等の会議の開催数	地域へ情報提供することができる場を設ける。	まちづくり課
	家事支援サービス人材登録数	家事支援サービスの担い手の育成。生きがいとしての活動。	長寿課
	介護予防サポーター（認知症含む）の講座の開催数	介護予防活動の担い手の育成。生きがいとしての活動。	地域包括支援センター
	社会資源情報の提供数	困りごとを解決するために、利用可能なサービスの情報を提供する。	
	販売野菜の種類数	収穫時期を考慮して農家を選定し、年間を通じた供給体制を整備する。	農林水産課
役割分担	課	役 割	
	地域福祉課	買い物弱者等の支援。	
	企画課	ボランティア運送導入にかかる相談・支援する。	
	まちづくり課	地区組織を通じ、地域へ情報を提供するために、地区組織との会合を開催する。	
	農林水産課	地産地消の推進・買い物弱者支援のため、農家と事業者のマッチングを行う。	
	長寿課	新たな家事支援サービスを創設する。	
	地域包括支援センター	支援者の養成講座の周知と開催をする。さらに活動を支援者の役割・生きがいにつなげる。	
他団体とのネットワーク （協力団体）	団体名	理 由	
	シルバー人材センター	業務として家事代行を行っているため、生活支援の担い手となる可能性がある。	
	社会福祉協議会	家事支援を行ういきいきサービスと実施しているため、生活支援の担い手となる可能性がある。	
	加賀市農業協同組合	家事支援を行うお助け隊を実施しているため、生活支援の担い手となる可能性がある。	
	まちづくり推進協議会などの地区組織	近所や住民参加型の生活支援の仕組みを構築するために、各地区、各町の組織の協力を得る。	
実 施 体 制（一例として）			

家事支援サービス：高齢者自身が担い手となり、支援を必要とする高齢者に対する日常的な家事支援等を行うサービス。

介護予防サポーター：自分の特技を生かしながら、介護予防の教室などの運営をサポートする。

主な実施内容	H26	H27	H28	H29	H30～	数値目標
移動販売等買い物支援事業						
○事業者の拡充	事業者募集					
家事支援サービス事業		営業開始				
○家事支援サービス構築に向けた検討						
○担い手づくり(研修)						
家事支援サービス						・家事支援サービス人材登録数【0→30】
介護予防サポーター						
○サービスの開始						
社会資源情報の提供						
○各課のサービスの情報収集						
○各課のサービスの情報整理						
○各課のサービスの情報提供						・社会資源情報の提供数【0→300】
ボランティア運送等新たな住民主体の生活支援事業						
○地域ケア会議の開催						・地域ケア会議開催【プランチ数×4回/年】
○ボランティア運送の支援						
屋根雪下ろし助成事業						
高齢者宅への野菜配送事業						
○事業者と農家の選定・協議						
○試験販売・事業実施		試験販売	事業開始			
取り組みにおける工夫 ・ マッチングなどがうまくいくために、各課の取り組みを市民に情報として発信しなければならない。 ・ 地域での各会議で出た地域課題を、庁内横断ワーキングにつなげることが必要である。						
平成27年度の取り組み ・ 移動販売を行う事業者を募集する。 ・ 関係団体と家事支援サービス構築に向けた検討を進める。 ・ 家事支援サービスの担い手となる人のための研修を開催する。 ・ 市役所の各課のサービスについて、情報を収集し、利用しやすいかたちで提供できるように整理する。 ・ 地域でのケア会議を開催し、住民が必要としている支援を把握する。 ・ ボランティア運送に取り組もうとしている地域の人を支援する。 ・ 屋根雪下ろしの困難に人に、助成を行う。						

 すぐできる
  工夫してできる
  予算化必要

(4) 住まい

提案事業名	かがすまいる事業		
目標・指標	指 標	設 定 理 由	課
	空き家バンクの創設、公開	有用空き家の情報を提供し、移住定住につなげ、空き家の利活用をはかる。	建築課
	空き家バンクの登録数	利用者の住まいの選択肢を広げる。	建築課
	売買や賃貸の契約数	空き家バンクが実際に活用されているかどうかの把握。	建築課
	高齢者への情報提供数	住まいにかかわる情報を高齢者にきちんと伝える。	長寿課・包括
	住宅改修の相談件数	空き家の活用や、シェアハウスとして利用できるようにする。	長寿課
	地区組織からの情報数	地域の空き家情報を収集する。	まちづくり課
役割分担	課	役 割(各課ができること)	
	建築課	空き家バンクの創設と、斡旋仲介(委託)。中古等物件取得補助金交付。 市営住宅にかかる連帯保証人制度の緩和や代行サービスの研究。	
	建築課・長寿課	住宅賃貸や売買時の補完サービスの構築に向けた検討会の開催。	
	長寿課・包括	高齢者への情報提供。住宅改修の相談及び改修補助。 身寄りのない高齢者の賃貸契約保証や家財道具処分などの代行サービスの研究	
	まちづくり課	市と地区との連絡調整。	
	環境課	利用できない空き家等の空き家バンクへの情報提供	
	他団体とのネットワーク (協力団体)	団体名	理 由
不動産、建築事業者等		物件の見極めや斡旋仲介等の業務に精通しているため。	
町内会、まちづくり組織		地域の空き家情報を得るため。	
社会福祉協議会		判断能力が低下した方が契約する場合の相談支援	
ケアマネ		高齢者等への情報提供	
民間事業者		公的制度では対応できないサービスの提供をしているため	
実 施 体 制(一例として)			
身寄りのない場合等 代行サービス 利用 高齢者 ケアマネ 情報提供 相談支援 町内会 まちづくり組織 情報提供 加賀市 ・空き家バンク開設 (HPで公開) ・住宅改修の相談や 費用助成 相談 マイホーム等を 売りたい方 貸したい方 情報提供 相談支援 相談 中古物件を 買いたい方 借りたい方 情報提供 相談支援 不安な場合 社会福祉協議会 支援 売買・賃貸仲介 連携 物件の 調査依頼 支援 不安な場合 社会福祉協議会 支援 売買・賃貸仲介 連携 不動産・建築等の事業者による協議会 物件の調査 売買契約の仲介斡旋			

主な実施内容	H26	H27	H28	H29	H30～	数値目標
空き家情報提供事業 ○情報集約 ○データベース化 ○空き家バンクの創設、公開 (HP・パンフ作成) ○高齢者への情報提供						・情報集約数 【市内全町内会】 ・空家調査数 【市内全域】 ・登録数 【20件】 ・提供数 【市内全域】
身寄りのない入居者支援事業 ○市営住宅における連帯保証人 制度の緩和にむけた検討 ○連帯保証サービスの構築にむ けた検討 ○退去後の事務委任制度の構築 にむけた検討 ○高齢者への情報提供 ○補助制度の構築 (住み替え、家賃補助)						・導入期限 【平成30年度】 ・関係課による検討会の開催 【3回／年】 ・関係課による検討会の開催 【3回／年】 ・提供数 【市内全域】 ・関係課による検討会の開催 【3回／年】
シェアハウス事業 ○シェアハウス制度の構築の検討						・シェアハウスの開設 【1戸】
住宅改修補助の拡充の検討						・新設メニュー数 【2件】
住宅改修相談						・相談数 【10件／年】
取り組みにおける工夫 ・中古物件の情報収集や仲介などは民間のノウハウを活用し、市場ニーズを反映した空き家バンクを創設する。 ・高齢者にもわかりやすい情報提供を行う。(HPやパンフレットの工夫など)						
平成27年度の取り組み ・空き家バンクの創設 ・市営住宅の連帯保証人の条件緩和に向けた検討						



すぐできる



工夫してできる



予算化必要

提案事業名	在宅医療・介護連携推進事業		
目標・指標	指 標	設定理由	課
	ワーキング開催数	課題・テーマ別に実効性のある方法を検討する	新病院・地域医療推進室ほか
	在宅医療・介護連携を支援する相談窓口設置	地域の医療・介護の関係者等からの相談の受付等を行う	新病院・地域医療推進室ほか
	在宅医療・介護連携を支援する人材(コーディネーター)の配置	医療職と介護職を仲介し、チーム作りを支援	新病院・地域医療推進室ほか
	専門職研修開催数	多職種が連携しやすい関係の構築、円滑な連携を図る	新病院・地域医療推進室ほか
	講演会等開催数	市民の理解を広める	新病院・地域医療推進室ほか
	医療講座開催数	医療に関する情報提供の機会を増やす	新病院・地域医療推進室
	包括支援センター(サブセンター)設置数	病院からの円滑な在宅移行を支援	地域包括支援センター
	特定健診受診率	受診をきっかけとして健康・医療についての意識を高める	健康課
	役割分担	課	役 割(各課ができること)
新病院・地域医療推進室		医師会をはじめ在宅医療連携推進協議会との調整、市民への普及啓発	
地域包括支援センター		早期退院・在宅移行支援	
長寿課		介護や介護予防に関する情報提供、考え方の啓発・普及(住民・介護保険事業所等)	
市民病院地域医療連携室		病診連携(紹介、逆紹介)の推進、情報提供、考え方の啓発・普及(院内・患者)	
健康課		健康施策を切り口とした医療に関する情報提供、普及啓発	
交通対策室		医療機関等までの移動手段の確保	
他団体とのネットワーク (協力団体)	団体名	理 由	
	医師会	在宅医療連携グループの一員として参加(中心的な役割)	
	歯科医師会	在宅医療連携グループの一員として参加	
	薬剤師会	在宅医療連携グループの一員として参加	
	介護保険事業者協議会	在宅医療連携グループの一員として参加	
	病院	在宅医療連携グループの一員として参加	
	その他	社会福祉協議会等既存のネットワークを通じた普及啓発	
実 施 体 制(一例として)			
在宅医療連携グループ 「加賀市在宅医療連携推進協議会」 加賀市医師会 加賀市歯科医師会 石川県薬剤師会加賀支部 加賀市介護サービス事業者協議会 病 院 加賀市 関係者で地域の課題等について協議、研修など 診療所、歯科診療所 訪問看護ステーション 薬 局 介護サービス事業所 市役所・地域包括支援センター 地域包括支援センター(サブセンター) 在宅医療・介護連携を支援する相談窓口 医療職と介護職の連携をサポート 本人・家族 連携して本人・家族を支援 地域の人を対象とした医療に関する講座等 普及啓発 (広報や講演会)			

在宅医療連携グループ：県医療計画に定めるもの。地域の在宅医療・連携の推進に取り組むネットワーク。

地域包括支援センター(サブセンター)：直営の包括支援センターの出先機関として、統合新病院に設置。新病院に限らず、市内の各病院からの早期退院、在宅移行を支援。

主な実施内容	H26	H27	H28	H29	H30～	数値目標
地域の医療・介護サービス資源の把握 ○調査、アンケート						
在宅医療・介護連携の課題抽出と対応の協議 ○課題別の検討ワーキング等						・ワーキング開催数 【3グループ×4回程度】
在宅医療・介護連携を支援する相談窓口の運営 ○在宅医療コーディネーターモデル事業			情報共有のツール等、課題・テーマ別にワーキング			・相談窓口設置数 【0→1箇所】
○在宅医療・介護連携を支援する相談窓口の設置						・コーディネーター配置 【0人→1人】
○在宅医療・介護連携を支援する人材 (コーディネーター)の配置			本格設置に向け協議			・サブセンター設置数 【0→1箇所】
○地域包括支援センター(サブセンター)設置						
在宅医療・介護の情報共有の支援 ○連携パスの作成、普及			統合新病院にサブセンターを設置			・連携パス研修等の実施 【年1回程度】
在宅医療・介護関係者の研修 ○多職種連携研修会の開催			脳卒中連携パス、認知症ケアパス等の活用を広める研修等			・研修開催数 【年1回程度】
24時間365日の在宅医療・介護サービス提供体制の構築 ○体制構築に向けた協議			※連携パス等の研修と合同の場合もあり			
地域住民への普及啓発 ○講演会・シンポジウム等の開催						・講演会等開催数 【年1回程度】
○病院の出前講座						・市民病院のまちあい室講座
○医療講座の開催			市民病院では、「まちあい室講座」の名称で職員が地域に出向く講座を実施している			
公共交通 ○公共交通体系の整備			医師会等との調整・講座開催			・地区カバー率 【100%】
取り組みにおける工夫 ・医療・介護関係者が顔を合わせ話をできる場を設ける ・研修は、各団体等との合同・共催とするなど、効率化、役割分担する						
平成27年度の取り組み ・医療・介護関係者が顔を合わせ話をできる場として、多職種連携の研修会等を行う。 ・市民向けの講演会、シンポジウム等を行う。 ・課題・テーマを絞り、ワーキンググループ形式等で解決に向け協議する。						



すぐできる



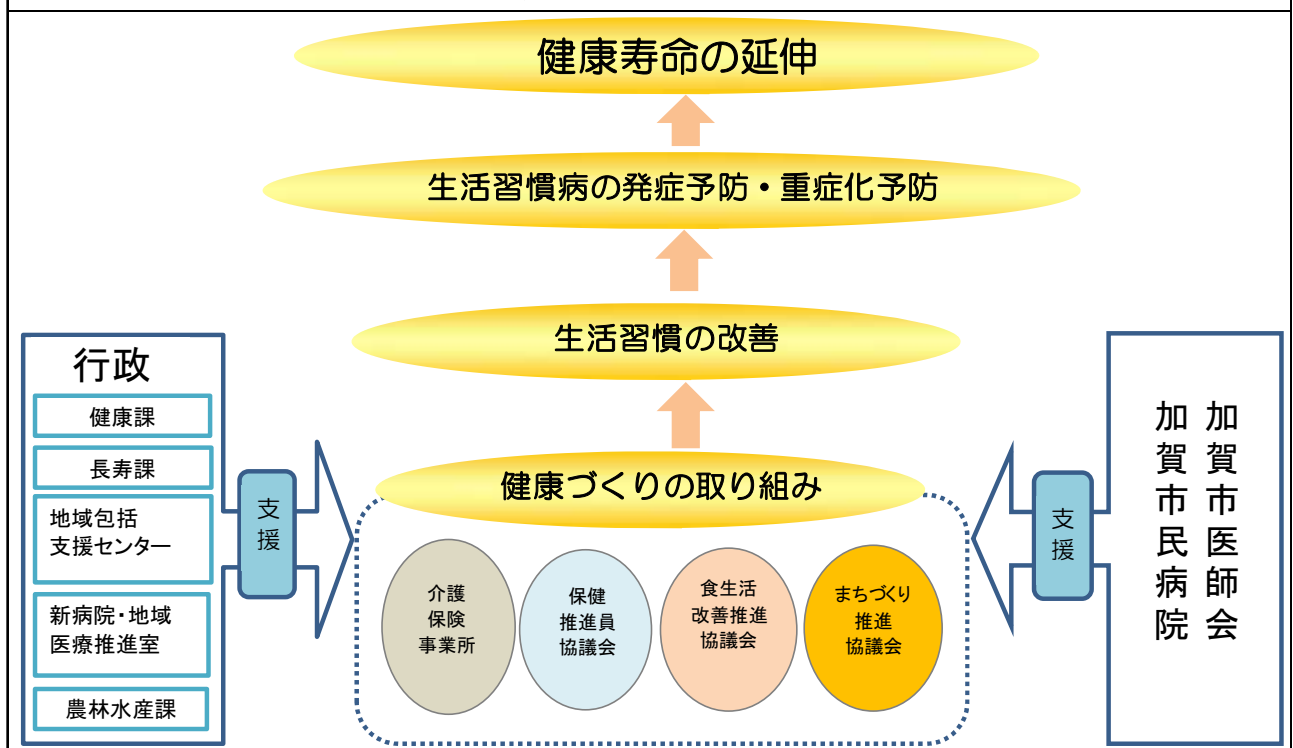
工夫してできる



予算化必要

提案事業名	めざせ健康長寿推進事業		
目標・指標	指 標	設定理由	課
	特定健診受診率	生活習慣病予防に関する意識を高める	健康課
	特定保健指導実施率	生活習慣病予防に関する意識を高める	健康課
	健康づくり講座実施回数	市民の理解を広める	健康課
	地産地消推進活動回数	地産地消を取り入れた食による健康づくりの普及を図る	農林水産課
	介護予防活動における生活習慣病予防啓発回数	啓発の機会を増やす	地域包括支援センター
	医療講座開催数	地域の医療に関する情報提供の機会を増やす	新病院・地域医療推進室
役割分担	課	役 割(各課ができること)	
	健康課	保健推進員協議会・食生活改善推進協議会への活動支援、健康づくりの推進	
	長寿課	生活習慣病予防に関する情報提供(介護保険事業所等)	
	地域包括支援センター	介護予防活動と生活習慣病予防の啓発機会を結びつける	
	農林水産課	地産地消活動と生活習慣病予防の啓発機会を結びつける	
	新病院・地域医療推進室	医師会との調整	
他団体とのネットワーク (協力団体)	団体名	理 由	
	保健推進員協議会	健康づくり推進活動実施団体	
	食生活改善推進協議会	食を通じた健康づくり推進活動実施団体	
	まちづくり推進協議会	取り組み趣旨の理解	
	医師会	特定健診受託先、特定健診受診勧奨	
	介護保険事業所	介護者・要介護認定者への情報提供	

実 施 体 制(一例として)



主な実施内容	H26	H27	H28	H29	H30～	数値目標
特定健診、生活習慣病予防健診						・特定健診受診率 【平成29年度 60%】
特定保健指導、その他の保健指導						・特定保健指導実施率 【平成29年度 60%】
保健推進員活動 ○地区での健康づくり講座						・健康づくり講座実施回数 【複数回開催】
食生活改善推進員活動 ○地産地消を取り入れた啓発活動 (エコフェスタ等)						・啓発活動回数 【複数回開催】
健康講座の開催 ○生活習慣病予防セミナー						・セミナー開催数 【複数回開催】
○介護予防活動における 生活習慣病予防講座						・講座実施回数 【複数回開催】
介護保険事業所への情報提供 (介護者への生活習慣病予防について) (要介護認定者の疾病の重症化 予防について)						・情報提供実施回数 【複数回開催】
医療講座の開催						
地域住民への普及啓発 ○健康に関する相談窓口の普及啓発						
○健康に関する情報発信						
データヘルス計画	策定	実施				
各種介護予防事業						
取り組みにおける工夫 ・健康づくりに関する啓発の機会を拡充していく。 ・市内医師会会員及び各種団体との連携。 ・協働事業を円滑に実施するために庁内横断ワーキングにおいて、健康課題の共通理解を図る。						
平成27年度の取り組み ・生活習慣病予防の視点での活動を継続して実施する(特定健診、特定保健指導、保推活動・食改活動支援、健康講座の開催等)。 ・ ・ ・						



すぐできる



工夫してできる

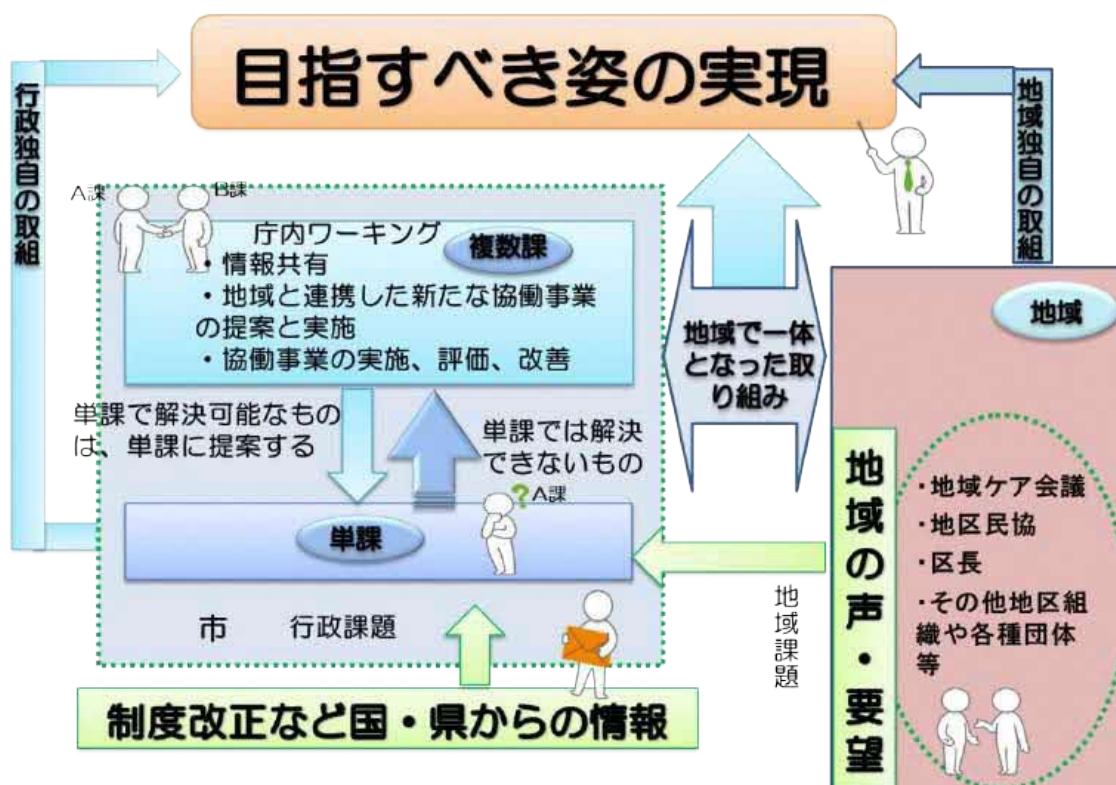


予算化必要

地域包括ケアシステムを構築するための行政の体制として、庁内に地域包括ケアを推進する係を設置します。

また、ワーキングを市全体の地域ケア会議（政策形成会議）と位置づけ、協働事業の実施、評価、改善を行うと共に、地域では解決できない課題を検討していきます。

〔ワーキングの位置づけのイメージ〕



地域包括ケアシステムは、元来高齢者に限定されるものではなく、障がい者や子どもを含め、すべての住民にとっての仕組みとして、地域で支え合う体制を構築する必要があります。そのための地域住民に対する中長期的な意識付けなどは行政の役割であり、地域の一人ひとりが地域のことを自分のこととして考え、地域で支え合う体制づくりを地域社会全体の運動につなげていくことが重要であり、協働事業を通じて働きかけを行っていきます。

1 加賀市地域包括ケア検討委員会委員

加賀市地域包括ケア検討委員会委員は下記のとおりです。

加賀市地域包括ケア検討委員会委員

【予 防】 寺 西 衣 姫

- ・南加賀保健福祉センター
- ・加賀市健康福祉審議会高齢者分科会 委員

【医 療】 橘 秀 樹

- ・医療法人社団元気会 加賀たちばな元気クリニック 理事長
- ・加賀市医師会 理事
- ・加賀市在宅医療連携推進協議会 代表

【介 護】 宮 田 聡

- ・社会福祉法人 篤豊会 事務局長
- ・加賀市介護サービス事業者協議会 副会長
- ・加賀市健康福祉審議会高齢者分科会 委員

【生活支援】 川 原 秀 夫

- ・特定非営利活動法人 コレクティブ 代表
- ・全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会 代表

【住 ま い】 西 野 辰 哉

- ・金沢大学 理工研究域 環境デザイン学系 准教授
- ・加賀市健康福祉審議会高齢者分科会
地域密着型サービス整備部会 委員

【委 員 長】 柴 田 範 子

- ・特定非営利活動法人 楽 理事長
- ・介護福祉士国家試験委員
- ・東洋大学、上智大学、日本女子大学、文京学院大学非常勤講師
- ・川崎市高齢者保健福祉計画策定協議会委員
- ・港区高齢者保健福祉計画検討委員会
- ・かわさき健幸福寿プロジェクトメンバー

【オブザーバー】 山 越 孝 浩

- ・全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会 事務局長

2 ワーキング構成職員

加賀市地域包括ケア庁内横断ワーキング構成職員数等は下記のとおりです。

加賀市地域包括ケア庁内横断ワーキング部、課、構成職員数

5 部局	9課1センター	15名
総務部	企画課（交通対策室）	1名
総務部	新病院・地域医療推進室	1名
地域振興部	農林水産課	1名
地域振興部	まちづくり課	1名
建設部	建築課	1名
教育委員会	生涯学習課	1名
市民部	地域福祉課（地域福祉係）	1名
市民部	健康課	1名
市民部	長寿課（事務局）	5名
市民部	地域包括支援センター（事務局）	2名

3 検討委員会・ワーキングの開催内容

	検討委員会	ワーキング
6月～		庁内ワーキング開催 ①6月3日、②8月7日、③9月4日、④9月25日、⑤10月2日、⑥10月14日、⑦10月23日、⑧11月12日、⑨12月26日、⑩1月30日、⑪2月13日 庁内ワーキング作業 上記と別途2班に分かれて作業 ①各課のデータ分析、アンケート、地域ケア会議、業務から感じること⇒5要素ごとの現状・課題の抽出 ②5つ要素ごとのビジョン案の作成 ③地域包括ケア推進ビジョン案の作成 ④協働事業案の作成 予防・医療・介護班：9回 (8月22日、9月1日、22日、10月8日、17日、20日、21日、11月13日、2月4日) 生活支援・住まい班：12回 (8月21日、28日、29日、9月22日、10月7日、8日、15日、16日、11月14日、2月4日、2月5日、2月10日)
9月11日	第1回検討委員会 ・地域包括ケアビジョン、推進ビジョンの考え方 ・地域包括ケア検討委員会と庁内ワーキング作業プロセス ・各要素の現状と課題について	
12月4日	第2回検討委員会 地域包括ケアビジョン、推進ビジョン素案提出 ビジョンを実現するために必要な対策、協働事業（既存事業の拡充・転換案提出	
1月14日	第3回検討委員会 ・地域包括ケアビジョン、推進ビジョンの最終案提出 ・庁内横断ワーキングの今後のあり方 ・指標について	

地区別高齢者数と高齢化率の推移（※施設入所者を除く）

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
大聖寺	3,202	3,360	3,401
高齢化率	29.6%	31.3%	32.4%
南郷	845	879	907
高齢化率	25.7%	26.9%	28.1%
三谷	513	535	554
高齢化率	29.9%	31.5%	32.9%
三木	402	427	432
高齢化率	24.3%	26.0%	26.3%
塩屋	256	268	268
高齢化率	33.3%	36.2%	37.6%

高齢化率：人口に占める高齢者の割合

地区別要介護認定者数と認定率の推移（※施設入所者を除く）

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
大聖寺	423	487	445
認定率	13.2%	14.5%	13.1%
南郷	90	100	111
認定率	10.7%	11.4%	12.2%
三谷	59	63	61
認定率	11.5%	11.8%	11.0%
三木	50	57	48
認定率	12.4%	13.3%	11.1%
塩屋	32	37	32
認定率	12.5%	13.8%	11.9%

認定率：高齢者に占める認定者の割合



認知症高齢者：要介護認定調査の日常生活自立度ランクⅡ以上の高齢者



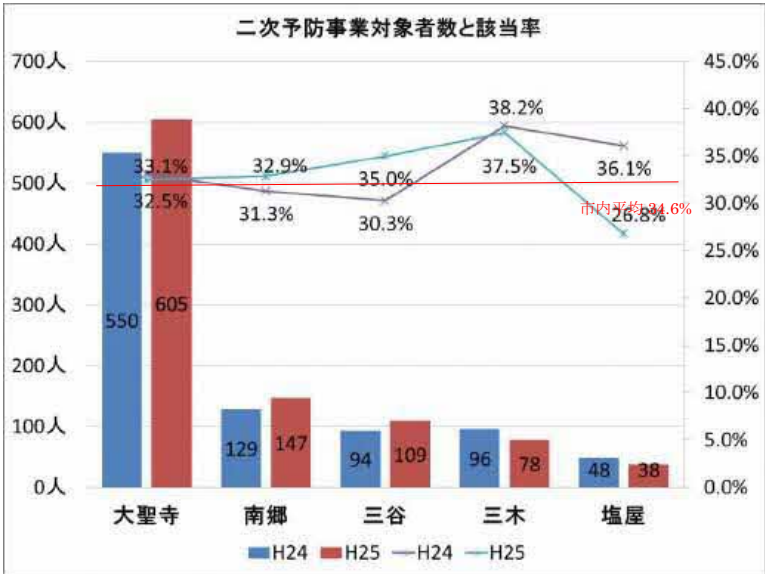
寝たきり高齢者：要介護認定調査の日常生活自立度ランクB以上の高齢者
※施設入所者を除いた地区別認知症高齢者数・寝たきり高齢者数（平成26年10月現在）

地区別二次予防事業対象者数

	平成24年	平成25年
大聖寺	550	605
該当率	33.1%	32.5%
南郷	129	147
該当率	31.3%	32.9%
三谷	94	109
該当率	30.3%	35.0%
三木	96	78
該当率	38.2%	37.5%
塩屋	48	38
該当率	36.1%	26.8%

該当率：チェックリスト回答者に占める二次予防事業対象者の割合

二次予防事業対象者：「介護予防基本チェックリスト」の結果、今後、要支援あるいは要介護状態になる可能性が高いと判定された高齢者
※介護予防基本チェックリストは65歳以上の方（要支援または要介護認定者を除く）を対象に平成24年度・平成25年度の各6月に実施



各地区のデータから、次のような特徴がみられました。

大聖寺地区

- 高齢化率は、32.4%（26年度）で、25年度から3割を超えている。
- 要介護認定率は、13.1%（26年度）で、圏域内で最も高い。
- 要介護認定者に占める、認知症高齢者の割合が5割を超えている。（51%）
- 他の地区に比べ病院、医院、歯科医院、薬局等の医療機関が多く、充足している。
- 介護の在宅サービスや、認知症に関する相談が多い。

南郷地区

- 高齢化率は、28.1%（26年度）で3割には達していない。
- 要介護認定者に占める、認知症高齢者の割合が市内で最も高い。（69.4%）
- 要介護認定者に占める、寝たきり高齢者の割合が市内で4番目に高い。（27%）
- 医療機関は、医院が2か所、薬局が1か所ある。
- 介護サービスや認知症の他、家族・人間関係に関する相談が多い。

三谷地区

- 高齢化率は、32.9%（26年度）で、25年度から3割を超えている。
- 要介護認定率は、11%（26年度）で、圏域内で最も低く、市内でも2番目に低い。
- 要介護認定者に占める、認知症高齢者の割合が市内で3番目に低い。（44.3%）
- 医療機関は、病院、歯科医院、薬局が各1か所ある。
- 介護の在宅サービスや、認知症に関する相談が多い。

三木地区

- 高齢化率は、26.3%（26年度）で、圏域内で最も低い。
- 要介護認定者に占める、寝たきり高齢者の割合が市内で3番目に低い。（14.6%）
- 二次予防事業対象者の割合が圏域内で最も高い。（25年度）
- 病院、医院、歯科医院、薬局等の医療機関がない。
- 認知症や身体機能の他、家族・人間関係に関する相談が多い。

塩屋地区

- 高齢化率は、37.6%（26年度）で、圏域内で最も高く、市内でも2番目に高い。
- 要介護認定者に占める、認知症高齢者の割合が市内で2番目に低い。（43.8%）
- 要介護認定者に占める、寝たきり高齢者の割合が市内で最も高い。（34.4%）
- 二次予防事業対象者の割合が市内で最も低い。（25年度）
- 病院、医院、歯科医院、薬局等の医療機関や介護サービス事業所がない。

(2) 山代圏域

地区別高齢者数と高齢化率の推移（※施設入所者を除く）

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
山 代	3,181	3,297	3,374
高齢化率	28.4%	29.7%	31.1%
勅 使	442	460	465
高齢化率	26.4%	27.4%	28.3%
東谷口	253	270	281
高齢化率	25.0%	27.1%	28.7%
庄	536	546	556
高齢化率	22.3%	22.8%	23.5%
別 所	342	357	368
高齢化率	26.0%	27.5%	28.4%

高齢化率：人口に占める高齢者の割合

地区別要介護認定者数と認定率の推移（※施設入所者を除く）

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
山 代	424	490	443
認定率	13.3%	14.9%	13.1%
勅 使	64	64	60
認定率	14.5%	13.9%	12.9%
東谷口	41	47	43
認定率	16.2%	17.4%	15.3%
庄	66	63	62
認定率	12.3%	11.5%	11.2%
別 所	42	34	31
認定率	12.3%	9.5%	8.4%

認定率：高齢者に占める認定者の割合



認知症高齢者：要介護認定調査の日常生活自立度ランクⅡ以上の高齢者



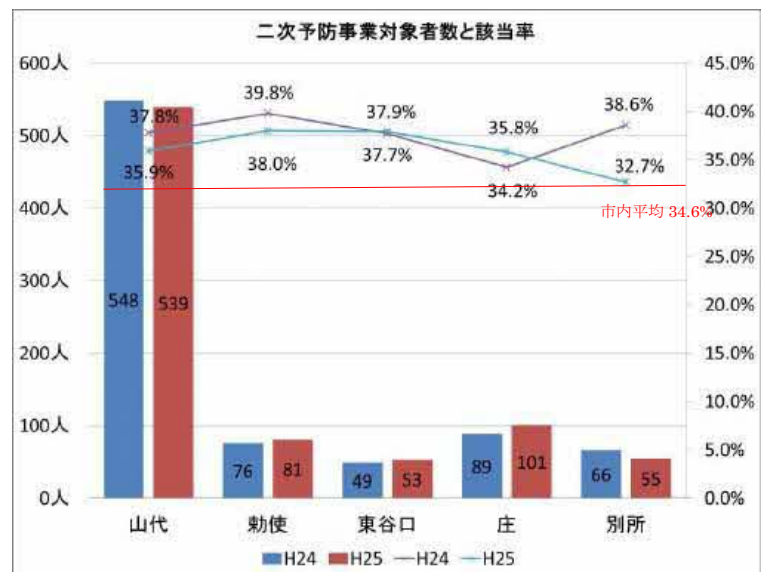
寝たきり高齢者：要介護認定調査の日常生活自立度ランク B 以上の高齢者

※ 施設入所者を除いた地区別認知症高齢者数・寝たきり高齢者数（平成 26 年 10 月現在）

地区別二次予防事業対象者数

	平成24年	平成25年
山 代	548	539
該当率	37.8%	35.9%
勅 使	76	81
該当率	39.8%	38.0%
東 谷 口	49	53
該当率	37.7%	37.9%
庄	89	101
該当率	34.2%	35.8%
別 所	66	55
該当率	38.6%	32.7%

該当率：チェックリスト回答者に占める二次予防事業対象者の割合



二次予防事業対象者：「介護予防基本チェックリスト」の結果、今後、要支援あるいは要介護状態になる可能性が高いと判定された高齢者

※介護予防基本チェックリストは 65 歳以上の方(要支援または要介護認定者を除く)を対象に平成 24 年度・平成 25 年度の各 6 月に実施

各地区のデータから、次のような特徴がみられました。

山代地区

- 高齢化率は、26 年度から 3 割を超えており（31.1%）、圏域内で最も高い。
- 要介護認定者に占める、認知症高齢者の割合が圏域内で 2 番目に低い。（44.7%）
- 要介護認定者に占める、寝たきり高齢者の割合が圏域内で 2 番目に低い。（16%）
- 他の地区に比べ病院、医院、歯科医院、薬局等の医療機関が多く、充足している。
- 認知症や身体機能、デイサービス等の利用の他、お金の管理に関する相談が多い。

勅使地区

- 高齢化率は、28.3%（26 年度）で、3 割には達していない。
- 要介護認定者に占める、認知症高齢者の割合が 60%と高い。
- 二次予防事業対象者の割合が圏域内で最も高い。（25 年度）
- 医療機関は、医院が 1 か所ある。
- デイサービス・デイケア利用に関する相談が最も多い。

東谷口地区

- 高齢化率は、28.7%（26 年度）で、3 割には達していない。
- 要介護認定率は、15.3%（26 年度）で、圏域内で最も高い。
- 要介護認定者に占める、認知症高齢者の割合が市内で 2 番目に高い。（67.4%）
- 要介護認定者に占める、寝たきり高齢者の割合が圏域内で最も高い。（27.9%）
- 病院、医院、歯科医院、薬局等の医療機関や介護サービス事業所がない。

庄地区

- 高齢化率は、23.5%（26 年度）で、圏域内で最も低く、市内でも 2 番目に低い。
- 要介護認定率は、11.2%（26 年度）で、市内で 4 番目に低い。
- 要介護認定者に占める、認知症高齢者の割合が市内で 3 番目に高い。（64.5%）
- 病院、医院、歯科医院、薬局等の医療機関や介護サービス事業所がない。
- 認知症や身体機能、デイサービス・デイケア利用に関する相談が多い。

別所地区

- 高齢化率は、28.4%（26 年度）で、3 割には達していない。
- 要介護認定率は、8.4%（26 年度）で、市内で最も低い。
- 要介護認定者に占める、認知症高齢者の割合が市内で最も低い。（41.9%）
- 要介護認定者に占める、寝たきり高齢者の割合が市内で最も低い。（12.9%）
- 二次予防事業対象者の割合が圏域内で最も低い。（25 年度）

地区別高齢者数と高齢化率の推移（※施設入所者を除く）

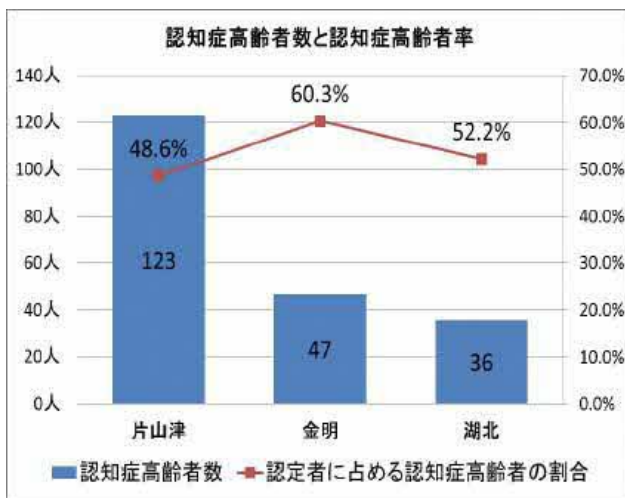
	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
片山津	1,709	1,778	1,816
高齢化率	31.6%	33.1%	34.3%
金 明	563	576	608
高齢化率	26.3%	27.4%	28.7%
湖 北	419	440	448
高齢化率	20.3%	21.1%	22.0%

高齢化率：人口に占める高齢者の割合

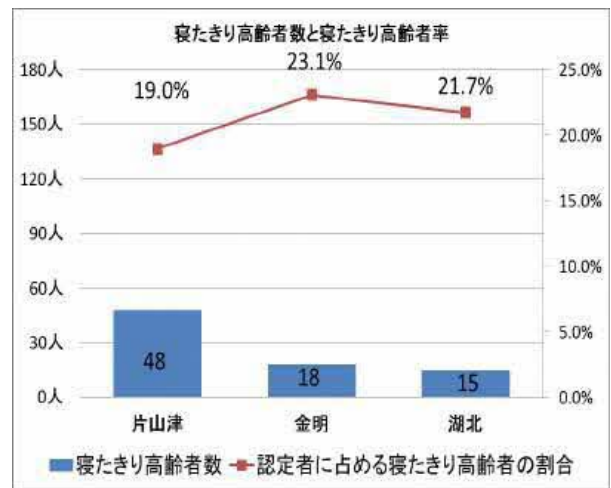
地区別要介護認定者数と認定率の推移（※施設入所者を除く）

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
片山津	219	266	253
認定率	12.8%	15.0%	13.9%
金 明	61	71	78
認定率	10.8%	12.3%	12.8%
湖 北	65	70	69
認定率	15.5%	15.9%	15.4%

認定率：高齢者に占める認定者の割合



認知症高齢者：要介護認定調査の日常生活自立度ランクⅡ以上の高齢者



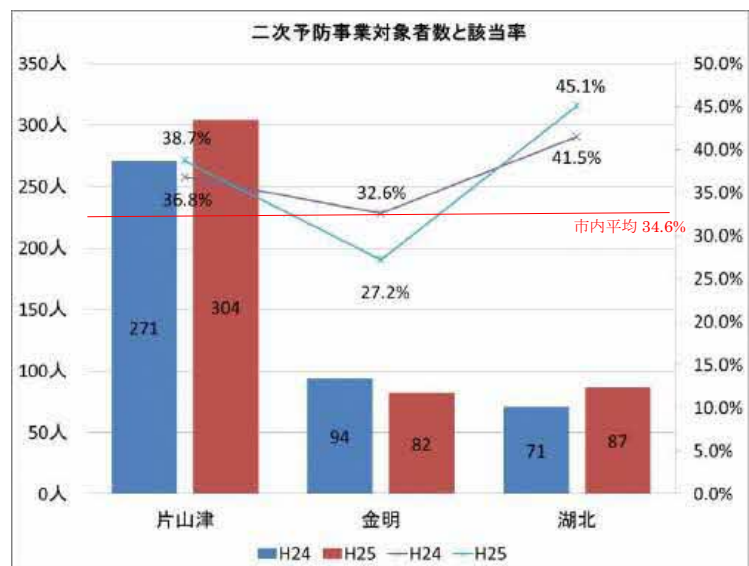
寝たきり高齢者：要介護認定調査の日常生活自立度ランク B 以上の高齢者

※ 施設入所者を除いた地区別認知症高齢者数・寝たきり高齢者数（平成 26 年 10 月現在）

地区別二次予防事業対象者数

	平成24年	平成25年
片山津	271	304
該当率	36.8%	38.7%
金 明	94	82
該当率	32.6%	27.2%
湖 北	71	87
該当率	41.5%	45.1%

該当率：チェックリスト回答者に占める二次予防事業対象者の割合



二次予防事業対象者：「介護予防基本チェックリスト」の結果、今後、要支援あるいは要介護状態になる可能性が高いと判定された高齢者

※介護予防基本チェックリストは 65 歳以上の方(要支援または要介護認定者を除く)を対象に平成 24 年度・平成 25 年度の各 6 月に実施

各地区のデータから、次のような特徴がみられました。

片山津地区

- 高齢化率は、34.3%（26 年度）で、圏域内で最も高い。
- 要介護認定者に占める、認知症高齢者、寝たきり高齢者が圏域内で最も低い。
- 二次予防事業対象者の割合が市内で 4 番目に高い。（25 年度）
- 医院、歯科医院、薬局等の医療機関が充足している。
- 認知症や身体機能、介護に関する相談の他、お金の管理に関する相談が多い。

金明地区

- 高齢化率は、28.7%（26 年度）で、3 割には達していない。
- 要介護認定者に占める、認知症高齢者の割合が市内で 4 番目に高い。（60.3%）
- 二次予防事業対象者の割合が市内で 2 番目に低い。（25 年度）
- 病院、医院、歯科医院、薬局等の医療機関がない。
- 虐待問題、身体機能、特定疾患や認知症に関する相談が多い。

湖北地区

- 高齢化率は、22%（26 年度）で、市内で最も低い。
- 要介護認定率は、15.4%（26 年度）で、市内で 4 番目に高い。
- 二次予防事業対象者の割合が市内で最も高い。（25 年度）
- 医療機関は、病院、医院が各 1 か所ある。
- 認知症やデイサービス・デイケア利用に関する相談が多い。

(4)

橋立圏域

地区別高齢者数と高齢化率の推移（※施設入所者を除く）

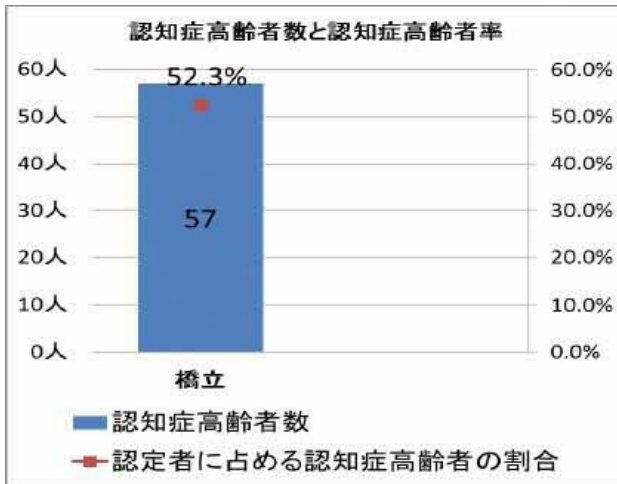
	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
橋 立	807	842	862
高齢化率	26.6%	28.3%	29.3%

高齢化率：人口に占める高齢者の割合

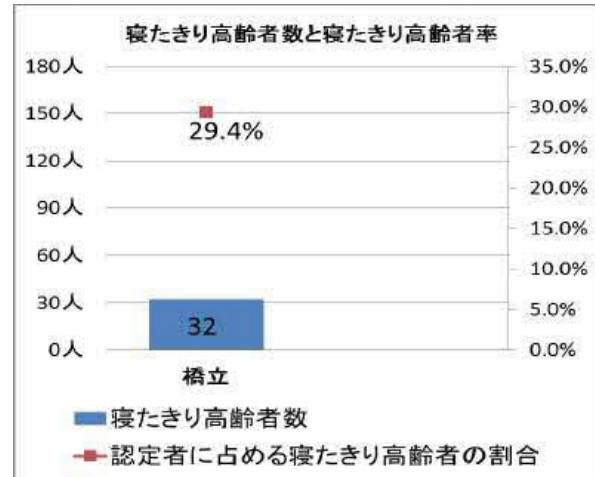
地区別要介護認定者数と認定率の推移（※施設入所者を除く）

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
橋 立	109	119	109
認定率	13.5%	14.1%	12.6%

認定率：高齢者に占める認定者の割合



認知症高齢者：要介護認定調査の日常生活自立度ランクⅡ以上の高齢者



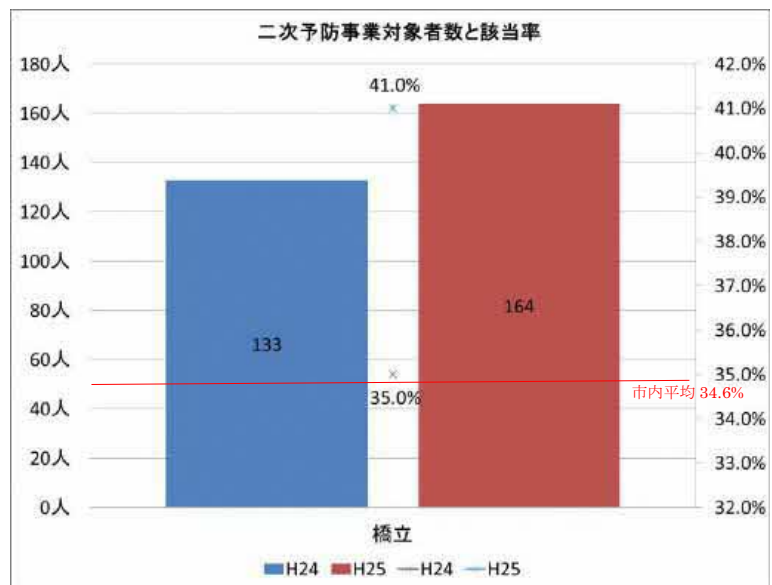
寝たきり高齢者：要介護認定調査の日常生活自立度ランク B 以上の高齢者

※ 施設入所者を除いた地区別認知症高齢者数・寝たきり高齢者数（平成 26 年 10 月現在）

地区別二次予防事業対象者数

	平成24年	平成25年
橋 立	133	164
該当率	35.0%	41.0%

該当率：チェックリスト回答者に占める二次予防事業対象者の割合



二次予防事業対象者：「介護予防基本チェックリスト」の結果、今後、要支援あるいは要介護状態になる可能性が高いと判定された高齢者

※介護予防基本チェックリストは 65 歳以上の方(要支援または要介護認定者を除く)を対象に平成 24 年度・平成 25 年度の各 6 月に実施

各地区のデータから、次のような特徴がみられました。

橋立地区

- 高齢化率は、29.3%（26 年度）で 3 割近い。
- 要介護認定者に占める、寝たきり高齢者の割合が市内で 2 番目に高い。（29.4%）
- 二次予防事業対象者の割合が市内で 3 番目に高い。（25 年度）
- 医療機関は、医院が 1 か所ある。
- 認知症や介護予防に関する相談が多い。

(5)

動橋圏域

地区別高齢者数と高齢化率の推移（※施設入所者を除く）

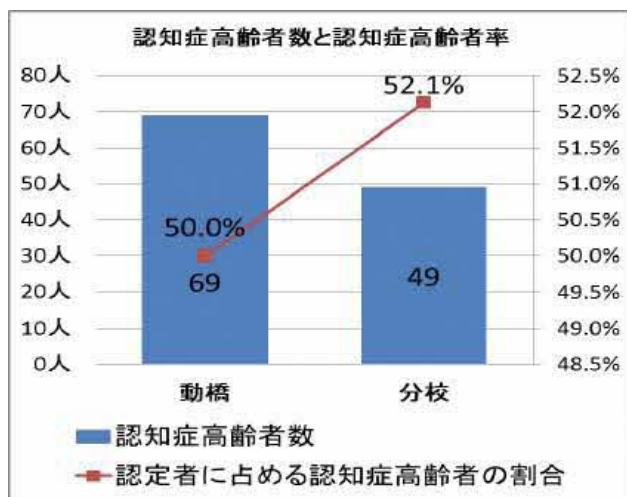
	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
動 橋	934	966	991
高齢化率	23.3%	24.0%	24.9%
分 校	575	613	621
高齢化率	25.4%	27.1%	27.6%

高齢化率：人口に占める高齢者の割合

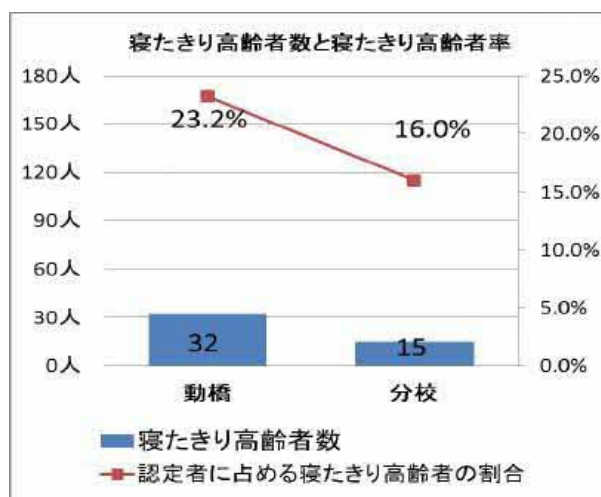
地区別要介護認定者数と認定率の推移（※施設入所者を除く）

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
動 橋	126	133	138
認定率	13.5%	13.8%	13.9%
分 校	92	94	94
認定率	16.0%	15.3%	15.1%

認定率：高齢者に占める認定者の割合



認知症高齢者：要介護認定調査の日常生活自立度ランクⅡ以上の高齢者



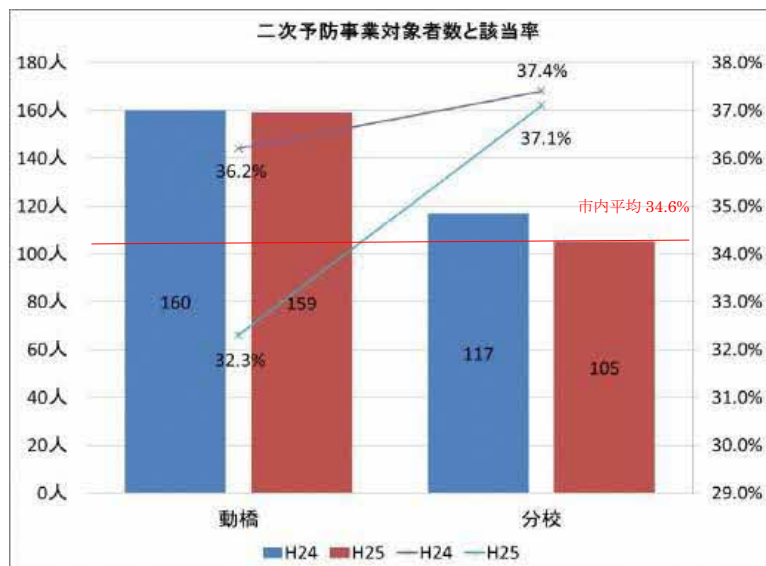
寝たきり高齢者：要介護認定調査の日常生活自立度ランクB以上の高齢者

※ 施設入所者を除いた地区別認知症高齢者数・寝たきり高齢者数（平成 26 年 10 月現在）

地区別二次予防事業対象者数

	平成24年	平成25年
動 橋	160	159
該当率	36.2%	32.3%
分 校	117	105
該当率	37.4%	37.1%

該当率：チェックリスト回答者に占める二次予防事業対象者の割合



二次予防事業対象者：「介護予防基本チェックリスト」の結果、今後、要支援あるいは要介護状態になる可能性が高いと判定された高齢者

※介護予防基本チェックリストは 65 歳以上の方(要支援または要介護認定者を除く)を対象に平成 24 年度・平成 25 年度の各 6 月に実施

各地区のデータから、次のような特徴がみられました。

勤橋地区

- 高齢化率は、24.9%（26 年度）で、市内で4番目に低い。
- 要介護認定者に占める、寝たきり高齢者の割合が市内で5番目に高い。（23.2%）
- 二次予防事業対象者の割合が市内で4番目に低い。（25 年度）
- 医療機関は、医院が2か所、歯科医院、薬局が各1か所ある。
- デイサービス・デイケア利用や身体機能に関する相談が多い。

分校地区

- 高齢化率は、27.6%（26 年度）で、3割には達していない。
- 要介護認定者に占める、寝たきり高齢者の割合が市内で4番目に低い。（16%）
- 二次予防事業対象者の割合が市内平均より高い。
- 医療機関は、医院が1か所ある。
- デイサービス・デイケア利用や身体機能に関する相談が多い。

(6)

作見圏域

地区別高齢者数と高齢化率の推移（※施設入所者を除く）

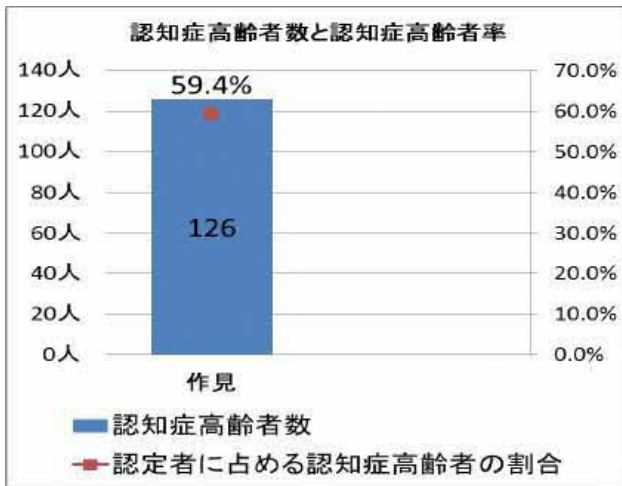
	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
作 見	1,647	1,761	1,852
高齢化率	20.7%	22.2%	23.8%

高齢化率：人口に占める高齢者の割合

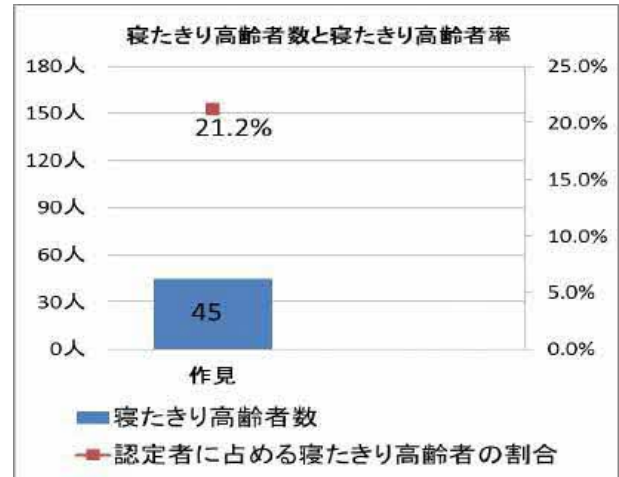
地区別要介護認定者数と認定率の推移（※施設入所者を除く）

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
作 見	186	227	212
認定率	11.3%	12.9%	11.4%

認定率：高齢者に占める認定者の割合



認知症高齢者：要介護認定調査の日常生活自立度ランクⅡ以上の高齢者



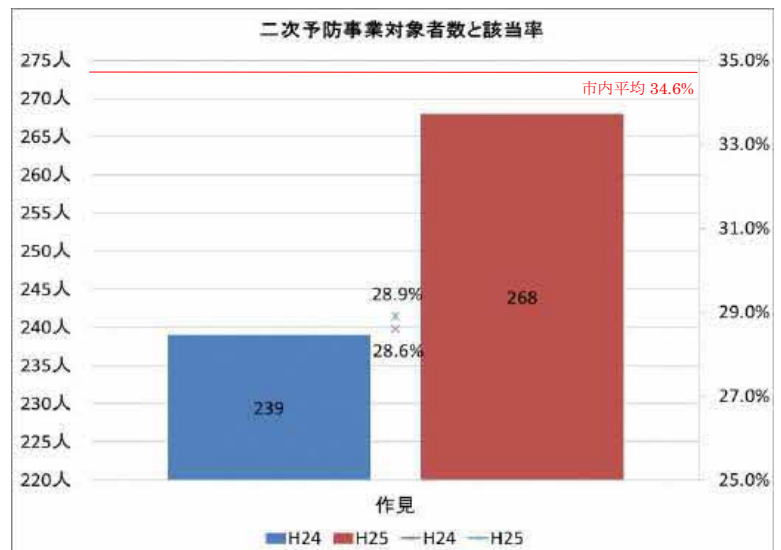
寝たきり高齢者：要介護認定調査の日常生活自立度ランク B 以上の高齢者

※ 施設入所者を除いた地区別認知症高齢者数・寝たきり高齢者数（平成 26 年 10 月現在）

地区別二次予防事業対象者数

	平成24年	平成25年
作 見	239	268
該当率	28.6%	28.9%

該当率：チェックリスト回答者に占める二次予防事業対象者の割合



二次予防事業対象者：「介護予防基本チェックリスト」の結果、今後、要支援あるいは要介護状態になる可能性が高いと判定された高齢者

※介護予防基本チェックリストは 65 歳以上の方(要支援または要介護認定者を除く)を対象に平成 24 年度・平成 25 年度の各 6 月に実施

各地区のデータから、次のような特徴がみられました。

作見地区

- 高齢化率は、23.8%（26 年度）で、市内で3番目に低い。
- 要介護認定者に占める、認知症高齢者の割合が6割近い。（59.4%）
- 二次予防事業対象者の割合が市内で3番目に低い。（25 年度）
- 他の地区に比べ病院、医院、歯科医院、薬局等の医療機関が多く、充足している。
- 認知症や身体機能に関する相談が多い。

(2) 山中圏域

地区別高齢者数と高齢化率の推移（※施設入所者を除く）

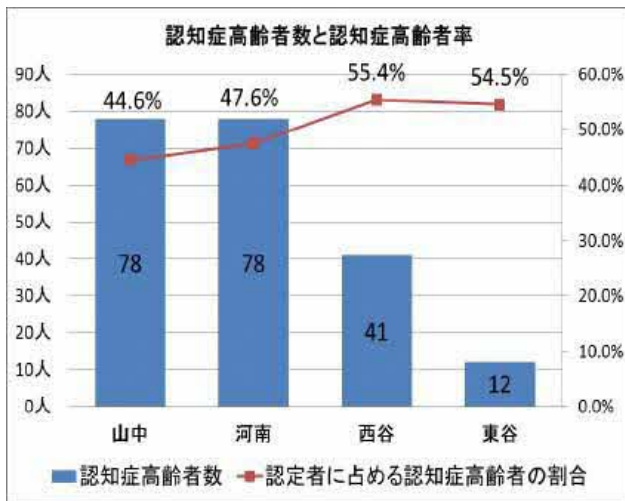
	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
山 中	1,081	1,095	1,116
高齢化率	38.5%	40.1%	42.2%
河 南	1,144	1,200	1,219
高齢化率	26.8%	28.5%	29.5%
西 谷	400	403	414
高齢化率	33.8%	35.4%	36.8%
東 谷	106	120	107
高齢化率	34.2%	38.5%	35.8%

高齢化率：人口に占める高齢者の割合

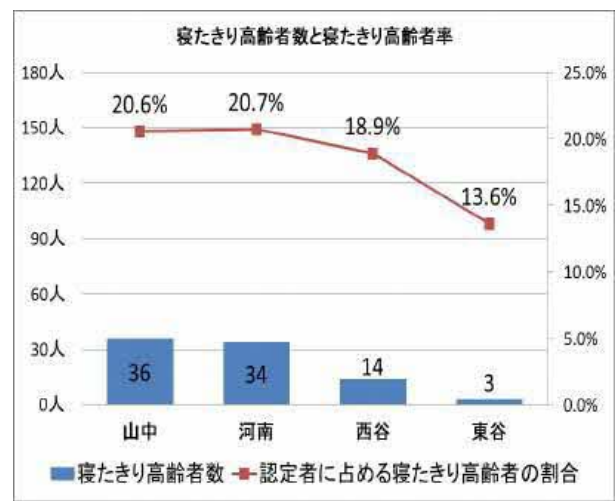
地区別要介護認定者数と認定率の推移（※施設入所者を除く）

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
山 中	150	173	175
認定率	13.9%	15.8%	15.7%
河 南	150	173	164
認定率	13.1%	14.4%	13.5%
西 谷	65	70	74
認定率	16.3%	17.4%	17.9%
東 谷	16	32	22
認定率	15.1%	26.7%	20.6%

認定率：高齢者に占める認定者の割合



認知症高齢者：要介護認定調査の日常生活自立度ランクⅡ以上の高齢者



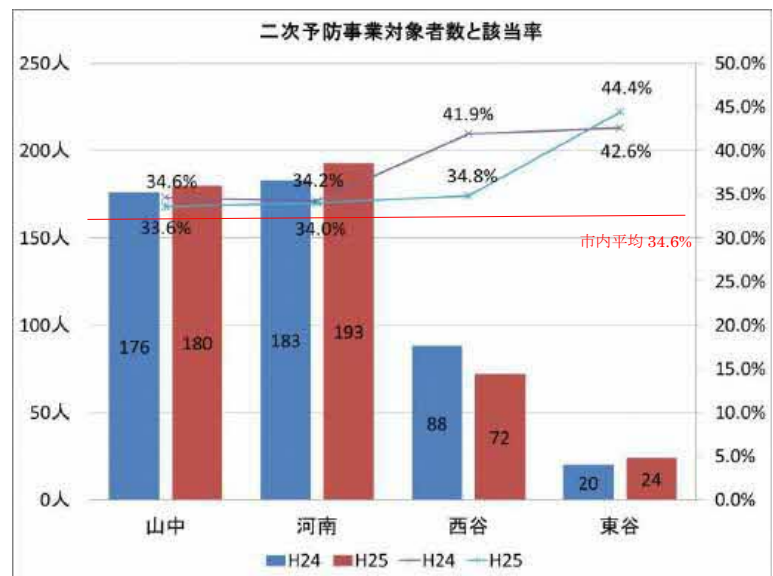
寝たきり高齢者：要介護認定調査の日常生活自立度ランク B 以上の高齢者

※ 施設入所者を除いた地区別認知症高齢者数・寝たきり高齢者数（平成 26 年 10 月現在）

地区別二次予防事業対象者数

	平成24年	平成25年
山 中	176	180
該当率	34.6%	33.6%
河 南	183	193
該当率	34.2%	34.0%
西 谷	88	72
該当率	41.9%	34.8%
東 谷	20	24
該当率	42.6%	44.4%

該当率：チェックリスト回答者に占める二次予防事業対象者の割合



二次予防事業対象者：「介護予防基本チェックリスト」の結果、今後、要支援あるいは要介護状態になる可能性が高いと判定された高齢者

※介護予防基本チェックリストは 65 歳以上の方（要支援または要介護認定者を除く）を対象に平成 24 年度・平成 25 年度の各 6 月に実施

各地区のデータから、次のような特徴がみられました。

山中地区

- 高齢化率は、42.2%（26年度）で、市内で最も高い。
- 要介護認定率は、15.7%（26年度）で、市内で3番目に高い。
- 要介護認定者に占める、認知症高齢者の割合が市内で4番目に低い。（44.6%）
- 医療機関は、医院が5か所、歯科医院が1か所ある。
- 認知症やお金の管理に関する相談が多い。

河南地区

- 高齢化率は、29.5%（26年度）で3割近い。
- 要介護認定率は、13.5%（26年度）で、圏域内で最も低い。
- 要介護認定者に占める、寝たきり高齢者の割合が圏域内で最も高い。（20.7%）
- 医療機関は、医院、歯科医院、薬局が各1か所ある。
- デイサービス・デイケア利用や、認知症、身体機能に関する相談が多い。

西谷地区

- 高齢化率は、36.8%（26年度）で、圏域内で2番目、市内でも3番目に高い。
- 要介護認定率は、17.9%（26年度）で、市内で2番目に高い。
- 要介護認定者に占める、認知症高齢者の割合が圏域内で最も高い。（55.4%）
- 病院、医院、歯科医院、薬局等の医療機関や介護サービス事業所がない。
- 認知症や介護予防に関する相談が多い。

東谷地区

- 高齢化率は、35.8%（26年度）で、市内で4番目に高い。
- 要介護認定率は、20.6%（26年度）で、市内で最も高い。
- 要介護認定者に占める、寝たきり高齢者の割合が市内で2番目に低い。（13.6%）
- 二次予防事業対象者の割合が市内で2番目に高い。（25年度）
- 病院、医院、歯科医院、薬局等の医療機関がない。

1. 地区名

大聖寺（大聖寺）

2. 地区図

位置図



医院

1	竹下耳鼻咽喉科医院
2	正来医院
3	武村眼科医院
4	稲坂内科医院
5	田中医院
6	林内科医院
7	高沢整形外科医院
8	いしぐろクリニック
9	橋本医院
10	竹谷小児科医院

歯科

11	塩浜歯科医院
12	塚本歯科医院
13	竹浪歯科医院
14	菊池歯科医院
15	サン歯科クリニック
16	能勢歯科医院
17	笠間歯科医院
18	歯科 クドウ・クリニック
19	医療法人社団十二一会 天日歯科医院
20	土田歯科医院



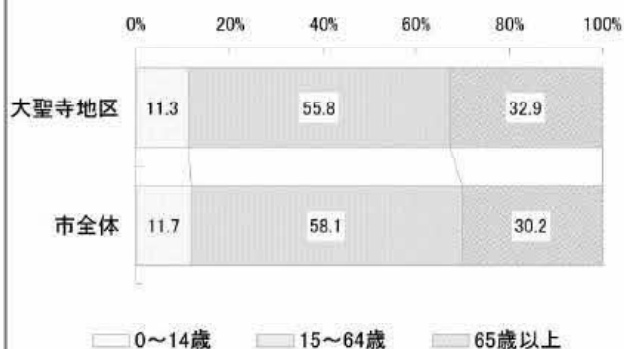
居宅介護サービス事業所

A	グループホーム 葵の園・東町
B	野の花
C	実乃里
D	篤豊会 デイサービスセンター
E	慈妙院加賀
F	藤華苑

地域密着サービス事業所

G	小規模多機能ホームさようまち
H	大聖寺 なでしこの家

3 区分別人口割合



要介護認定率（軽度・中重度）



3. 基礎情報

項目	単位	数値		圏域合計・平均		市合計・平均		備考
人 口	人	10,762		18,131		70,885		平成 26 年 4 月 1 日現在
65 歳以上人口（人）	人	3,536		5,772		21,376		平成 26 年 4 月 1 日現在
前期高齢者人口・割合	人・％	1,821	51.5	2,926	50.7	10,982	51.4	前期高齢者人口/人口
後期高齢者人口・割合	人・％	1,715	48.5	2,846	49.3	10,394	48.6	後期高齢者人口/人口
高齢化率（％）	％	32.9		29.8		30.2		65 歳以上人口/人口
要介護認定者数（在宅のみ）	人	474		722		2,782		平成 26 年 4 月 1 日現在
要介護認定率	％	13.4		14.2		13.0		要介護認定者数/65 歳以上人口
軽度認定率	％	10.7		11.9		10.5		軽度認定者数/65 歳以上人口
中重度認定率	％	2.7		2.3		2.5		中重度認定者数/65 歳以上人口
認知症高齢者数・割合	人・％	413	11.7	664	11.5	2,595	12.1	認知症高齢者数/65 歳以上人口
在宅サービス利用率	人・％	344	72.6	518	71.7	2,077	74.7	在宅サービス利用数/ 要介護認定者数（在宅のみ）
1 人当り療養諸費費用額	円	—		—		355,925		平成 24 年度
悪性新生物年齢調整死亡率	率	—		—		129.1		平成 24 年度
心疾患年齢調整死亡率	率	—		—		47.5		平成 24 年度
脳血管疾患年齢調整死亡率	率	—		—		41.5		平成 24 年度
新規申請数（1 位）	件	認知症	23	40		136		平成 25 年 4 月
新規申請数（2 位）	件	悪性新生物 （がん）	15	20		67		平成 25 年 4 月
在宅寝たきり者数	人	468		711		2,717		平成 26 年 10 月
二次予防事業対象者数	人	600		977		3,444		平成 25 年度
特定健診受診率	％	44.1		—		37.5		平成 24 年度
喫煙率	％	—		—		16.1		平成 25 年度
民生委員活動	延べ件数	12,251		19,322		72,040		平成 25 年度
	述べ日数	3,653		6,702		24,819		
見守り支えあい制度	登録者数	583		908		3,527		平成 25 年度
市営住宅入居者世帯数 （うち高齢者単身世帯）	世帯	128 (67)		128 (67)		374 (177)		平成 25 年 4 月 1 日現在

4. 相談事業、実態調査からみた市民の相談内容

	相談内容等	件数 (件)	カテゴリー内 割合 (%)	全体割合 (%)	総括
医療	1. 特定疾患の相談	45	45.0	4.7	・ カテゴリー別で相談件数の多いものをみると、1位「介護」認知症に関する相談、2位「介護予防」身体機能について、3位「介護」介護認定の新規申請の依頼、4位「介護」デイサービス・デイケア利用について、5位「介護予防」二次予防について、となっています。
	2. 自分の病気について	21	21.0	2.2	
	3. リハビリの利用意向	11	11.0	1.1	
	4. 病院の利用	8	8.0	0.8	
	5. 退院後の生活について	5	5.0	0.5	
	6. その他	10	10.0	1.0	
	小 計	100	100.0	10.4	
介護	1. 認知症に関する相談	146	32.1	15.2	・ 相談内容は、全体と同様の傾向ではありますが、介護認定の新規申請の依頼に関する相談が上位に上がってきています。
	2. 介護認定の新規申請の依頼	88	19.3	9.2	
	3. デイサービス・デイケア利用について	74	16.3	7.7	
	4. 在宅サービスによる入浴希望	31	6.8	3.2	
	5. 在宅サービスの利用にあたっての相談	25	5.5	2.6	
	6. その他	91	20.0	9.5	
	小計	455	100.0	47.5	
介護予防	1. 身体機能について	95	43.0	9.9	・ 介護認定の新規申請の依頼の内容については、本人の自立支援のため、介護認定を受けて、一人でも生活できるようにしたい、認定を受けて、一人でも生活できるように、認定を受けられたいなどとなっています。
	2. 二次予防について	46	20.8	4.8	
	3. 一次予防について	36	16.3	3.8	
	4. チェックリストについて	26	11.8	2.7	
	5. 口腔ケアについて	8	3.6	0.8	
	6. その他	10	4.5	1.0	
	小 計	221	100.0	23.1	
生活支援	1. 虐待問題について	28	20.3	2.9	
	2. ひとり暮らしによる不安に対する生活相談	21	15.2	2.2	
	3. 入浴サービスについて	17	12.3	1.8	
	4. お金の管理について	14	10.1	1.5	
	5. 家族関係、人間関係について	12	8.7	1.3	
	6. その他	46	33.3	4.8	
	小 計	138	100.0	14.4	
住まい	1. 手すりの設置、段差の解消要望	28	63.6	2.9	
	2. トイレの改修要望	8	18.2	0.8	
	3. 住宅改修に関わる介護申請について	6	13.6	0.6	
	4. 住宅改修相談について	2	4.5	0.2	
	小 計	44	100.0	4.6	
	合 計	958	—	100.0	

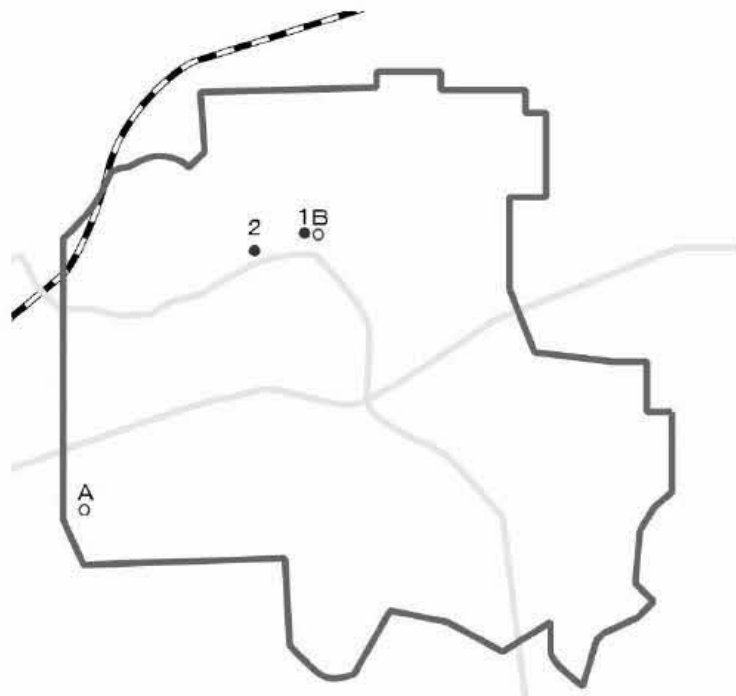
5. 社会資源の状況

	項 目	地区内数量	市全体数量	備 考
医療	病院	3か所	6か所	
	医院	10か所	46か所	
	歯科医院	10か所	30か所	
	薬局	9か所	29か所	
介護	居宅介護支援	1事業所	14事業所	
	居宅介護サービス	6事業所	54事業所	
	地域密着サービス	2事業所	18事業所	
	施設サービス	2事業所	11事業所	
	介護予防支援	1事業所	1事業所	
	介護予防サービス	5事業所	46事業所	
介護予防	元気はつらつ塾	—	4か所	
	介護予防筋力向上トレーニング教室	—	3か所	
	老人福祉センター	1か所	4か所	
	ケアハウス	1か所	4か所	
	介護なんでも110番	3か所	32か所	
	おたっしやサークル	19か所	79か所	
生活支援	新聞販売店	3営業所	23営業所	
	牛乳配達営業店	3か所	8か所	
	コンビニエンスストア	4か所	33か所	
	農業組合法人	2か所	9か所	
	郵便局	5か所	17か所	
	周遊バス バス停	1か所	30か所	
住まい	サービス付高齢者向け住宅	—	3か所	
	グループホーム	1か所	12か所	

1. 地区名

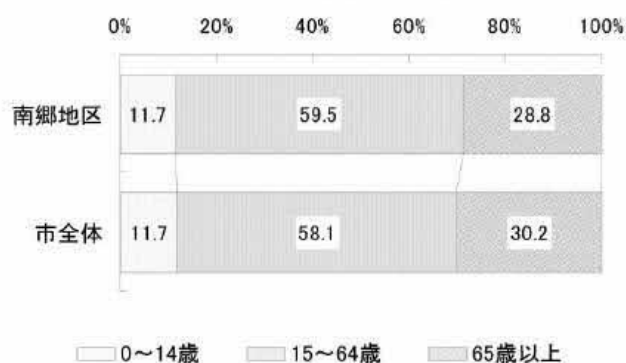
南郷（南郷）

2. 地区図

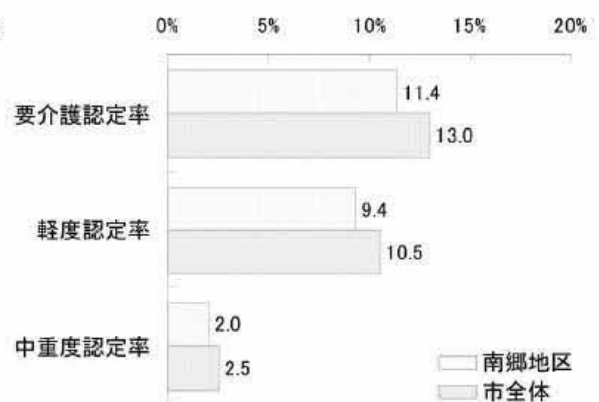


医院	
1	池本整形外科医院
2	うわだな小児科医院
居宅介護サービス事業所	
A	加賀のぞみ園
地域密着サービス事業所	
B	小規模多機能ホーム なんこうえがお

3 区分別人口割合



要介護認定率（軽度・中重度）



3. 基礎情報

項目	単位	数値		圏域合計・平均		市合計・平均		備考
人 口	人	3,266		18,131		70,885		平成26年4月1日現在
65歳以上人口（人）	人	941		5,772		21,376		平成26年4月1日現在
前期高齢者人口・割合	人・％	457	48.6	2,926	50.7	10,982	51.4	前期高齢者人口/人口
後期高齢者人口・割合	人・％	484	51.4	2,846	49.3	10,394	48.6	後期高齢者人口/人口
高齢化率（％）	％	28.8		29.8		30.2		65歳以上人口/人口
要介護認定者数（在宅のみ）	人	107		722		2,782		平成26年4月1日現在
要介護認定率	％	11.4		14.2		13.0		要介護認定者数/65歳以上人口
軽度認定率	％	9.4		11.9		10.5		軽度認定者数/65歳以上人口
中重度認定率	％	2.0		2.3		2.5		中重度認定者数/65歳以上人口
認知症高齢者数・割合	人・％	106	11.3	664	11.5	2,595	12.1	認知症高齢者数/65歳以上人口
在宅サービス利用率	人・％	64	59.8	518	71.7	2,077	74.7	在宅サービス利用数/ 要介護認定者数（在宅のみ）
1人当り療養諸費費用額	円	—		—		355,925		平成24年度
悪性新生物年齢調整死亡率	率	—		—		129.1		平成24年度
心疾患年齢調整死亡率	率	—		—		47.5		平成24年度
脳血管疾患年齢調整死亡率	率	—		—		41.5		平成24年度
新規申請数（1位）	件	認知症	9	40		136		平成25年4月
新規申請数（2位）	件	悪性新生物 （がん）	3	20		67		平成25年4月
新規申請数（2位）	件	脳卒中	3	19		104		平成25年4月
新規申請数（2位）	件	関節症	3	15		58		平成25年4月
在宅寝たきり者数	人	95		711		2,717		平成26年10月
二次予防事業対象者数	人	147		977		3,444		平成25年度
特定健診受診率	％	49.3		—		37.5		平成24年度
喫煙率	％	—		—		16.1		平成25年度
民生委員活動	延べ件数	2,292		19,322		72,040		平成25年度 三谷・南郷累計
	述べ日数	1,253		6,702		24,819		
見守り支えあい制度	登録者数	135		908		3,527		平成25年度
市営住宅入居者世帯数 （うち高齢者単身世帯）	世帯	—		128 (67)		374 (177)		平成25年4月1日現在

4. 相談事業、実態調査からみた市民の相談内容

	相談内容等	件数 (件)	カテゴリ内 割合 (%)	全体割合 (%)	総括
医療	1. 自分の病気について	3	20.0	1.1	・ カテゴリ別で相談件数の多いものをみると、1位「介護」認知症に関する相談、2位「生活支援」家族関係、人間関係について、3位「介護予防」身体機能について、4位「介護」デイサービス・デイケア利用について、同じく4位「住まい」住宅改修に関わる介護申請について、となっています。 ・ 相談内容は、全体と同様の傾向ではありますが、家族関係、人間関係に関する相談が上位に上がってきています。 ・ 家族関係、人間関係に関する相談に関しては、家庭内での人間関係が悪化しているが、どうすればよいのかなどとなっています。
	1. 自分の病気についての相談	3	20.0	1.1	
	1. 退院後の生活について	3	20.0	1.1	
	4. リハビリの利用	2	13.3	0.8	
	5. その他	4	26.7	1.5	
	小 計	15	100.0	5.7	
介護	1. 認知症に関する相談	47	45.6	17.9	
	2. デイサービス・デイケア利用について	17	16.5	6.5	
	3. 介護認定の新規申請の依頼	10	9.7	3.8	
	4. 在宅サービスの利用にあたっての相談	6	5.8	2.3	
	5. 在宅サービスによる入浴希望	4	3.9	1.5	
	6. その他	19	18.4	7.2	
	小 計	103	100.0	39.2	
介護予防	1. 身体機能について	20	42.6	7.6	・ 家族関係、人間関係に関する相談に関しては、家庭内での人間関係が悪化しているが、どうすればよいのかなどとなっています。
	2. 二次予防について	9	19.1	3.4	
	3. チェックリストについて	8	17.0	3.0	
	4. 一次予防について	7	14.9	2.7	
	5. その他	3	6.4	1.1	
	小 計	47	100.0	17.9	
生活支援	1. 家族関係、人間関係について	43	61.4	16.3	
	2. 虐待問題について	6	8.6	2.3	
	3. お金の管理について	5	7.1	1.9	
	4. 買い物、歩けるか、車の移動	4	5.7	1.5	
	5. 福祉用具の利用について	3	4.3	1.1	
	5. おたっしや訪問	3	4.3	1.1	
	7. その他	6	8.6	2.3	
	小 計	70	100.0	26.6	
住まい	1. 住宅改修に関わる介護申請について	17	60.7	6.5	
	2. 手すりの設置、段差の解消要望	8	28.6	3.0	
	3. トイレの改修要望	3	10.7	1.1	
	小 計	28	100.0	10.6	
	合 計	263	—	100.0	

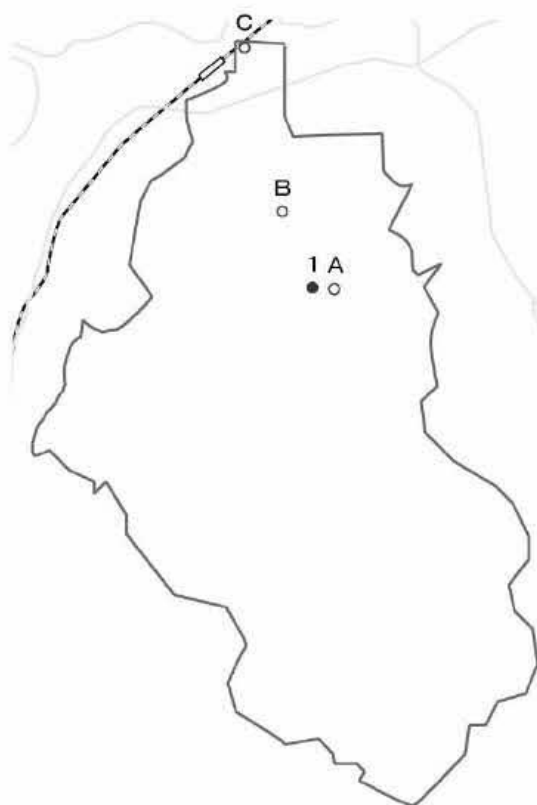
5. 社会資源の状況

	項 目	地区内数量	市全体数量	備 考
医療	病院	—	6か所	
	医院	2か所	46か所	
	歯科医院	—	30か所	
	薬局	1か所	29か所	
介護	居宅介護支援	1事業所	14事業所	
	居宅介護サービス	1事業所	54事業所	
	地域密着サービス	1事業所	18事業所	
	施設サービス	1事業所	11事業所	
	介護予防支援	—	1事業所	
	介護予防サービス	1事業所	46事業所	
介護予防	元気はつらつ塾	1か所	4か所	
	介護予防筋力向上トレーニング教室	—	3か所	
	老人福祉センター	—	4か所	
	ケアハウス	—	4か所	
	介護なんでも110番	2か所	32か所	
	おたっしゃサークル	3か所	79か所	
生活支援	新聞販売店	2営業所	23営業所	
	牛乳配達営業店	—	8か所	
	コンビニエンスストア	—	33か所	
	農業組合法人	—	9か所	
	郵便局	1か所	17か所	
	周遊バス バス停	—	30か所	
住まい	サービス付高齢者向け住宅	—	3か所	
	グループホーム	—	12か所	

1. 地区名

三谷（三谷）

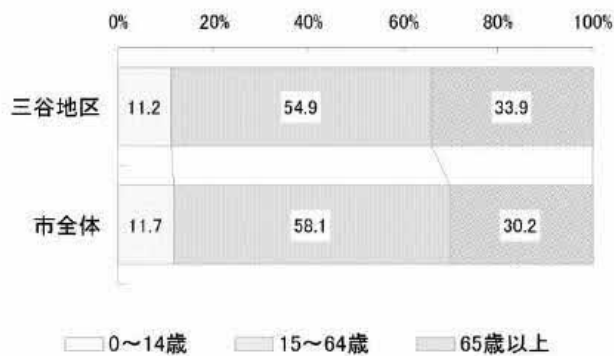
2. 地区図



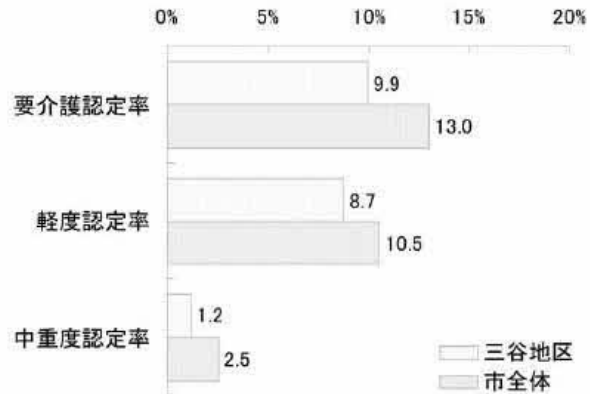
医院

1	加賀温泉リハビリクリニック
	居宅介護サービス事業所
A	加賀温泉ケアセンター
B	グループホームまどい
C	グループホームいろり

3 区分別人口割合



要介護認定率（軽度・中重度）



3. 基礎情報

項目	単位	数値		圏域合計・平均		市合計・平均		備考
人 口	人	1,723		18,131		70,885		平成 26 年 4 月 1 日現在
65 歳以上人口（人）	人	584		5,772		21,376		平成 26 年 4 月 1 日現在
前期高齢者人口・割合	人・％	300	51.4	2,926	50.7	10,982	51.4	前期高齢者人口/人口
後期高齢者人口・割合	人・％	284	48.6	2,846	49.3	10,394	48.6	後期高齢者人口/人口
高齢化率（％）	％	33.9		29.8		30.2		65 歳以上人口/人口
要介護認定者数（在宅のみ）	人	58		722		2,782		平成 26 年 4 月 1 日現在
要介護認定率	％	9.9		14.2		13.0		要介護認定者数/65 歳以上人口
軽度認定率	％	8.7		11.9		10.5		軽度認定者数/65 歳以上人口
中重度認定率	％	1.2		2.3		2.5		中重度認定者数/65 歳以上人口
認知症高齢者数・割合	人・％	77	13.2	664	11.5	2,595	12.1	認知症高齢者数/65 歳以上人口
在宅サービス利用率	人・％	50	86.2	518	71.7	2,077	74.7	在宅サービス利用数/ 要介護認定者数（在宅のみ）
1 人当り療養諸費費用額	円	—		—		355,925		平成 24 年度
悪性新生物年齢調整死亡率	率	—		—		129.1		平成 24 年度
心疾患年齢調整死亡率	率	—		—		47.5		平成 24 年度
脳血管疾患年齢調整死亡率	率	—		—		41.5		平成 24 年度
新規申請数（1 位）	件	認知症	2	40		136		平成 25 年 4 月
新規申請数（1 位）	件	脳卒中	2	19		104		平成 25 年 4 月
新規申請数（1 位）	件	関節症	2	15		58		平成 25 年 4 月
新規申請数（1 位）	件	高血圧症	2	8		42		平成 25 年 4 月
新規申請数（1 位）	件	腰椎圧迫 骨折	2	5		35		平成 25 年 4 月
在宅寝たきり者数	人	56		711		2,717		平成 26 年 10 月
二次予防事業対象者数	人	109		977		3,444		平成 25 年度
特定健診受診率	％	55.5		—		37.5		平成 24 年度
喫煙率	％	—		—		16.1		平成 25 年度
民生委員活動	延べ件数	2,292		19,322		72,040		平成 25 年度 三谷・南郷累計
	述べ日数	1,253		6,702		24,819		
見守り支えあい制度	登録者数	86		908		3,527		平成 25 年度
市営住宅入居者世帯数 （うち高齢者単身世帯）	世帯	—		128 (67)		374 (177)		平成 25 年 4 月 1 日現在

4. 相談事業、実態調査からみた市民の相談内容

	相談内容等	件数 (件)	カテゴリ内 割合 (%)	全体割合 (%)	総括
医療	1. 退院後の生活について	8	72.7	6.6	・ カテゴリ別で相談件数の多いものをみると、1位「介護」認知症に関する相談、2位「介護」デイサービス・デイケア利用について、3位「介護予防」身体機能について、4位「医療」退院後の生活について、同じく4位「介護予防」二次予防について、同じく4位「生活支援」虐待問題について、となっています。 ・ 相談内容は、全体と同様の傾向ではありますが、退院後の生活についての相談が上位に上がってきています。 ・ 退院後の生活についての相談の内容は、医療機関の退院後の在宅での介護が心配であるため、どのような支援、サービスがあるか聞きたいなどとなっています。
	2. 自分の病気について	1	9.1	0.8	
	2. 特定疾患の相談	1	9.1	0.8	
	2. リハビリの利用	1	9.1	0.8	
	小 計	11	100.0	9.0	
介護	1. 認知症に関する相談	17	29.8	13.9	
	2. デイサービス・デイケア利用について	14	24.6	11.5	
	3. 在宅サービスによる入浴希望	7	12.3	5.7	
	4. 介護認定の新規申請の依頼	6	10.5	4.9	
	5. ショートステイ利用について	3	5.3	2.5	
	5. 施設入所相談	3	5.3	2.5	
	7. その他	7	12.3	5.7	
	小 計	57	100.0	46.7	
介護予防	1. 身体機能について	11	36.7	9.0	
	2. 二次予防について	8	26.7	6.6	
	3. 一次予防について	5	16.7	4.1	
	4. チェックリストについて	3	10.0	2.5	
	4. 予防事業の申し込みについて	3	10.0	2.5	
	小 計	30	100.0	24.6	
生活支援	1. 虐待問題について	8	44.4	6.6	
	2. ひとり暮らしによる不安に対しての生活相談	6	33.3	4.9	
	3. 移動について	1	5.6	0.8	
	3. お金の管理について	1	5.6	0.8	
	3. 福祉用具の利用について	1	5.6	0.8	
	3. おたっしや訪問	1	5.6	0.8	
	小 計	18	100.0	14.8	
住まい	1. 住宅改修に関わる介護申請について	4	66.7	3.3	
	2. 手すりの設置、段差の解消要望	2	33.3	1.6	
	小 計	6	100.0	4.9	
	合 計	122	—	100.0	

5. 社会資源の状況

	項 目	地区内数量	市全体数量	備 考
医療	病院	1 か所	6 か所	
	医院	1 か所	46 か所	
	歯科医院	—	30 か所	
	薬局	1 か所	29 か所	
介護	居宅介護支援	1 事業所	14 事業所	
	居宅介護サービス	3 事業所	54 事業所	
	地域密着サービス	—	18 事業所	
	施設サービス	1 事業所	11 事業所	
	介護予防支援	—	1 事業所	
	介護予防サービス	1 事業所	46 事業所	
介護予防	元気はつらつ塾	—	4 か所	
	介護予防筋力向上トレーニング教室	—	3 か所	
	老人福祉センター	—	4 か所	
	ケアハウス	—	4 か所	
	介護なんでも110番	3 事業所	32 か所	
	おたっしゃサークル	2 か所	79 か所	
生活支援	新聞販売店	—	23 営業所	
	牛乳配達営業店	—	8 か所	
	コンビニエンスストア	—	33 か所	
	農業組合法人	—	9 か所	
	郵便局	—	17 か所	
	周遊バス バス停	—	30 か所	
住まい	サービス付高齢者向け住宅	—	3 か所	
	グループホーム	2 か所	12 か所	

1. 地区名

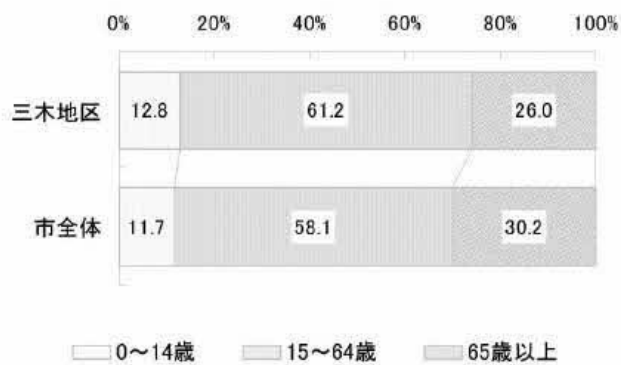
三木（三木）

2. 地区図

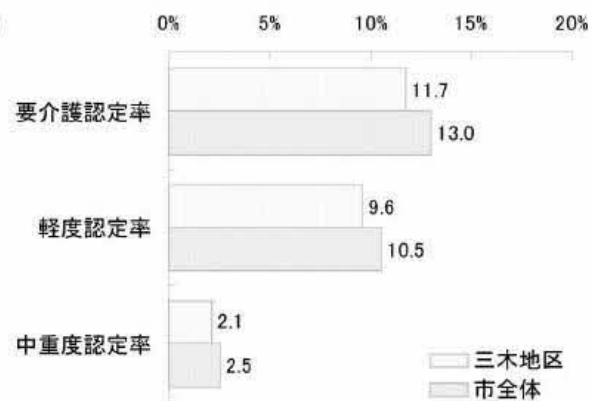


居宅介護サービス事業所
A 吉崎の丘デイサービスセンター

3 区分別人口割合



要介護認定率（軽度・中重度）



3. 基礎情報

項目	単位	数値		圏域合計・平均		市合計・平均		備考
人 口	人	1,640		18,131		70,885		平成26年4月1日現在
65歳以上人口（人）	人	427		5,772		21,376		平成26年4月1日現在
前期高齢者人口・割合	人・％	209	48.9	2,926	50.7	10,982	51.4	前期高齢者人口/人口
後期高齢者人口・割合	人・％	218	51.1	2,846	49.3	10,394	48.6	後期高齢者人口/人口
高齢化率（％）	％	26.0		29.8		30.2		65歳以上人口/人口
要介護認定者数（在宅のみ）	人	50		722		2,782		平成26年4月1日現在
要介護認定率	％	11.7		14.2		13.0		要介護認定者数/65歳以上人口
軽度認定率	％	9.6		11.9		10.5		軽度認定者数/65歳以上人口
中重度認定率	％	2.1		2.3		2.5		中重度認定者数/65歳以上人口
認知症高齢者数・割合	人・％	33	7.7	664	11.5	2,595	12.1	認知症高齢者数/65歳以上人口
在宅サービス利用率	人・％	33	66.0	518	71.7	2,077	74.7	在宅サービス利用数/ 要介護認定者数（在宅のみ）
1人当り療養諸費費用額	円	—		—		355,925		平成24年度
悪性新生物年齢調整死亡率	率	—		—		129.1		平成24年度
心疾患年齢調整死亡率	率	—		—		47.5		平成24年度
脳血管疾患年齢調整死亡率	率	—		—		41.5		平成24年度
新規申請数（1位）	件	認知症	3	40		136		平成25年4月
在宅寝たきり者数	人	57		711		2,717		平成26年10月
二次予防事業対象者数	人	83		977		3,444		平成25年度
特定健診受診率	％	49.3		—		37.5		平成24年度
喫煙率	％	—		—		16.1		平成25年度
民生委員活動	延べ件数	4,779		19,322		72,040		平成25年度 三木・塩屋累計
	述べ日数	1,796		6,702		24,819		
見守り支えあい制度	登録者数	59		908		3,527		平成25年度
市営住宅入居者世帯数 （うち高齢者単身世帯）	世帯	—		128 (67)		374 (177)		平成25年4月1日現在

4. 相談事業、実態調査からみた市民の相談内容

	相談内容等	件数 (件)	カテゴリー内 割合 (%)	全体割合 (%)	総括
医療	1. 自分の病気についての相談	3	100.0	3.4	・ カテゴリー別で相談件数の多いものをみると、1位「介護」認知症に関する相談、2位「介護予防」身体機能について、3位「生活支援」家族関係、人間関係について、4位「介護」デイサービス・デイケア利用について、5位「介護予防」チェックリストについて、となっています。 ・ 相談内容は、全体と同様の傾向ではありますが、家族関係・人間関係についての相談が上位に上がってきています。 ・ 家族関係・人間関係についての相談の内容は、被害妄想などで近所の人間関係などが悪化している人がいるが、どうすればよいのか聞きたいなどとなっています。
	小 計	3	100.0	3.4	
介護	1. 認知症に関する相談	34	70.8	38.2	
	2. デイサービス・デイケア利用について	8	16.7	9.0	
	3. 在宅サービスによる入浴希望	3	6.3	3.4	
	4. 施設入所相談	1	2.1	1.1	
	4. 施設入所への介護更新について	1	2.1	1.1	
	4. 介護更新について	1	2.1	1.1	
	小 計	48	100.0	53.9	
介護予防	1. 身体機能について	12	50.0	13.5	
	2. チェックリストについて	6	25.0	6.7	
	3. 二次予防について	3	12.5	3.4	
	4. 一次予防について	2	8.3	2.2	
	5. 予防事業の申し込みについて	1	4.2	1.1	
	小 計	24	100.0	27.0	
生活支援	1. 家族関係、人間関係について	10	83.3	11.2	
	2. お金の管理について	1	8.3	1.1	
	2. 配食支援について	1	8.3	1.1	
	小 計	12	100.0	13.5	
住まい	1. 手すりの設置、段差の解消要望	2	100.0	2.2	
	小 計	2	100.0	2.2	
	合 計	89	—	100.0	

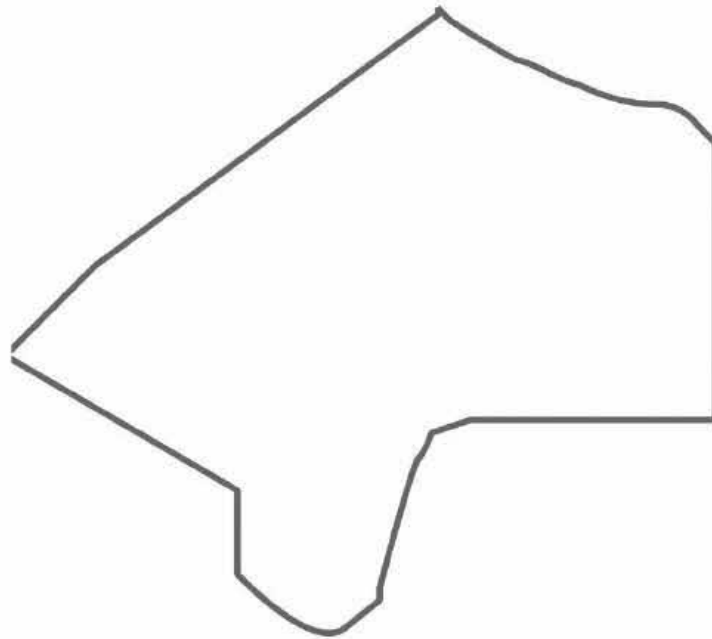
5. 社会資源の状況

	項 目	地区内数量	市全体数量	備 考
医療	病院	—	6か所	
	医院	—	46か所	
	歯科医院	—	30か所	
	薬局	—	29か所	
介護	居宅介護支援	—	14事業所	
	居宅介護サービス	1事業所	54事業所	
	地域密着サービス	—	18事業所	
	施設サービス	—	11事業所	
	介護予防支援	—	1事業所	
	介護予防サービス	1事業所	46事業所	
介護予防	元気はつらつ塾	—	4か所	
	介護予防筋力向上トレーニング教室	1か所	3か所	
	老人福祉センター	—	4か所	
	ケアハウス	—	4か所	
	介護なんでも110番	—	32か所	
	おたっしやサークル	3か所	79か所	
生活支援	新聞販売店	1営業所	23営業所	
	牛乳配達営業店	—	8か所	
	コンビニエンスストア	2か所	33か所	
	農業組合法人	—	9か所	
	郵便局	—	17か所	
	周遊バス バス停	3か所	30か所	
住まい	サービス付高齢者向け住宅	—	3か所	
	グループホーム	—	12か所	

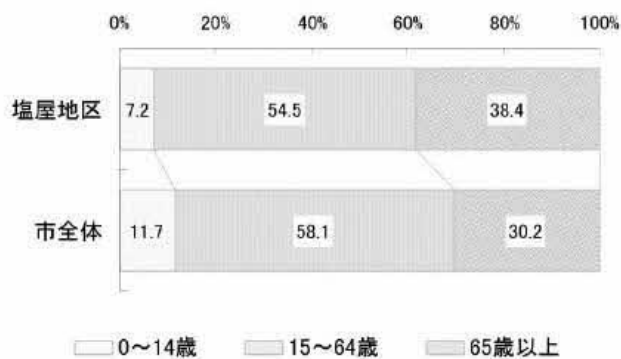
1. 地区名

塩屋（塩屋）

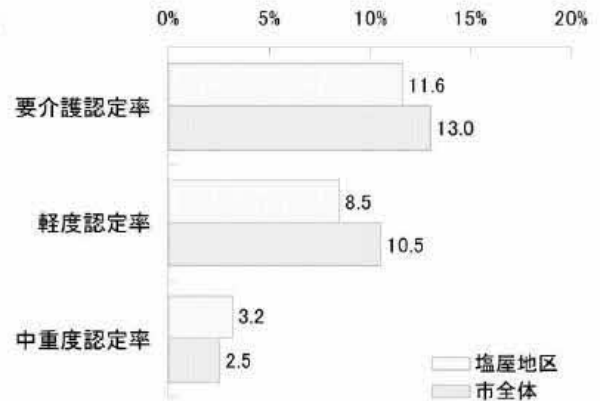
2. 地区図



3 区分別人口割合



要介護認定率（軽度・中重度）



3. 基礎情報

項目	単位	数値		圏域合計・平均		市合計・平均		備考
人 口	人	740		18,131		70,885		平成 26 年 4 月 1 日現在
65 歳以上人口（人）	人	284		5,772		21,376		平成 26 年 4 月 1 日現在
前期高齢者人口・割合	人・％	139	48.9	2,926	50.7	10,982	51.4	前期高齢者人口/人口
後期高齢者人口・割合	人・％	145	51.1	2,846	49.3	10,394	48.6	後期高齢者人口/人口
高齢化率（％）	％	38.4		29.8		30.2		65 歳以上人口/人口
要介護認定者数（在宅のみ）	人	33		722		2,782		平成 26 年 4 月 1 日現在
要介護認定率	％	11.6		14.2		13.0		要介護認定者数/65 歳以上人口
軽度認定率	％	8.5		11.9		10.5		軽度認定者数/65 歳以上人口
中重度認定率	％	3.2		2.3		2.5		中重度認定者数/65 歳以上人口
認知症高齢者数・割合	人・％	35	12.3	664	11.5	2,595	12.1	認知症高齢者数/65 歳以上人口
在宅サービス利用率	人・％	27	81.8	518	71.7	2,077	74.7	在宅サービス利用数/ 要介護認定者数（在宅のみ）
1 人当り療養諸費費用額	円	—		—		355,925		平成 24 年度
悪性新生物年齢調整死亡率	率	—		—		129.1		平成 24 年度
心疾患年齢調整死亡率	率	—		—		47.5		平成 24 年度
脳血管疾患年齢調整死亡率	率	—		—		41.5		平成 24 年度
新規申請数（1 位）	件	認知症	3	40		136		平成 25 年 4 月
在宅寝たきり者数	人	35		711		2,717		平成 26 年 10 月
二次予防事業対象者数	人	38		977		3,444		平成 25 年度
特定健診受診率	％	42.7		—		37.5		平成 24 年度
喫煙率	％	—		—		16.1		平成 25 年度
民生委員活動	延べ件数	4,779		19,322		72,040		平成 25 年度 三木・塩屋集計
	述べ日数	1,796		6,702		24,819		
見守り支えあい制度	登録者数	45		908		3,527		平成 25 年度
市営住宅入居者世帯数 （うち高齢者単身世帯）	世帯	—		128 (67)		374 (177)		平成 25 年 4 月 1 日現在

4. 相談事業、実態調査からみた市民の相談内容

	相談内容等	件数 (件)	カテゴリー内 割合 (%)	全体割合 (%)	総括
医療	1. 病院の利用	1	50.0	1.6	- カテゴリー別で相談件数の多いものをみると、1位「介護」認知症に関する相談、2位「介護予防」身体機能について、3位「介護」デイサービス・デイケア利用について、同じく3位「生活支援」虐待問題について、5位「住まい」住宅改修に関わる介護申請について、となっています。 - 相談内容は、全体と同様の傾向ではありますが、住宅改修に関わる介護申請についての相談が上位に上がってきています。 - 住宅改修に関わる介護申請についての相談の内容は、現在の身体能力では、住宅の移動が困難なため、住宅改修をするために介護認定の申請を行いたいなどとなっています。
	1. 病院への移動手段	1	50.0	1.6	
	小 計	2	100.0	3.2	
介護	1. 認知症に関する相談	16	50.0	25.4	
	2. デイサービス・デイケア利用について	5	15.6	7.9	
	3. 在宅サービスの利用にあたっての相談	3	9.4	4.8	
	4. 在宅サービスによる入浴希望	3	9.4	4.8	
	5. 介護の負担軽減の為に介護申請	2	6.3	3.2	
	6. その他	3	9.4	4.8	
	小 計	32	100.0	50.8	
介護予防	1. 身体機能について	6	60.0	9.5	
	2. 一次予防について	3	30.0	4.8	
	3. チェックリストについて	1	10.0	1.6	
	小 計	10	100.0	15.9	
生活支援	1. 虐待問題について	5	33.3	7.9	
	2. 居宅訪問	3	20.0	4.8	
	3. ひとり暮らしによる不安に対しての生活相談	2	13.3	3.2	
	4. その他	5	33.3	7.9	
	小 計	15	100.0	23.8	
住まい	1. 住宅改修に関わる介護申請について	4	100.0	6.3	
	小 計	4	100.0	6.3	
	合 計	63	—	100.0	

5. 社会資源の状況

	項 目	地区内数量	市全体数量	備 考
医療	病院	—	6か所	
	医院	—	46か所	
	歯科医院	—	30か所	
	薬局	—	29か所	
介護	居宅介護支援	—	14事業所	
	居宅介護サービス	—	54事業所	
	地域密着サービス	—	18事業所	
	施設サービス	—	11事業所	
	介護予防支援	—	1事業所	
	介護予防サービス	—	46事業所	
介護予防	元気はつらつ塾	—	4か所	
	介護予防筋力向上トレーニング教室	—	3か所	
	老人福祉センター	—	4か所	
	ケアハウス	—	4か所	
	介護なんでも110番	—	32か所	
	おたっしゅサークル	1か所	79か所	
生活支援	新聞販売店	—	23営業所	
	牛乳配達営業店	—	8か所	
	コンビニエンスストア	—	33か所	
	農業組合法人	—	9か所	
	郵便局	1か所	17か所	
	周遊バス バス停	—	30か所	
住まい	サービス付高齢者向け住宅	—	3か所	
	グループホーム	—	12か所	

1. 地区名

山代（山代）

2. 地区図

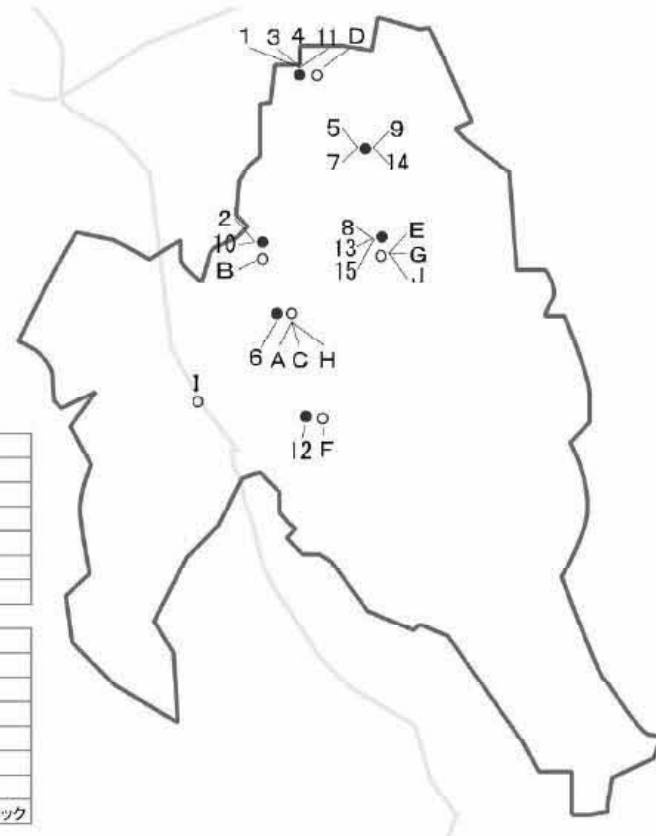


医院

1	板谷医院
2	永田医院
3	刈谷医院
4	堀内眼科医院
5	松下内科クリニック
6	宮本医院
7	ながたクリニック

歯科

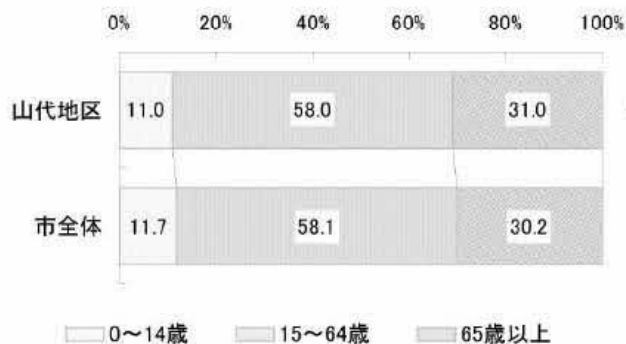
8	西出歯科医院
9	久保歯科医院
10	駒谷歯科医院
11	かとうクリニック
12	なかみち歯科
13	いちだ歯科
14	田中歯科医院
15	にしやまファミリー歯科クリニック



居宅介護サービス事業所

A	ニース対応型介護多機能ホームさきようが丘
B	いこいの家(山代デイサービス)
C	新世紀ケアサービス加賀
D	板谷医院
E	デイサービスセンターなじみ
F	ケアリス山代
G	山代温泉慈妙院
H	デイサービス加賀の星
I	デイサービスセンターたんぽぽ
地域密着サービス事業所	
J	山代すみれの家

3区分別人口割合



要介護認定率（軽度・中重度）



3. 基礎情報

項目	単位	数値		圏域合計・平均		市合計・平均		備考
人 口	人	12,353		17,440		70,885		平成26年4月1日現在
65歳以上人口（人）	人	3,831		5,181		21,376		平成26年4月1日現在
前期高齢者人口・割合	人・％	2,136	55.8	2,812	54.3	10,982	51.4	前期高齢者人口/人口
後期高齢者人口・割合	人・％	1,695	44.2	2,369	45.7	10,394	48.6	後期高齢者人口/人口
高齢化率（％）	％	31.0		30.0		30.2		65歳以上人口/人口
要介護認定者数（在宅のみ）	人	471		667		2,782		平成26年4月1日現在
要介護認定率	％	12.3		12.9		13.0		要介護認定者数/65歳以上人口
軽度認定率	％	9.9		10.3		10.5		軽度認定者数/65歳以上人口
中重度認定率	％	2.3		2.6		2.5		中重度認定者数/65歳以上人口
認知症高齢者数・割合	人・％	378	9.9	590	11.4	2,595	12.1	認知症高齢者数/65歳以上人口
在宅サービス利用率	人・％	358	76.0	513	76.9	2,077	74.7	在宅サービス利用者/ 要介護認定者数（在宅のみ）
1人当り療養諸費費用額	円	—		—		355,925		平成24年度
悪性新生物年齢調整死亡率	率	—		—		129.1		平成24年度
心疾患年齢調整死亡率	率	—		—		47.5		平成24年度
脳血管疾患年齢調整死亡率	率	—		—		41.5		平成24年度
新規申請数（1位）	件	認知症	23	36		136		平成25年4月
新規申請数（2位）	件	関節症	12	19		58		平成25年4月
在宅寝たきり者数	人	490		656		2,717		平成26年10月
二次予防事業対象者数	人	580		829		3,444		平成25年度
特定健診受診率	％	30.5		—		37.5		平成24年度
喫煙率	％	—		—		16.1		平成25年度
民生委員活動	延べ件数	12,053		12,053		72,040		平成25年度 山代・庄・勸使・東谷口累計
	述べ日数	4,811		4,811		24,819		
見守り支えあい制度	登録者数	669		814		3,527		平成25年度
市営住宅入居者世帯数 （うち高齢者単身世帯）	世帯	47 (17)		47 (17)		374 (177)		平成25年4月1日現在

4. 相談事業、実態調査からみた市民の相談内容

	相談内容等	件数 (件)	カテゴリー内 割合 (%)	全体割合 (%)	総括
医療	1. 特定疾患の相談	44	43.6	3.6	・ カテゴリー別で相談件数の多いものをみると、1位「介護」認知症に関する相談、2位「介護予防」身体機能について、3位「介護」デイサービス・デイケア利用について、4位「生活支援」お金の管理について、5位「生活支援」虐待問題について、となっています。 ・ 相談内容は、全体と同様の傾向ではありますが、「生活支援」お金の管理に関する相談が上位に上がってきています。 ・ お金の管理に関する相談は、成年後見人制度の利用など今後、お金の管理についてどうしたらよいか教えてほしいなどとなっています。
	2. 自分の病気について	28	27.7	2.3	
	3. 退院後の生活について	11	10.9	0.9	
	4. リハビリの利用意向	7	6.9	0.6	
	5. 病院の利用	4	4.0	0.3	
	6. その他	7	6.9	0.6	
	小 計	101	100.0	8.2	
介護	1. 認知症に関する相談	156	29.9	12.7	
	2. デイサービス・デイケア利用について	92	17.6	7.5	
	3. 介護認定の新規申請の依頼	58	11.1	4.7	
	4. 施設入所相談	50	9.6	4.1	
	5. 在宅サービスの利用にあたっての相談	45	8.6	3.7	
	6. その他	121	23.2	9.9	
	小 計	522	100.0	42.5	
介護予防	1. 身体機能について	147	54.6	12.0	
	2. チェックリストについて	48	17.8	3.9	
	2. 二次予防について	48	17.8	3.9	
	4. 一次予防について	22	8.2	1.8	
	5. はつらつ塾利用について	2	0.7	0.2	
	5. 予防事業の申し込みについて	2	0.7	0.2	
	小 計	269	100.0	21.9	
生活支援	1. お金の管理について	69	23.2	5.6	
	2. 虐待問題について	60	20.2	4.9	
	3. 見守り、安否確認	43	14.5	3.5	
	4. 家族関係、人間関係について	38	12.8	3.1	
	5. ひとり暮らしによる不安に対しての生活相談	24	8.1	2.0	
	6. その他	63	21.2	5.1	
	小 計	297	100.0	24.2	
住まい	1. 手すりの設置、段差の解消要望	21	55.3	1.7	
	2. トイレの改修要望	8	21.1	0.7	
	3. 住宅改修に関わる介護申請について	7	18.4	0.6	
	4. 住宅改修相談について	2	5.3	0.2	
	小 計	38	100.0	3.1	
	合 計	1,227	—	100.0	

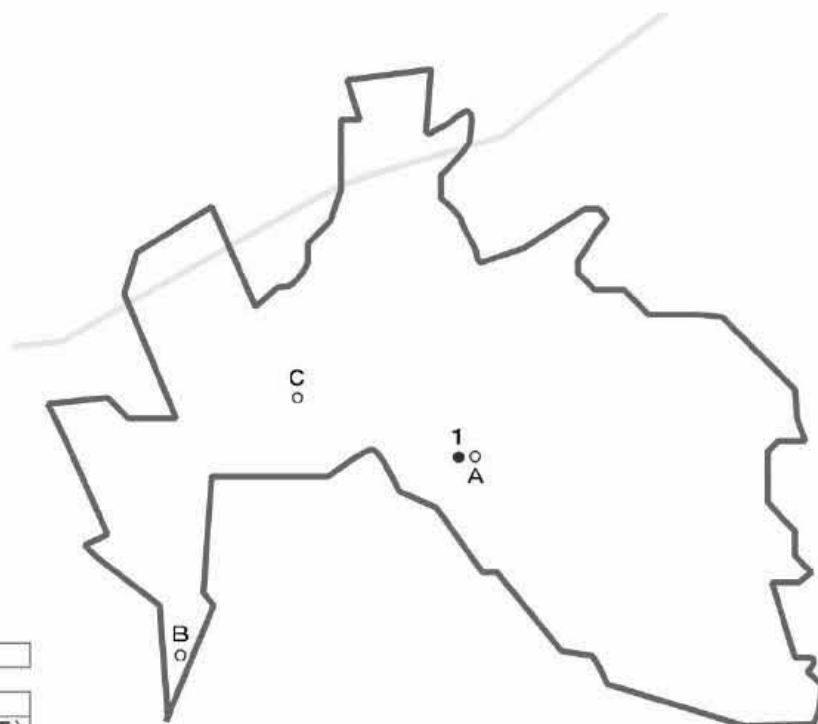
5. 社会資源の状況

	項 目	地区内数量	市全体数量	備 考
医療	病院	—	6か所	
	医院	7か所	46か所	
	歯科医院	8か所	30か所	
	薬局	7か所	29か所	
介護	居宅介護支援	2事業所	14事業所	
	居宅介護サービス	9事業所	54事業所	
	地域密着サービス	3事業所	18事業所	
	施設サービス	—	11事業所	
	介護予防支援	—	1事業所	
	介護予防サービス	8事業所	46事業所	
介護予防	元気はつらつ塾	1か所	4か所	
	介護予防筋力向上トレーニング教室	—	3か所	
	老人福祉センター	1か所	4か所	
	ケアハウス	—	4か所	
	介護なんでも110番	5か所	32か所	
	おたっしゃサークル	7か所	79か所	
生活支援	新聞販売店	2営業所	23営業所	
	牛乳配達営業店	1か所	8か所	
	コンビニエンスストア	5か所	33か所	
	農業組合法人	—	9か所	
	郵便局	2か所	17か所	
	周遊バス バス停	6か所	30か所	
住まい	サービス付高齢者向け住宅	—	3か所	
	グループホーム	1か所	12か所	

1. 地区名

勅使（勅使）

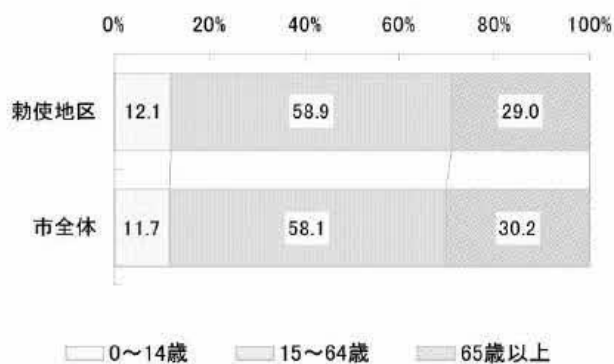
2. 地区図



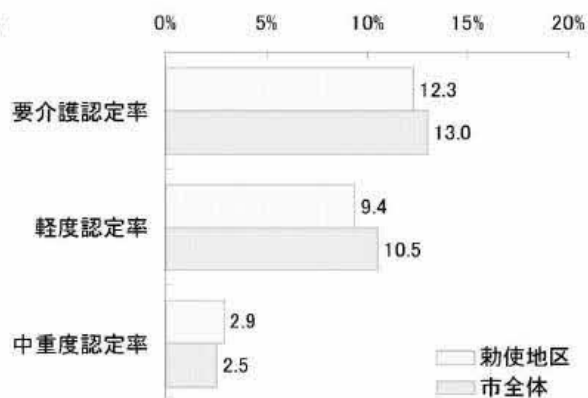
医院

1	ちよくし町クリニック
	居宅介護サービス事業所
A	ちよくし
B	篤寿苑(山代温泉ヴィラ)
C	サンウェルズ河原

3 区分別人口割合



要介護認定率（軽度・中重度）



3. 基礎情報

項目	単位	数値		圏域合計・平均		市合計・平均		備考
人 口	人	1,685		17,440		70,885		平成26年4月1日現在
65歳以上人口（人）	人	489		5,181		21,376		平成26年4月1日現在
前期高齢者人口・割合	人・％	242	49.5	2,812	54.3	10,982	51.4	前期高齢者人口/人口
後期高齢者人口・割合	人・％	247	50.5	2,369	45.7	10,394	48.6	後期高齢者人口/人口
高齢化率（％）	％	29.0		30.0		30.2		65歳以上人口/人口
要介護認定者数（在宅のみ）	人	60		667		2,782		平成26年4月1日現在
要介護認定率	％	12.3		12.9		13.0		要介護認定者数/65歳以上人口
軽度認定率	％	9.4		10.3		10.5		軽度認定者数/65歳以上人口
中重度認定率	％	2.9		2.6		2.5		中重度認定者数/65歳以上人口
認知症高齢者数・割合	人・％	72	14.7	590	11.4	2,595	12.1	認知症高齢者数/65歳以上人口
在宅サービス利用率	人・％	48	80.0	513	76.9	2,077	74.7	在宅サービス利用数/ 要介護認定者数（在宅のみ）
1人当り療養諸費費用額	円	—		—		355,925		平成24年度
悪性新生物年齢調整死亡率	率	—		—		129.1		平成24年度
心疾患年齢調整死亡率	率	—		—		47.5		平成24年度
脳血管疾患年齢調整死亡率	率	—		—		41.5		平成24年度
新規申請数（1位）	件	認知症	6	36		136		平成25年4月
新規申請数（2位）	件	脳卒中	4	19		104		平成25年4月
在宅寝たきり者数	人	61		656		2,717		平成26年10月
二次予防事業対象者数	人	89		829		3,444		平成25年度
特定健診受診率	％	37.0		—		37.5		平成24年度
喫煙率	％	—		—		16.1		平成25年度
民生委員活動	延べ件数	12,053		12,053		72,040		平成25年度 山代・庄・駒使・東谷口累計
	述べ日数	4,811		4,811		24,819		
見守り支えあい制度	登録者数	49		814		3,527		平成25年度
市営住宅入居者世帯数 （うち高齢者単身世帯）	世帯	—		47 (17)		374 (177)		平成25年4月1日現在

4. 相談事業、実態調査からみた市民の相談内容

	相談内容等	件数 (件)	カテゴリ内 割合 (%)	全体割合 (%)	総括
医療	1. 特定疾患の相談	6	60.0	5.7	・ カテゴリ別で相談件数の多いものをみると、1位「介護」デイサービス・デイケア利用について、2位「生活支援」虐待問題について、3位「介護予防」身体機能について、4位「介護予防」チェックリストについて、同じく4位「介護予防」二次予防について、となっています。 ・ 相談内容は、全体と同様の傾向ではありますが、虐待問題に関する相談が上位に上がってきています。 ・ 虐待問題に関する相談の内容については、介護負担から高齢者虐待に至っている、精神疾患などで家族からの暴力を受けているなどとなっています。
	2. リハビリの利用意向	3	30.0	2.9	
	3. 退院後の生活について	1	10.0	1.0	
	小 計	10	100.0	9.5	
介護	1. デイサービス・デイケア利用について	19	38.8	18.1	
	2. ショートステイ利用について	5	10.2	4.8	
	2. 介護認定の新規申請の依頼	5	10.2	4.8	
	4. 認知症に関する相談	5	10.2	4.8	
	5. 介護申請について	4	8.2	3.8	
	6. その他	11	22.4	10.5	
	小 計	49	100.0	46.7	
介護予防	1. 身体機能について	9	32.1	8.6	
	2. チェックリストについて	8	28.6	7.6	
	2. 二次予防について	8	28.6	7.6	
	4. 一次予防について	2	7.1	1.9	
	5. その他	1	3.6	1.0	
	小 計	28	100.0	26.7	
生活支援	1. 虐待問題について	13	76.5	12.4	
	2. 入浴サービスについて	1	5.9	1.0	
	2. ひとり暮らしによる不安に対しての生活相談	1	5.9	1.0	
	2. 家族関係、人間関係について	1	5.9	1.0	
	2. おたっしや訪問	1	5.9	1.0	
	小 計	17	100.0	16.2	
住まい	1. 住宅改修に関わる介護申請について	1	100.0	1.0	
	小 計	1	100.0	1.0	
	合 計	105	—	100.0	

5. 社会資源の状況				
	項 目	地区内数量	市全体数量	備 考
医療	病院	—	6か所	
	医院	1 か所	46か所	
	歯科医院	—	30か所	
	薬局	—	29か所	
介護	居宅介護支援	1事業所	14事業所	
	居宅介護サービス	3事業所	54事業所	
	地域密着サービス	1事業所	18事業所	
	施設サービス	—	11事業所	
	介護予防支援	—	1事業所	
	介護予防サービス	3事業所	46事業所	
介護予防	元気はつらつ塾	—	4か所	
	介護予防筋力向上トレーニング教室	—	3か所	
	老人福祉センター	—	4か所	
	ケアハウス	1か所	4か所	
	介護なんでも 110 番	2事業所	32か所	
	おたっしゅサークル	1か所	79か所	
生活支援	新聞販売店	1営業所	23営業所	
	牛乳配達営業店	—	8か所	
	コンビニエンスストア	1か所	33か所	
	農業組合法人	1か所	9か所	
	郵便局	1か所	17か所	
	周遊バス バス停	—	30か所	
住まい	サービス付高齢者向け住宅	—	3か所	
	グループホーム	1か所	12か所	

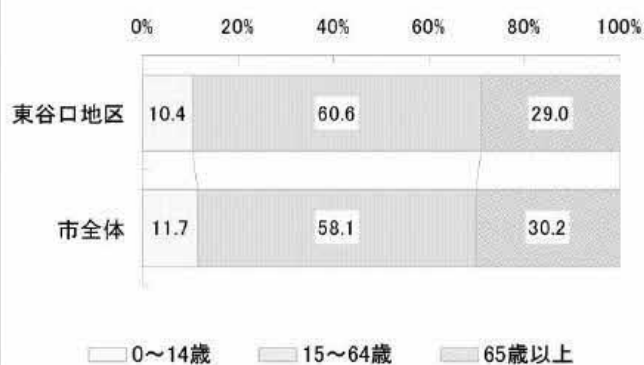
1. 地区名

東谷口（東谷口）

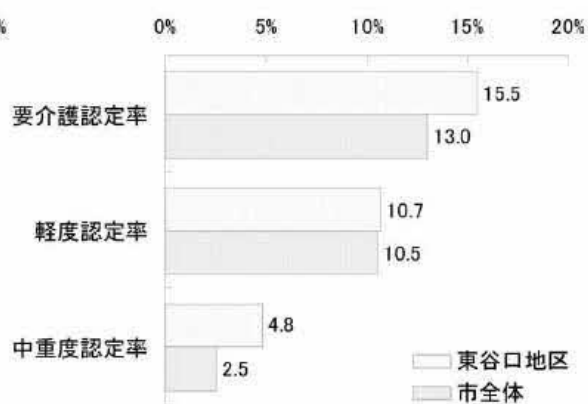
2. 地区図



3区分別人口割合



要介護認定率（軽度・中重度）



3. 基礎情報

項目	単位	数値		圏域合計・平均		市合計・平均		備考
人 口	人	1,005		17,440		70,885		平成26年4月1日現在
65歳以上人口（人）	人	291		5,181		21,376		平成26年4月1日現在
前期高齢者人口・割合	人・％	134	46.0	2,812	54.3	10,982	51.4	前期高齢者人口/人口
後期高齢者人口・割合	人・％	157	54.0	2,369	45.7	10,394	48.6	後期高齢者人口/人口
高齢化率（％）	％	29.0		30.0		30.2		65歳以上人口/人口
要介護認定者数（在宅のみ）	人	45		667		2,782		平成26年4月1日現在
要介護認定率	％	15.5		12.9		13.0		要介護認定者数/65歳以上人口
軽度認定率	％	10.7		10.3		10.5		軽度認定者数/65歳以上人口
中重度認定率	％	4.8		2.6		2.5		中重度認定者数/65歳以上人口
認知症高齢者数・割合	人・％	44	15.1	590	11.4	2,595	12.1	認知症高齢者数/65歳以上人口
在宅サービス利用率	人・％	30	66.7	513	76.9	2,077	74.7	在宅サービス利用数/ 要介護認定者数（在宅のみ）
1人当り療養諸費費用額	円	—		—		355,925		平成24年度
悪性新生物年齢調整死亡率	率	—		—		129.1		平成24年度
心疾患年齢調整死亡率	率	—		—		47.5		平成24年度
脳血管疾患年齢調整死亡率	率	—		—		41.5		平成24年度
新規申請数（1位）	件	腰椎圧迫骨折	2	10		35		平成25年4月
在宅寝たきり者数	人	46		656		2,717		平成26年10月
二次予防事業対象者数	人	36		829		3,444		平成25年度
特定健診受診率	％	42.9		—		37.5		平成24年度
喫煙率	％	—		—		16.1		平成25年度
民生委員活動	延べ件数	12,053		12,053		72,040		平成25年度 山代・庄・勸修・東谷口累計
	述べ日数	4,811		4,811		24,819		
見守り支えあい制度	登録者数	36		814		3,527		平成25年度
市営住宅入居者世帯数 （うち高齢者単身世帯）	世帯	—		47 (17)		374 (177)		平成25年4月1日現在

4. 相談事業、実態調査からみた市民の相談内容

	相談内容等	件数 (件)	カテゴリー内 割合 (%)	全体割合 (%)	総括
医療	1. 特定疾患の相談	17	81.0	23.6	・ カテゴリー別で相談件数の多いものをみると、1位「医療」特定疾患の相談、2位「介護」認知症に関する相談、3位「介護」デイサービス・デイケア利用について、同じく3位「介護」介護認定の新規申請の依頼、5位「介護予防」チェックリストについて、同じく5位「介護」在宅サービスによる入浴希望、となっています。 ・ 相談内容は、全体と同様の傾向ではありますが、特定疾患の相談が上位に上がってきています。 ・ 特定疾患の相談の内容については特定疾患(統合失調症、神経変性疾患、パーキンソン病)に対するケアの相談で、病状に応じたサービスを利用したい、などとなっています。
	2. 退院後の生活について	1	4.8	1.4	
	2. 病院の利用	1	4.8	1.4	
	2. リハビリの利用意向	1	4.8	1.4	
	2. 在宅医療の利用についての相談	1	4.8	1.4	
	小 計	21	100.0	29.2	
介護	1. 認知症に関する相談	11	31.4	15.3	
	2. デイサービス・デイケア利用について	7	20.0	9.7	
	2. 介護認定の新規申請の依頼	7	20.0	9.7	
	4. 在宅サービスによる入浴希望	4	11.4	5.6	
	5. 在宅サービスの利用にあたっての相談	2	5.7	2.8	
	6. その他	4	11.4	5.6	
介護予防	小 計	35	100.0	48.6	
	1. チェックリストについて	4	36.4	5.6	
	2. 身体機能について	3	27.3	4.2	
	3. 一次予防について	2	18.2	2.8	
	3. 二次予防について	2	18.2	2.8	
	小 計	11	100.0	15.3	
生活支援	1. 入浴サービスについて	1	50.0	1.4	
	1. 福祉サービス利用の調査	1	50.0	1.4	
	小 計	2	100.0	2.8	
住まい	1. 住宅改修に関わる介護申請について	3	100.0	4.2	
	小 計	3	100.0	4.2	
	合 計	72	—	100.0	

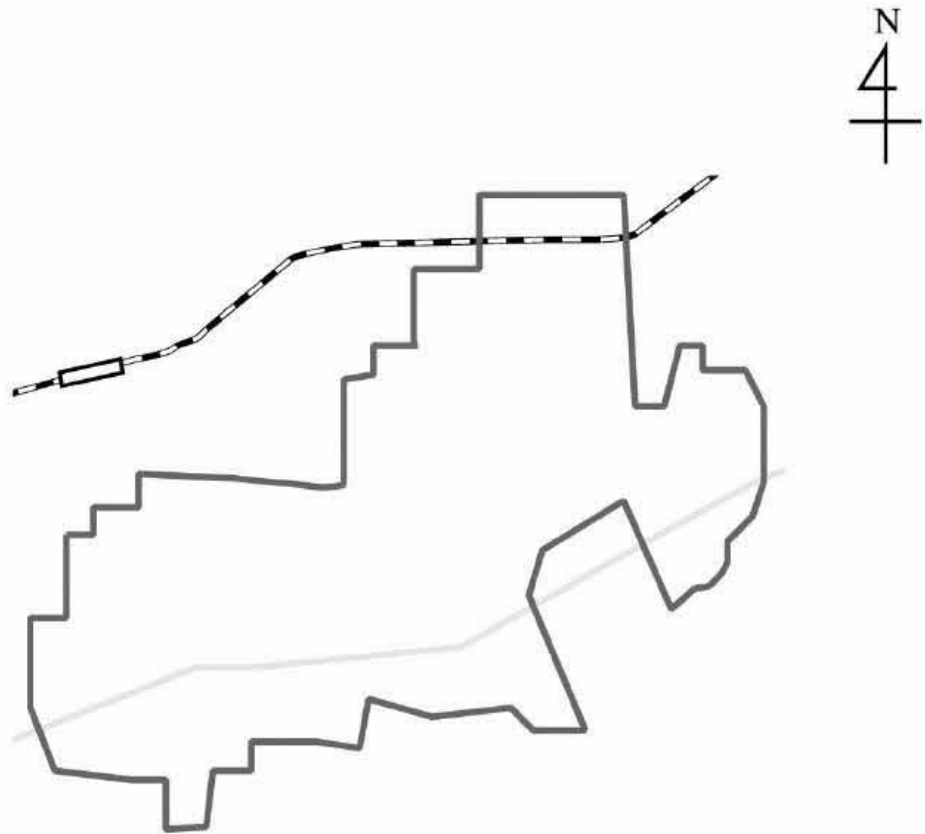
5. 社会資源の状況

	項 目	地区内数量	市全体数量	備 考
医療	病院	—	6か所	
	医院	—	46か所	
	歯科医院	—	30か所	
	薬局	—	29か所	
介護	居宅介護支援	—	14事業所	
	居宅介護サービス	—	54事業所	
	地域密着サービス	—	18事業所	
	施設サービス	—	11事業所	
	介護予防支援	—	1事業所	
	介護予防サービス	—	46事業所	
介護予防	元気はつらつ塾	—	4か所	
	介護予防筋力向上トレーニング教室	—	3か所	
	老人福祉センター	—	4か所	
	ケアハウス	—	4か所	
	介護なんでも110番	—	32か所	
	おたっしゅサークル	2か所	79か所	
生活支援	新聞販売店	—	23営業所	
	牛乳配達営業店	—	8か所	
	コンビニエンスストア	—	33か所	
	農業組合法人	—	9か所	
	郵便局	—	17か所	
	周遊バス バス停	—	30か所	
住まい	サービス付高齢者向け住宅	—	3か所	
	グループホーム	—	12か所	

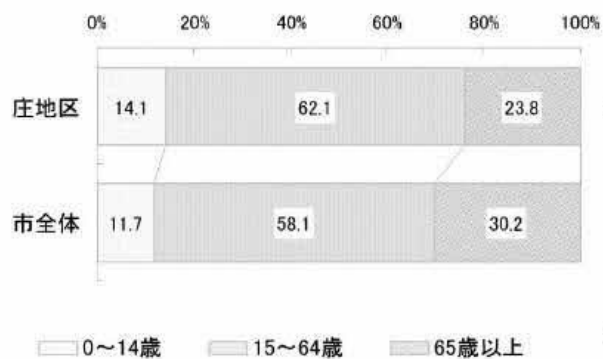
1. 地区名

庄（庄）

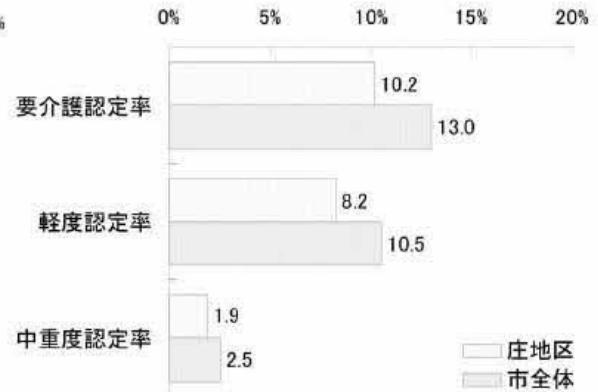
2. 地区図



3 区分別人口割合



要介護認定率（軽度・中重度）



3. 基礎情報

項目	単位	数値		圏域合計・平均		市合計・平均		備考
人 口	人	2,397		17,440		70,885		平成26年4月1日現在
65歳以上人口（人）	人	570		5,181		21,376		平成26年4月1日現在
前期高齢者人口・割合	人・％	300	52.6	2,812	54.3	10,982	51.4	前期高齢者人口/人口
後期高齢者人口・割合	人・％	270	47.4	2,369	45.7	10,394	48.6	後期高齢者人口/人口
高齢化率（％）	％	23.8		30.0		30.2		65歳以上人口/人口
要介護認定者数（在宅のみ）	人	58		667		2,782		平成26年4月1日現在
要介護認定率	％	10.2		12.9		13.0		要介護認定者数/65歳以上人口
軽度認定率	％	8.2		10.3		10.5		軽度認定者数/65歳以上人口
中重度認定率	％	1.9		2.6		2.5		中重度認定者数/65歳以上人口
認知症高齢者数・割合	人・％	67	11.8	590	11.4	2,595	12.1	認知症高齢者数/65歳以上人口
在宅サービス利用率	人・％	52	89.7	513	76.9	2,077	74.7	在宅サービス利用数/ 要介護認定者数（在宅のみ）
1人当り療養諸費費用額	円	—		—		355,925		平成24年度
悪性新生物年齢調整死亡率	率	—		—		129.1		平成24年度
心疾患年齢調整死亡率	率	—		—		47.5		平成24年度
脳血管疾患年齢調整死亡率	率	—		—		41.5		平成24年度
新規申請数（1位）	件	認知症	6	36		136		平成25年4月
新規申請数（2位）	件	関節症	4	19		58		平成25年4月
新規申請数（2位）	件	脳卒中	4	19		104		平成25年4月
在宅寝たきり者数	人	59		656		2,717		平成26年10月
二次予防事業対象者数	人	124		829		3,444		平成25年度
特定健診受診率	％	36.6		—		37.5		平成24年度
喫煙率	％	—		—		16.1		平成25年度
民生委員活動	延べ件数	12,053		12,053		72,040		平成25年度 山代・庄・勸修・東谷口累計
	述べ日数	4,811		4,811		24,819		
見守り支えあい制度	登録者数	60		814		3,527		平成25年度
市営住宅入居者世帯数 （うち高齢者単身世帯）	世帯	—		47 (17)		374 (177)		平成25年4月1日現在

4. 相談事業、実態調査からみた市民の相談内容

	相談内容等	件数 (件)	カテゴリー内 割合 (%)	全体割合 (%)	総括
医療	1. 特定疾患の相談	6	46.2	4.4	・ カテゴリー別で相談件数の多いものをみると、1位「介護予防」身体機能について、2位「介護」認知症に関する相談、3位「介護」デイサービス・デイケア利用について、4位「介護」在宅サービスの利用にあたっての相談、5位「介護」在宅サービスによる入浴希望、同じく5位「医療」特定疾患の相談、となっています。 ・ 相談内容は、全体と同様の傾向ではありますが、在宅サービスによる入浴希望の相談が上位に上がってきています。 ・ 在宅サービスによる入浴希望の内容については、家族の介護が難しくなり、風呂場も段差があり、入浴サービスの利用を希望したいなどとなっています。
	2. 自分の病気について	4	30.8	2.9	
	3. 退院後の生活について	2	15.4	1.5	
	4. リハビリの利用意向	1	7.7	0.7	
	小 計	13	100.0	9.5	
介護	1. 認知症に関する相談	18	27.7	13.1	
	2. デイサービス・デイケア利用について	17	26.2	12.4	
	3. 在宅サービスの利用にあたっての相談	9	13.8	6.6	
	4. 在宅サービスによる入浴希望	6	9.2	4.4	
	5. 介護認定の新規申請の依頼	4	6.2	2.9	
	6. その他	11	16.9	8.0	
	小 計	65	100.0	47.4	
介護予防	1. 身体機能について	20	62.5	14.6	
	2. 一次予防について	3	9.4	2.2	
	2. 二次予防について	3	9.4	2.2	
	4. はつらつ塾利用について	2	6.3	1.5	
	4. 健康づくりについて	2	6.3	1.5	
	6. その他	2	6.3	1.5	
	小 計	32	100.0	23.4	
生活支援	1. お金の管理について	3	16.7	2.2	
	1. 入浴サービスについて	3	16.7	2.2	
	3. 福祉用具の利用（歩行器）	2	11.1	1.5	
	3. 虐待問題について	2	11.1	1.5	
	3. おたっしゃ訪問	2	11.1	1.5	
	3. 配食支援について	2	11.1	1.5	
	7. その他	4	22.2	2.9	
	小 計	18	100.0	13.1	
住まい	1. トイレの改修要望	5	55.6	3.6	
	2. 手すりの設置、段差の解消要望	3	33.3	2.2	
	3. 住宅改修相談について	1	11.1	0.7	
	小 計	9	100.0	6.6	
	合 計	137	—	100.0	

5. 社会資源の状況				
	項 目	地区内数量	市全体数量	備 考
医療	病院	—	6か所	
	医院	—	46か所	
	歯科医院	—	30か所	
	薬局	—	29か所	
介護	居宅介護支援	—	14事業所	
	居宅介護サービス	—	54事業所	
	地域密着サービス	—	18事業所	
	施設サービス	—	11事業所	
	介護予防支援	—	1事業所	
	介護予防サービス	—	46事業所	
介護予防	元気はつらつ塾	—	4か所	
	介護予防筋力向上トレーニング教室	—	3か所	
	老人福祉センター	—	4か所	
	ケアハウス	—	4か所	
	介護なんでも110番	—	32か所	
	おたっしゃサークル	2か所	79か所	
生活支援	新聞販売店	1営業所	23営業所	
	牛乳配達営業店	—	8か所	
	コンビニエンスストア	1か所	33か所	
	農業組合法人	—	9か所	
	郵便局	—	17か所	
	周遊バス バス停	1か所	30か所	
住まい	サービス付高齢者向け住宅	—	3か所	
	グループホーム	—	12か所	

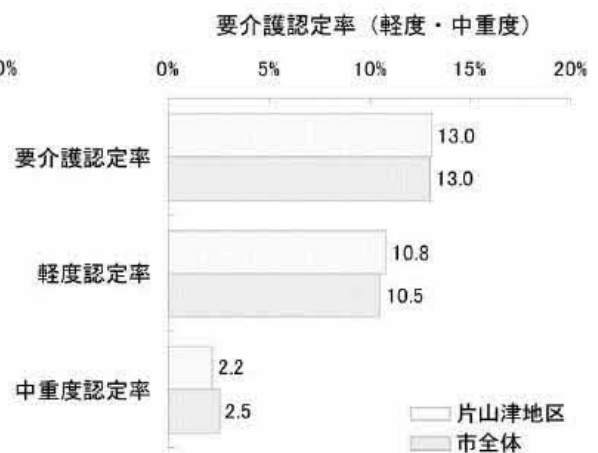
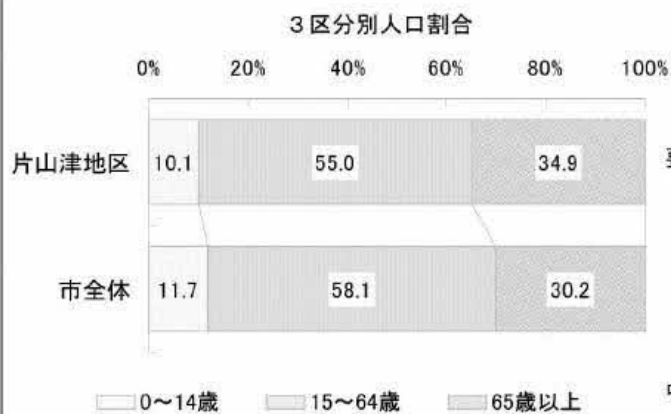
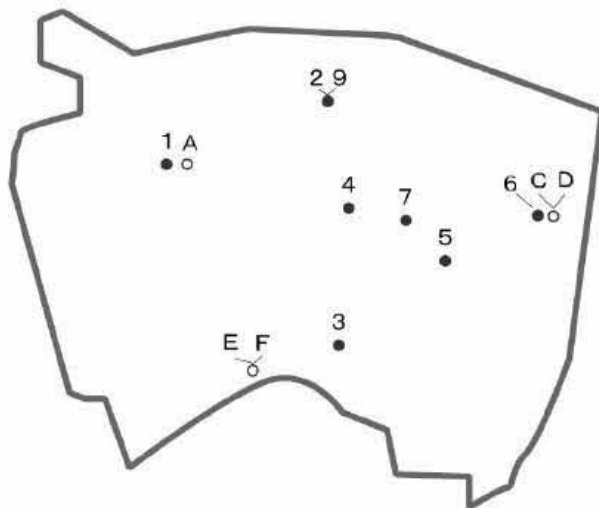
1. 地区名

片山津（片山津）

2. 地区図



医院	
1	河村医院
2	近藤医院
3	岡部内科医院
4	社会福祉法人南陽園 身体障害者療護施設 夢ようようメディカルセンター
歯科	
5	光谷歯科医院
6	広瀬歯科医院
7	楠沢歯科医院
居宅介護サービス事業所	
A	片山津通景日好日苑(グループホーム片山津)
B	グループホーム片山津
C	和(やわらぎ)
D	ぬくもりの里
E	やわらぎ太子の家 かが
地域密着サービス事業所	
F	小規模多機能ホーム いらっせ湖城



3. 基礎情報

項目	単位	数値		圏域合計・平均		市合計・平均		備考
人 口	人	5,430		9,604		70,885		平成 26 年 4 月 1 日現在
65 歳以上人口（人）	人	1,893		2,956		21,376		平成 26 年 4 月 1 日現在
前期高齢者人口・割合	人・％	977	51.6	1,503	50.8	10,982	51.4	前期高齢者人口/人口
後期高齢者人口・割合	人・％	916	48.4	1,453	49.2	10,394	48.6	後期高齢者人口/人口
高齢化率（％）	％	34.9		35.9		30.2		65 歳以上人口/人口
要介護認定者数（在宅のみ）	人	247		397		2,782		平成 26 年 4 月 1 日現在
要介護認定率	％	13.0		13.4		13.0		要介護認定者数/65 歳以上人口
軽度認定率	％	10.8		10.8		10.5		軽度認定者数/65 歳以上人口
中重度認定率	％	2.2		2.6		2.5		中重度認定者数/65 歳以上人口
認知症高齢者数・割合	人・％	233	12.3	347	11.7	2,595	12.1	認知症高齢者数/65 歳以上人口
在宅サービス利用率	人・％	185	74.9	273	68.8	2,077	74.7	在宅サービス利用数/ 要介護認定者数（在宅のみ）
1 人当り療養諸費費用額	円	—		—		355,925		平成 24 年度
悪性新生物年齢調整死亡率	率	—		—		129.1		平成 24 年度
心疾患年齢調整死亡率	率	—		—		47.5		平成 24 年度
脳血管疾患年齢調整死亡率	率	—		—		41.5		平成 24 年度
新規申請数（１位）	件	脳卒中	15	19		104		平成 25 年 4 月
新規申請数（２位）	件	認知症	10	14		136		平成 25 年 4 月
在宅寝たきり者数	人	239		385		2,717		平成 26 年 10 月
二次予防事業対象者数	人	304		473		3,444		平成 25 年度
特定健診受診率	％	30.0		—		37.5		平成 24 年度
喫煙率	％	—		—		16.1		平成 25 年度
民生委員活動	延べ件数	12,628		12,628		72,040		平成 25 年度 片山津・湖北・金明累計
	述べ日数	3,891		3,891		24,819		
見守り支えあい制度	登録者数	367		499		3,527		平成 25 年度
市営住宅入居者世帯数 （うち高齢者単身世帯）	世帯	43 (18)		59 (25)		374 (177)		平成 25 年 4 月 1 日現在

4. 相談事業、実態調査からみた市民の相談内容

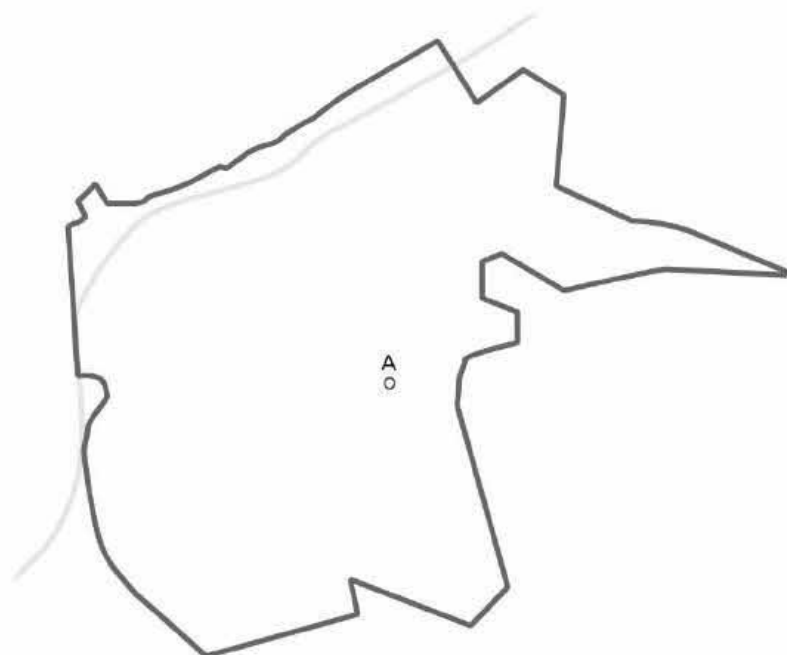
	相談内容等	件数 (件)	カテゴリー内 割合 (%)	全体割合 (%)	総括
医療	1. 特定疾患の相談	33	39.8	4.4	・ カテゴリー別で相談件数の多いものをみると、1位「介護予防」身体機能について、2位「介護」認知症に関する相談、3位「介護」デイサービス・デイケア利用について、4位「生活支援」お金の管理について、5位「介護」介護認定の新規申請の依頼、となっています。 ・ 相談内容は、全体と同様の傾向ではありますが、お金の管理についての相談が上位に上がってきています。 ・ お金の管理についての相談の内容については、成年後見人制度の利用など今後、お金の管理についてどうしたらよいか教えてほしいなどとなっています。
	2. 自分の病気について	30	36.1	4.0	
	3. 退院後の生活について	7	8.4	0.9	
	4. 病院の利用	6	7.2	0.8	
	5. 自分の病気についての相談	4	4.8	0.5	
	6. その他	3	3.6	0.4	
	小 計	83	100.0	11.0	
介護	1. 認知症に関する相談	85	27.2	11.2	
	2. デイサービス・デイケア利用について	48	15.4	6.3	
	3. 介護認定の新規申請の依頼	40	12.8	5.3	
	4. 在宅サービスの利用にあたっての相談	29	9.3	3.8	
	5. 在宅サービスによる入浴希望	18	5.8	2.4	
	6. その他	92	29.5	12.2	
	小 計	312	100.0	41.3	
介護予防	1. 身体機能について	104	67.5	13.8	
	2. チェックリストについて	24	15.6	3.2	
	3. 二次予防について	11	7.1	1.5	
	4. 一次予防について	7	4.5	0.9	
	5. 健康づくりについて	3	1.9	0.4	
	6. その他	5	3.2	0.7	
	小 計	154	100.0	20.4	
生活支援	1. お金の管理について	41	21.9	5.4	
	2. 虐待問題について	37	19.8	4.9	
	3. 家族関係、人間関係について	24	12.8	3.2	
	4. ひとり暮らしによる不安に対しての生活相談	21	11.2	2.8	
	5. 見守り、安否確認	16	8.6	2.1	
	6. その他	48	25.7	6.3	
	小 計	187	100.0	24.7	
住まい	1. 手すりの設置、段差の解消要望	12	60.0	1.6	
	2. 住宅改修に関わる介護申請について	8	40.0	1.1	
	小 計	20	100.0	2.6	
	合 計	756	—	100.0	

5. 社会資源の状況				
	項 目	地区内数量	市全体数量	備 考
医療	病院	—	6か所	
	医院	4か所	46か所	
	歯科医院	3か所	30か所	
	薬局	4か所	29か所	
介護	居宅介護支援	—	14事業所	
	居宅介護サービス	5事業所	54事業所	
	地域密着サービス	1事業所	18事業所	
	施設サービス	1事業所	11事業所	
	介護予防支援	—	1事業所	
	介護予防サービス	3事業所	46事業所	
介護予防	元気はつらつ塾	—	4か所	
	介護予防筋力向上トレーニング教室	1か所	3か所	
	老人福祉センター	1か所	4か所	
	ケアハウス	1か所	4か所	
	介護なんでも110番	3事業所	32か所	
	おたっしゃサークル	3か所	79か所	
生活支援	新聞販売店	4営業所	23営業所	
	牛乳配達営業店	2か所	8か所	
	コンビニエンスストア	3か所	33か所	
	農業組合法人	—	9か所	
	郵便局	1か所	17か所	
	周遊バス バス停	5か所	30か所	
住まい	サービス付高齢者向け住宅	—	3か所	
	グループホーム	2か所	12か所	

1. 地区名

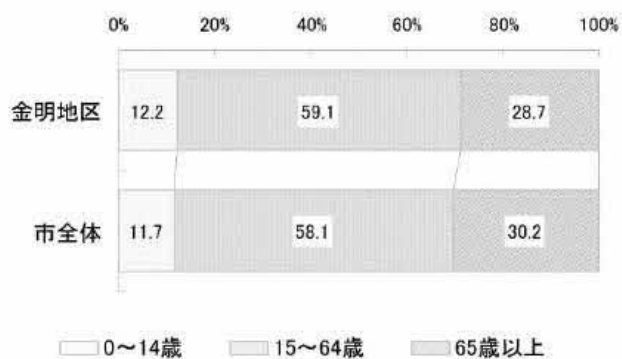
金明（金明）

2. 地区図



地域密着サービス事業所
A 小規模多機能ホームきんめい

3 区分別人口割合



要介護認定率（軽度・中重度）



3. 基礎情報

項目	単位	数値		圏域合計・平均		市合計・平均		備考
人 口	人	2,123		9,604		70,885		平成 26 年 4 月 1 日現在
65 歳以上人口（人）	人	609		2,956		21,376		平成 26 年 4 月 1 日現在
前期高齢者人口・割合	人・％	291	47.8	1,503	50.8	10,982	51.4	前期高齢者人口/人口
後期高齢者人口・割合	人・％	318	52.2	1,453	49.2	10,394	48.6	後期高齢者人口/人口
高齢化率（％）	％	28.7		35.9		30.2		65 歳以上人口/人口
要介護認定者数（在宅のみ）	人	79		397		2,782		平成 26 年 4 月 1 日現在
要介護認定率	％	13.0		13.4		13.0		要介護認定者数/65 歳以上人口
軽度認定率	％	9.7		10.8		10.5		軽度認定者数/65 歳以上人口
中重度認定率	％	3.3		2.6		2.5		中重度認定者数/65 歳以上人口
認知症高齢者数・割合	人・％	66	10.8	347	11.7	2,595	12.1	認知症高齢者数/65 歳以上人口
在宅サービス利用率	人・％	42	53.2	273	68.8	2,077	74.7	在宅サービス利用数/ 要介護認定者数（在宅のみ）
1 人当り療養諸費費用額	円	—		—		355,925		平成 24 年度
悪性新生物年齢調整死亡率	率	—		—		129.1		平成 24 年度
心疾患年齢調整死亡率	率	—		—		47.5		平成 24 年度
脳血管疾患年齢調整死亡率	率	—		—		41.5		平成 24 年度
新規申請数（1 位）	件	悪性新生物 （がん）	3	10		67		平成 25 年 4 月
新規申請数（1 位）	件	脊柱管 狭窄症	3	6		24		平成 25 年 4 月
在宅寝たきり者数	人	74		385		2,717		平成 26 年 10 月
二次予防事業対象者数	人	88		473		3,444		平成 25 年度
特定健診受診率	％	36.2		—		37.5		平成 24 年度
喫煙率	％	—		—		16.1		平成 25 年度
民生委員活動	延べ件数	12,628		12,628		72,040		平成 25 年度 片山津・湖北・金明累計
	述べ日数	3,891		3,891		24,819		
見守り支えあい制度	登録者数	83		499		3,527		平成 25 年度
市営住宅入居者世帯数 （うち高齢者単身世帯）	世帯	—		59 (25)		374 (177)		平成 25 年 4 月 1 日現在

4. 相談事業、実態調査からみた市民の相談内容

	相談内容等	件数 (件)	カテゴリー内 割合 (%)	全体割合 (%)	総括
医療	1. 特定疾患の相談	17	77.3	10.5	・ カテゴリー別で相談件数の多いものをみると、1位「生活支援」虐待問題について、2位「介護予防」身体機能について、3位「医療」特定疾患の相談、4位「介護」認知症に関する相談、5位「介護」デイサービス・デイケア利用について、となっています。
	2. 自分の病気についての相談	4	18.2	2.5	
	3. 医療費負担の軽減の要望	1	4.5	0.6	
	小 計	22	100.0	13.6	
介護	1. 認知症に関する相談	15	25.0	9.3	・ 相談内容は、虐待問題についての相談が上位に上がってきています。
	2. デイサービス・デイケア利用について	13	21.7	8.0	
	3. 家族介護による介護者の心身疲労	10	16.7	6.2	
	4. 介護認定について	6	10.0	3.7	
	5. 在宅サービスによる入浴希望	5	8.3	3.1	
	6. 介護認定の新規申請の依頼	3	5.0	1.9	
	7. その他	8	13.3	4.9	
	小 計	60	100.0	37.0	
介護予防	1. 身体機能について	19	57.6	11.7	・ 虐待問題に関する相談の内容については、介護負担から高齢者虐待に至っている、精神疾患などで家族からの暴力を受けているなどとなっています。
	2. チェックリストについて	6	18.2	3.7	
	3. 一次予防について	4	12.1	2.5	
	4. 二次予防について	3	9.1	1.9	
	5. 予防事業の申し込みについて	1	3.0	0.6	
	小 計	33	100.0	20.4	
生活支援	1. 虐待問題について	24	64.9	14.8	
	2. 家族関係、人間関係について	4	10.8	2.5	
	3. 見守り、安否確認	3	8.1	1.9	
	4. おたっしや訪問	2	5.4	1.2	
	5. その他	4	10.8	2.5	
	小 計	37	100.0	22.8	
住まい	1. 住宅改修に関わる介護申請について	6	60.0	3.7	
	2. 手すりの設置、段差の解消要望	4	40.0	2.5	
	小 計	10	100.0	6.2	
	合 計	162	—	100.0	

5. 社会資源の状況				
	項 目	地区内数量	市全体数量	備 考
医療	病院	—	6か所	
	医院	—	46か所	
	歯科医院	—	30か所	
	薬局	—	29か所	
介護	居宅介護支援	—	14事業所	
	居宅介護サービス	—	54事業所	
	地域密着サービス	1事業所	18事業所	
	施設サービス	—	11事業所	
	介護予防支援	—	1事業所	
	介護予防サービス	—	46事業所	
介護予防	元気はつらつ塾	—	4か所	
	介護予防筋力向上トレーニング教室	—	3か所	
	老人福祉センター	—	4か所	
	ケアハウス	—	4か所	
	介護なんでも110番	1事業所	32か所	
	おたっしゃサークル	2か所	79か所	
生活支援	新聞販売店	—	23営業所	
	牛乳配達営業店	1か所	8か所	
	コンビニエンスストア	1か所	33か所	
	農業組合法人	1か所	9か所	
	郵便局	—	17か所	
	周遊バス バス停	1か所	30か所	
住まい	サービス付高齢者向け住宅	—	3か所	
	グループホーム	—	12か所	

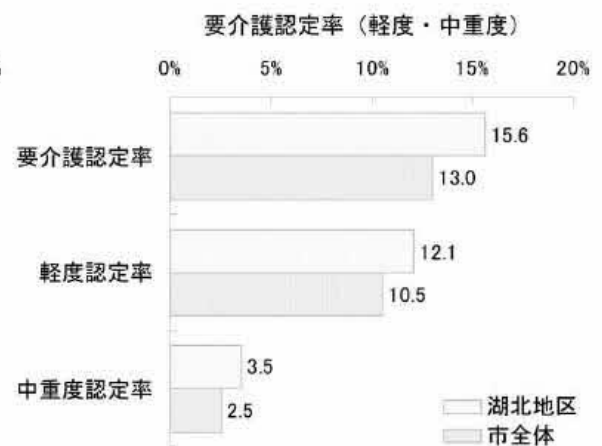
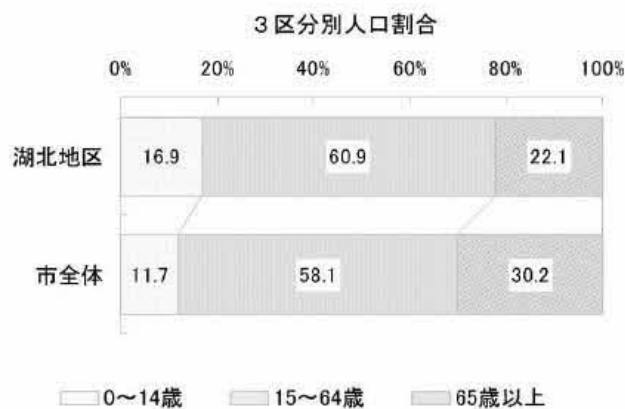
1. 地区名

湖北（湖北）

2. 地区図



医院	
1	近藤医院 柴山診療所
居宅介護サービス事業所	
A	デイサ花花



3. 基礎情報

項目	単位	数値		圏域合計・平均		市合計・平均		備考
人 口	人	2,051		9,604		70,885		平成26年4月1日現在
65歳以上人口（人）	人	454		2,956		21,376		平成26年4月1日現在
前期高齢者人口・割合	人・％	235	51.8	1,503	50.8	10,982	51.4	前期高齢者人口/人口
後期高齢者人口・割合	人・％	219	48.2	1,453	49.2	10,394	48.6	後期高齢者人口/人口
高齢化率（％）	％	22.1		35.9		30.2		65歳以上人口/人口
要介護認定者数（在宅のみ）	人	71		397		2,782		平成26年4月1日現在
要介護認定率	％	15.6		13.4		13.0		要介護認定者数/65歳以上人口
軽度認定率	％	12.1		10.8		10.5		軽度認定者数/65歳以上人口
中重度認定率	％	3.5		2.6		2.5		中重度認定者数/65歳以上人口
認知症高齢者数・割合	人・％	48	10.6	347	11.7	2,595	12.1	認知症高齢者数/65歳以上人口
在宅サービス利用率	人・％	46	64.8	273	68.8	2,077	74.7	在宅サービス利用数/ 要介護認定者数（在宅のみ）
1人当り療養諸費費用額	円	—		—		355,925		平成24年度
悪性新生物年齢調整死亡率	率	—		—		129.1		平成24年度
心疾患年齢調整死亡率	率	—		—		47.5		平成24年度
脳血管疾患年齢調整死亡率	率	—		—		41.5		平成24年度
新規申請数（1位）	件	認知症	3	136		136		平成25年4月
新規申請数（2位）	件	脳卒中	2	104		104		平成25年4月
新規申請数（2位）	件	関節症	2	58		58		平成25年4月
在宅寝たきり者数	人	72		385		2,717		平成26年10月
二次予防事業対象者数	人	81		473		3,444		平成25年度
特定健診受診率	％	36.9		—		37.5		平成24年度
喫煙率	％	—		—		16.1		平成25年度
民生委員活動	延べ件数	12,628		12,628		72,040		平成25年度 片山津・湖北・金明累計
	述べ日数	3,891		3,891		24,819		
見守り支えあい制度	登録者数	49		499		3,527		平成25年度
市営住宅入居者世帯数 （うち高齢者単身世帯）	世帯	16 (7)		59 (25)		374 (177)		平成25年4月1日現在

4. 相談事業、実態調査からみた市民の相談内容

	相談内容等	件数 (件)	カテゴリ内 割合 (%)	全体割合 (%)	総括
医療	1. 特定疾患の相談	9	56.3	7.4	・ カテゴリ別で相談件数の多いものをみると、1位「介護」認知症に関する相談について、2位「介護」デイサービス・デイクア利用について、3位「医療」特定疾患の相談、4位「介護予防」身体機能について、同じく4位「生活支援」家族関係・人間関係についての相談、となっています。
	2. リハビリの利用意向	3	18.8	2.5	
	3. 自分の病気について	1	6.3	0.8	
	3. 自分の病気についての相談	1	6.3	0.8	
	3. 退院後の生活について	1	6.3	0.8	
	3. 病院への移動手段	1	6.3	0.8	
	小 計	16	100.0	13.2	
介護	1. 認知症に関する相談	21	33.9	17.4	・ 相談内容は、全体と同様の傾向ではありますが、家族関係・人間関係についての相談が上位に上がってきています。
	2. デイサービス・デイクア利用について	13	21.0	10.7	
	3. 介護認定の新規申請の依頼	7	11.3	5.8	
	4. 在宅サービスによる入浴希望	5	8.1	4.1	
	4. 介護更新について	5	8.1	4.1	
	6. その他	11	17.7	9.1	
	小 計	62	100.0	51.2	
介護予防	1. 身体機能について	8	42.1	6.6	・ 家族関係・人間関係についての相談認知症高齢者を介護する家族と本人の関係が悪くなっており、どのようにすればよいのかなどとなっています。
	2. チェックリストについて	7	36.8	5.8	
	3. 一次予防について	2	10.5	1.7	
	4. 二次予防について	1	5.3	0.8	
	4. 予防事業の申し込みについて	1	5.3	0.8	
	小 計	19	100.0	15.7	
生活支援	1. 家族関係、人間関係について	8	38.1	6.6	
	2. 福祉用具の利用について	3	14.3	2.5	
	3. 移動について	2	9.5	1.7	
	3. 虐待問題について	2	9.5	1.7	
	3. おたっしや訪問	2	9.5	1.7	
	3. 本人の現状について	2	9.5	1.7	
	7. その他	2	9.5	1.7	
	小 計	21	100.0	17.4	
住まい	1. 住宅改修に関わる介護申請について	2	66.7	1.7	
	2. 手すりの設置、段差の解消要望	1	33.3	0.8	
	小 計	3	100.0	2.5	
	合 計	121	—	100.0	

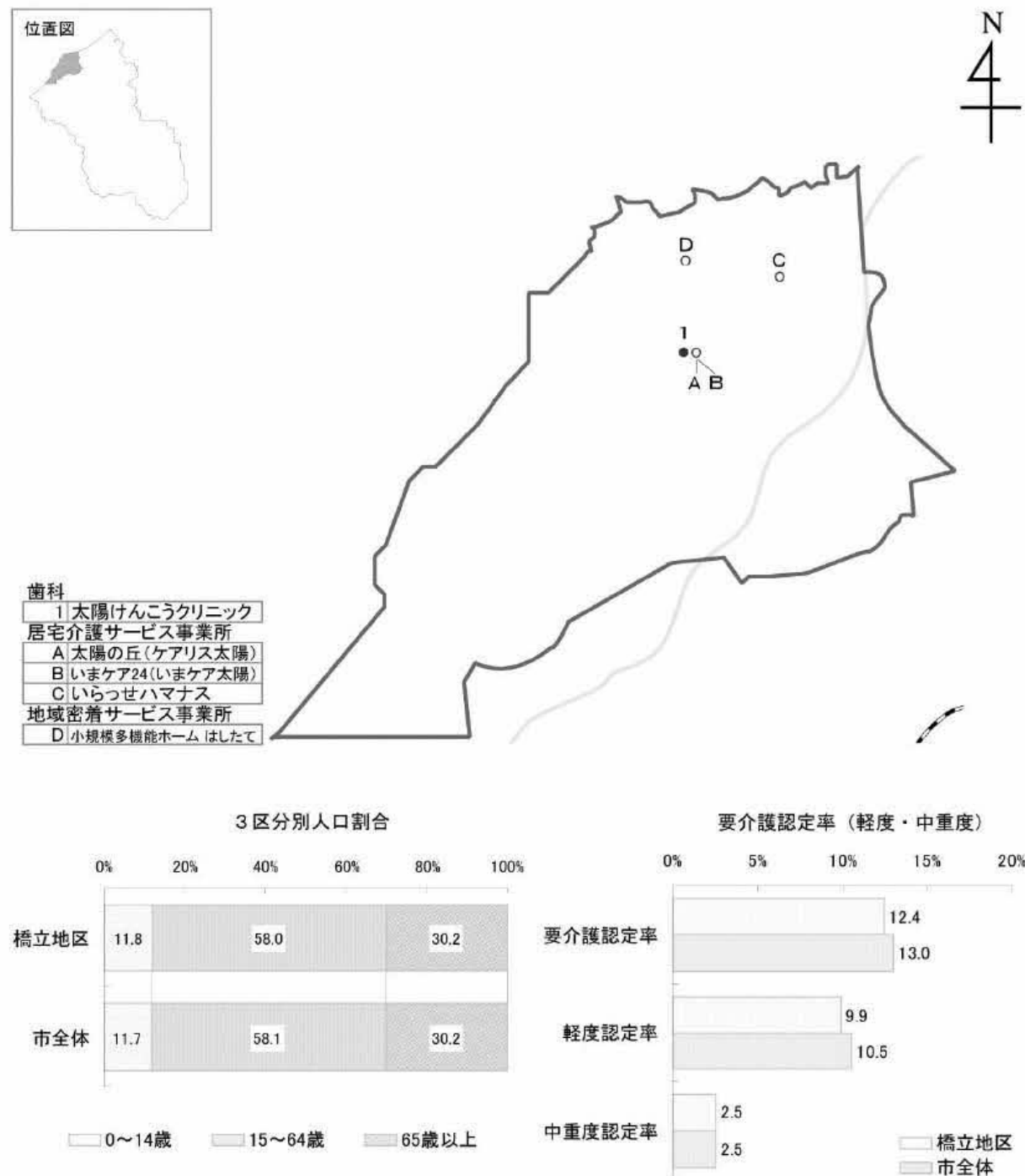
5. 社会資源の状況

	項 目	地区内数量	市全体数量	備 考
医療	病院	1 か所	6 か所	
	医院	1 か所	46 か所	
	歯科医院	—	30 か所	
	薬局	—	29 か所	
介護	居宅介護支援	—	14 事業所	
	居宅介護サービス	1 事業所	54 事業所	
	地域密着サービス	—	18 事業所	
	施設サービス	—	11 事業所	
	介護予防支援	—	1 事業所	
	介護予防サービス	1 事業所	46 事業所	
介護予防	元気はつらつ塾	—	4 か所	
	介護予防筋力向上トレーニング教室	—	3 か所	
	老人福祉センター	—	4 か所	
	ケアハウス	—	4 か所	
	介護なんでも 110 番	—	32 か所	
	おたっしやサークル	3 か所	79 か所	
生活支援	新聞販売店	—	23 営業所	
	牛乳配達営業店	—	8 か所	
	コンビニエンスストア	4 か所	33 か所	
	農業組合法人	—	9 か所	
	郵便局	—	17 か所	
	周遊バス バス停	—	30 か所	
住まい	サービス付高齢者向け住宅	—	3 か所	
	グループホーム	—	12 か所	

1. 地区名

橋立（橋立）

2. 地区図



3. 基礎情報

項目	単位	数値		圏域合計・平均		市合計・平均		備考
人 口	人	3,014		3,014		70,885		平成26年4月1日現在
65歳以上人口（人）	人	910		910		21,376		平成26年4月1日現在
前期高齢者人口・割合	人・％	419	46.0	419	46.0	10,982	51.4	前期高齢者人口/人口
後期高齢者人口・割合	人・％	491	54.0	491	54.0	10,394	48.6	後期高齢者人口/人口
高齢化率（％）	％	30.2		30.2		30.2		65歳以上人口/人口
要介護認定者数（在宅のみ）	人	113		113		2,782		平成26年4月1日現在
要介護認定率	％	12.4		12.4		13.0		要介護認定者数/65歳以上人口
軽度認定率	％	9.9		9.9		10.5		軽度認定者数/65歳以上人口
中重度認定率	％	2.5		2.5		2.5		中重度認定者数/65歳以上人口
認知症高齢者数・割合	人・％	129	14.2	129	14.2	2,595	12.1	認知症高齢者数/65歳以上人口
在宅サービス利用率	人・％	81	71.7	81	71.7	2,077	74.7	在宅サービス利用数/ 要介護認定者数（在宅のみ）
1人当り療養諸費費用額	円	—		—		355,925		平成24年度
悪性新生物年齢調整死亡率	率	—		—		129.1		平成24年度
心疾患年齢調整死亡率	率	—		—		47.5		平成24年度
脳血管疾患年齢調整死亡率	率	—		—		41.5		平成24年度
新規申請数（1位）	件	認知症	7	7		136		平成25年4月
新規申請数（2位）	件	腰椎圧迫骨折	4	4		35		平成25年4月
新規申請数（2位）	件	脳卒中	4	4		104		平成25年4月
在宅寝たきり者数	人	110		110		2,717		平成26年10月
二次予防事業対象者数	人	164		164		3,444		平成25年度
特定健診受診率	％	35.2		—		37.5		平成24年度
喫煙率	％	—		—		16.1		平成25年度
民生委員活動	延べ件数	3,873		3,873		72,040		平成25年度
	述べ日数	1,213		1,213		24,819		
見守り支えあい制度	登録者数	162		162		3,527		平成25年度
市営住宅入居者世帯数 （うち高齢者単身世帯）	世帯	—		—		374 （177）		平成25年4月1日現在

4. 相談事業、実態調査からみた市民の相談内容

	相談内容等	件数 (件)	カテゴリー内 割合 (%)	全体割合 (%)	総括
医療	1. 自分の病気について	15	34.9	5.3	・ カテゴリー別で相談件数の多いものをみると、1位「介護」認知症に関する相談、2位「生活支援」虐待問題について、3位「介護予防」二次予防について、4位「介護」デイサービス・デイケア利用について、5位「介護予防」身体機能について、となっています。
	2. 特定疾患の相談	13	30.2	4.6	
	3. 自分の病気についての相談	4	9.3	1.4	
	3. 退院後の生活について	4	9.3	1.4	
	5. その他	7	16.3	2.5	
	小 計	43	100.0	15.1	
介護	1. 認知症に関する相談	34	30.9	11.9	・ 相談内容は、全体と同様の傾向ではありますが、二次予防についての相談が上位に上がってきています。
	2. デイサービス・デイケア利用について	22	20.0	7.7	
	3. 介護認定の新規申請の依頼	12	10.9	4.2	
	4. 在宅サービスの利用にあたっての相談	9	8.2	3.2	
	4. 施設入所相談	9	8.2	3.2	
	6. その他	24	21.8	8.4	
	小 計	110	100.0	38.6	
介護予防	1. 二次予防について	25	39.7	8.8	・ 二次予防の相談に関しての内容は、糖尿病など生活習慣病になっており、なかなか運動もできなくなった。食事に気をつけないといけないので、予防講座に参加して、今後食生活等に気をつけたいなどとなっています。
	2. 身体機能について	19	30.2	6.7	
	3. チェックリストについて	8	12.7	2.8	
	4. 一次予防について	7	11.1	2.5	
	5. その他	4	6.3	1.4	
	小 計	63	100.0	22.1	
生活支援	1. 虐待問題について	26	47.3	9.1	
	2. 家族関係、人間関係について	8	14.5	2.8	
	3. 居宅訪問	7	12.7	2.5	
	4. お金の管理について	5	9.1	1.8	
	5. おたっしや訪問	4	7.3	1.4	
	6. その他	5	9.1	1.8	
	小 計	55	100.0	19.3	
住まい	1. 住宅改修に関わる介護申請について	10	71.4	3.5	
	2. 手すりの設置、段差の解消要望	3	21.4	1.1	
	3. トイレの改修要望	1	7.1	0.4	
	小 計	14	100.0	4.9	
	合 計	285	—	100.0	

5. 社会資源の状況				
	項 目	地区内数量	市全体数量	備 考
医療	病院	—	6か所	
	医院	1か所	46か所	
	歯科医院	—	30か所	
	薬局	—	29か所	
介護	居宅介護支援	1事業所	14事業所	
	居宅介護サービス	3事業所	54事業所	
	地域密着サービス	2事業所	18事業所	
	施設サービス	1事業所	11事業所	
	介護予防支援	—	1事業所	
	介護予防サービス	3事業所	46事業所	
介護予防	元気はつらつ塾	—	4か所	
	介護予防筋力向上トレーニング教室	—	3か所	
	老人福祉センター	—	4か所	
	ケアハウス	—	4か所	
	介護なんでも110番	3事業所	32か所	
	おたっしゃサークル	3か所	79か所	
生活支援	新聞販売店	1営業所	23営業所	
	牛乳配達営業店	—	8か所	
	コンビニエンスストア	—	33か所	
	農業組合法人	—	9か所	
	郵便局	1か所	17か所	
	周遊バス バス停	6か所	30か所	
住まい	サービス付高齢者向け住宅	1か所	3か所	
	グループホーム	—	12か所	

1. 地区名

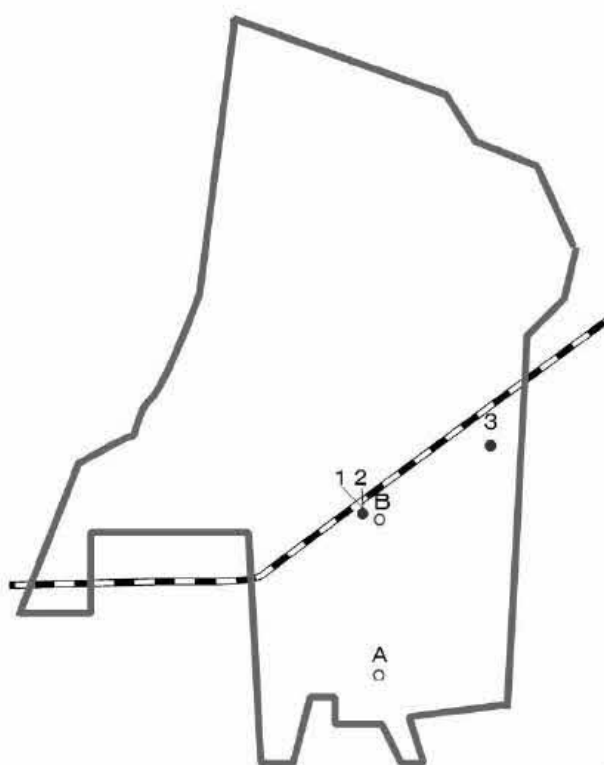
動橋（動橋）

2. 地区図

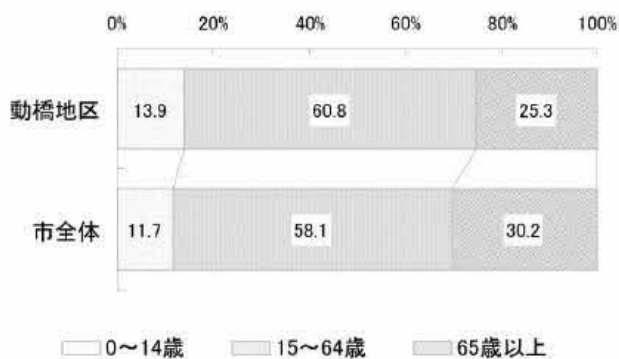


医院

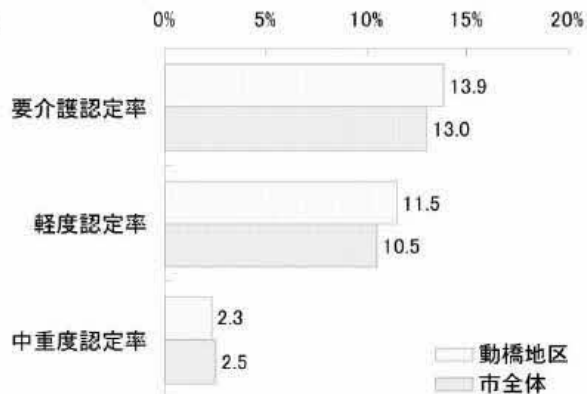
1	上出医院
2	動橋診療所
3	新家歯科医院
居宅介護サービス事業所	
A	動橋慈妙院
地域密着サービス事業所	
B	動橋ひまわりの家



3区分別人口割合



要介護認定率（軽度・中重度）



3. 基礎情報

項目	単位	数値		圏域合計・平均		市合計・平均		備考
人 口	人	4,037		6,318		70,885		平成 26 年 4 月 1 日現在
65 歳以上人口（人）	人	1,023		1,668		21,376		平成 26 年 4 月 1 日現在
前期高齢者人口・割合	人・％	546	53.4	858	51.4	10,982	51.4	前期高齢者人口/人口
後期高齢者人口・割合	人・％	477	46.6	810	48.6	10,394	48.6	後期高齢者人口/人口
高齢化率（％）	％	25.3		29.3		30.2		65 歳以上人口/人口
要介護認定者数（在宅のみ）	人	142		242		2,782		平成 26 年 4 月 1 日現在
要介護認定率	％	13.9		14.5		13.0		要介護認定者数/65 歳以上人口
軽度認定率	％	11.5		12.0		10.5		軽度認定者数/65 歳以上人口
中重度認定率	％	2.3		2.5		2.5		中重度認定者数/65 歳以上人口
認知症高齢者数・割合	人・％	122	11.9	203	12.2	2,595	12.1	認知症高齢者数/65 歳以上人口
在宅サービス利用率	人・％	105	73.9	185	76.4	2,077	74.7	在宅サービス利用数/ 要介護認定者数（在宅のみ）
1 人当り療養諸費費用額	円	—		—		355,925		平成 24 年度
悪性新生物年齢調整死亡率	率	—		—		129.1		平成 24 年度
心疾患年齢調整死亡率	率	—		—		47.5		平成 24 年度
脳血管疾患年齢調整死亡率	率	—		—		41.5		平成 24 年度
新規申請数（1 位）	件	脳卒中	8	11		104		平成 25 年 4 月
新規申請数（2 位）	件	認知症	6	7		136		平成 25 年 4 月
在宅寝たきり者数	人	128		216		2,717		平成 26 年 10 月
二次予防事業対象者数	人	159		264		3,444		平成 25 年度
特定健診受診率	％	35.0		—		37.5		平成 24 年度
喫煙率	％	—		—		16.1		平成 25 年度
民生委員活動	延べ件数	4,306		4,306		72,040		平成 25 年度 数値・分校累計
	述べ日数	1,533		1,533		24,819		
見守り支えあい制度	登録者数	174		279		3,527		平成 25 年度
市営住宅入居者世帯数 （うち高齢者単身世帯）	世帯	21 (10)		24 (12)		374 (177)		平成 25 年 4 月 1 日現在

4. 相談事業、実態調査からみた市民の相談内容

	相談内容等	件数 (件)	カテゴリ内 割合 (%)	全体割合 (%)	総括
医療	1. 特定疾患の相談	5	45.5	2.0	・ カテゴリ別で相談件数の多いものをみると、1位「介護」デイサービス・デイケア利用について、2位「介護予防」身体機能について、3位「介護」介護認定の新規申請の依頼、同じく3位「介護」認知症に関する相談、5位「介護予防」一次予防についての相談、となっています。
	2. リハビリの利用意向	2	18.2	0.8	
	3. 自分の病気について	1	9.1	0.4	
	3. 自分の病気についての相談	1	9.1	0.4	
	3. 退院後の生活について	1	9.1	0.4	
	3. 在宅医療の利用について	1	9.1	0.4	
	小 計	11	100.0	4.3	
介護	1. デイサービス・デイケア利用について	50	33.6	19.5	・ 相談内容は、全体と同様の傾向ではありますが、デイサービス・デイケア利用についての相談が上位に上がってきています。
	2. 介護認定の新規申請の依頼	24	16.1	9.4	
	2. 認知症に関する相談	24	16.1	9.4	
	4. 施設入所相談	8	5.4	3.1	
	5. 在宅サービスによる入浴希望	7	4.7	2.7	
	6. ケアマネージャーについて	6	4.0	2.3	
	7. その他	30	20.1	11.7	
	小 計	149	100.0	58.2	
介護予防	1. 身体機能について	31	57.4	12.1	・ デイサービス・デイケア利用についての相談の内容は、家族の介護負担の軽減や入浴支援の面からデイサービスを利用したいなどとなっています。
	2. 一次予防について	11	20.4	4.3	
	3. チェックリストについて	5	9.3	2.0	
	4. 二次予防について	4	7.4	1.6	
	5. その他	3	5.6	1.2	
	小 計	54	100.0	21.1	
生活支援	1. 家族関係、人間関係について	8	30.8	3.1	
	2. 福祉用具の利用について	5	19.2	2.0	
	3. 独居による不安の生活相談	4	15.4	1.6	
	3. おたっしや訪問	4	15.4	1.6	
	5. その他	5	19.2	2.0	
	小 計	26	100.0	10.2	
住まい	1. 住宅改修に関わる介護申請について	8	50.0	3.1	
	2. 手すりの設置、段差の解消要望	6	37.5	2.3	
	3. トイレの改修要望	2	12.5	0.8	
	小 計	16	100.0	6.3	
	合 計	256	—	100.0	

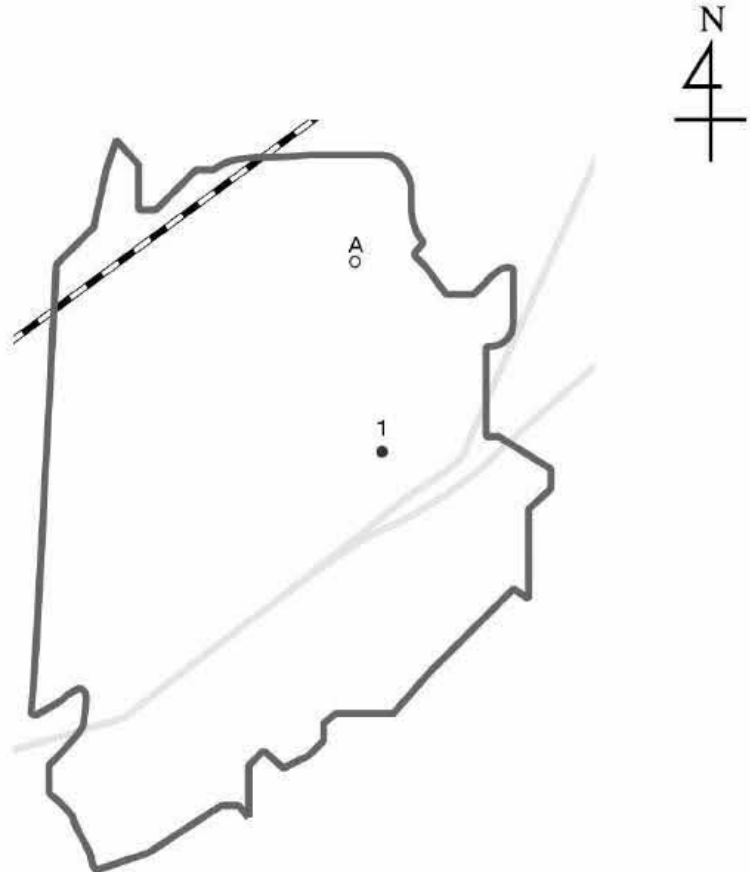
5. 社会資源の状況

	項 目	地区内数量	市全体数量	備 考
医療	病院	—	6か所	
	医院	2か所	46か所	
	歯科医院	1か所	30か所	
	薬局	1か所	29か所	
介護	居宅介護支援	—	14事業所	
	居宅介護サービス	1事業所	54事業所	
	地域密着サービス	2事業所	18事業所	
	施設サービス	—	11事業所	
	介護予防支援	—	1事業所	
	介護予防サービス	1事業所	46事業所	
介護予防	元気はつらつ塾	—	4か所	
	介護予防筋力向上トレーニング教室	—	3か所	
	老人福祉センター	—	4か所	
	ケアハウス	—	4か所	
	介護なんでも110番	2事業所	32か所	
	おたっしゃサークル	1か所	79か所	
生活支援	新聞販売店	2営業所	23営業所	
	牛乳配達営業店	1か所	8か所	
	コンビニエンスストア	1か所	33か所	
	農業組合法人	—	9か所	
	郵便局	1か所	17か所	
	周遊バス バス停	2か所	30か所	
住まい	サービス付高齢者向け住宅	—	3か所	
	グループホーム	—	12か所	

1. 地区名

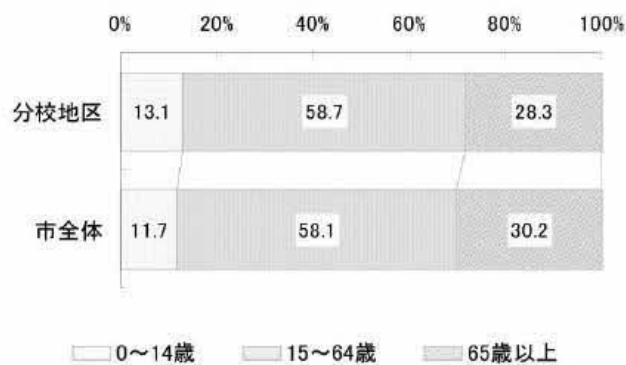
分校（分校）

2. 地区図

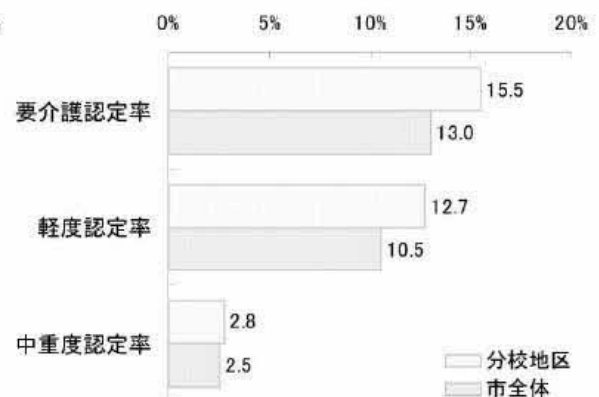


医院
1 箱宮クリニック
居宅介護サービス事業所
A 打越デイサービスセンター

3 区分別人口割合



要介護認定率（軽度・中重度）



3. 基礎情報

項目	単位	数値		圏域合計・平均		市合計・平均		備考
人 口	人	2,281		6,318		70,885		平成26年4月1日現在
65歳以上人口（人）	人	645		1,668		21,376		平成26年4月1日現在
前期高齢者人口・割合	人・％	312	48.4	858	51.4	10,982	51.4	前期高齢者人口/人口
後期高齢者人口・割合	人・％	333	51.6	810	48.6	10,394	48.6	後期高齢者人口/人口
高齢化率（％）	％	28.3		29.3		30.2		65歳以上人口/人口
要介護認定者数（在宅のみ）	人	100		242		2,782		平成26年4月1日現在
要介護認定率	％	15.5		14.5		13.0		要介護認定者数/65歳以上人口
軽度認定率	％	12.7		12.0		10.5		軽度認定者数/65歳以上人口
中重度認定率	％	2.8		2.5		2.5		中重度認定者数/65歳以上人口
認知症高齢者数・割合	人・％	81	12.6	203	12.2	2,595	12.1	認知症高齢者数/65歳以上人口
在宅サービス利用率	人・％	80	80.0	185	76.4	2,077	74.7	在宅サービス利用数/ 要介護認定者数（在宅のみ）
1人当り療養諸費費用額	円	—		—		355,925		平成24年度
悪性新生物年齢調整死亡率	率	—		—		129.1		平成24年度
心疾患年齢調整死亡率	率	—		—		47.5		平成24年度
脳血管疾患年齢調整死亡率	率	—		—		41.5		平成24年度
新規申請数（1位）	件	悪性新生物 （がん）	5	9		67		平成25年4月
新規申請数（2位）	件	脳卒中	3	11		104		平成25年4月
在宅寝たきり者数	人	88		216		2,717		平成26年10月
二次予防事業対象者数	人	105		264		3,444		平成25年度
特定健診受診率	％	34.8		—		37.5		平成24年度
喫煙率	％	—		—		16.1		平成25年度
民生委員活動	延べ件数	4,306		4,306		72,040		平成25年度 動向・分校累計
	述べ日数	1,533		1,533		24,819		
見守り支えあい制度	登録者数	105		279		3,527		平成25年度
市営住宅入居者世帯数 （うち高齢者単身世帯）	世帯	3 (2)		24 (12)		374 (177)		平成25年4月1日現在

4. 相談事業、実態調査からみた市民の相談内容

	相談内容等	件数 (件)	カテゴリ内 割合 (%)	全体割合 (%)	総括
医療	1. 特定疾患の相談	9	40.9	4.9	・ カテゴリ別で相談件数の多いものをみると、1位「介護」デイサービス・デイケア利用について、2位「介護予防」身体機能について、3位「介護」介護認定の新規申請の依頼、4位「介護」認知症に関する相談、5位「生活支援」虐待問題について、となっています。 ・ 相談内容は、全体と同様の傾向ではありますが、介護認定の新規申請の依頼についての相談が上位に上がってきています。 ・ 介護認定の新規申請の依頼の内容については、本人の自立支援のため、介護認定を受けて、一人でも生活できるようにしたい、認定を受けて、一人でも生活できるように、家族は本人に認定を受けてもらいたいなどとなっています。
	2. 自分の病気についての相談	5	22.7	2.7	
	2. 退院後の生活について	5	22.7	2.7	
	4. 自分の病気について	2	9.1	1.1	
	5. リハビリの利用意向	1	4.5	0.5	
	小 計	22	100.0	11.9	
介護	1. デイサービス・デイケア利用について	29	33.7	15.7	
	2. 介護認定の新規申請の依頼	18	20.9	9.7	
	3. 認知症に関する相談	15	17.4	8.1	
	4. 施設入所相談	5	5.8	2.7	
	5. その他	19	22.1	10.3	
	小 計	86	100.0	46.5	
介護予防	1. 身体機能について	20	64.5	10.8	
	3. 二次予防について	6	19.4	3.2	
	4. チェックリストについて	4	12.9	2.2	
	5. 健康づくりについて	1	3.2	0.5	
	小 計	31	100.0	16.8	
生活支援	1. 虐待問題について	13	31.7	7.0	
	2. お金の管理について	12	29.3	6.5	
	3. ひとり暮らしによる不安に対する生活相談	7	17.1	3.8	
	4. 家族関係、人間関係について	3	7.3	1.6	
	5. その他	6	14.6	3.2	
	小 計	41	100.0	22.2	
住まい	1. 住宅改修に関わる介護申請について	3	60.0	1.6	
	2. 手すりの設置、段差の解消要望	2	40.0	1.1	
	小 計	5	100.0	2.7	
	合 計	185	—	100.0	

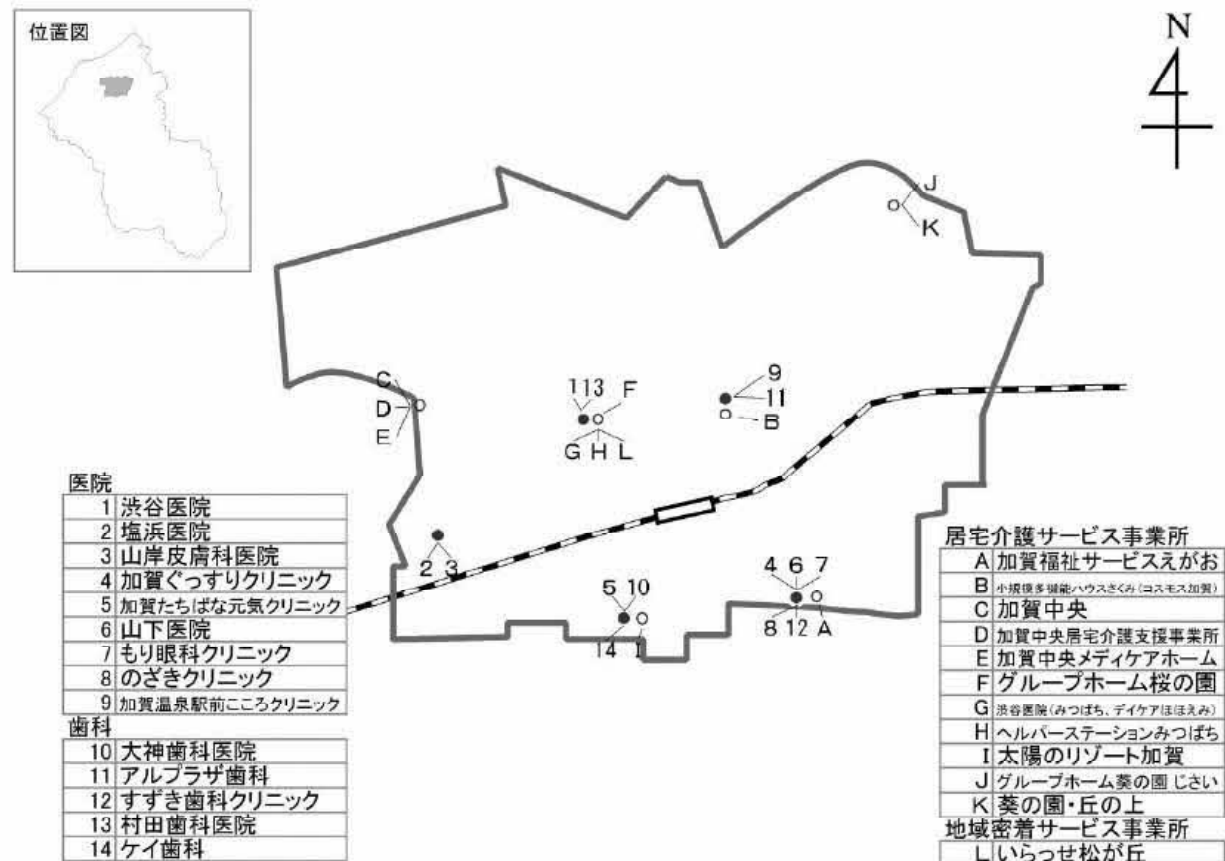
5. 社会資源の状況

	項 目	地区内数量	市全体数量	備 考
医療	病院	—	6か所	
	医院	1 か所	46か所	
	歯科医院	—	30か所	
	薬局	—	29か所	
介護	居宅介護支援	—	14事業所	
	居宅介護サービス	1 事業所	54事業所	
	地域密着サービス	—	18事業所	
	施設サービス	—	11 事業所	
	介護予防支援	—	1 事業所	
	介護予防サービス	1 事業所	46事業所	
介護予防	元気はつらつ塾	—	4か所	
	介護予防筋力向上トレーニング教室	—	3か所	
	老人福祉センター	—	4か所	
	ケアハウス	—	4か所	
	介護なんでも110番	—	32か所	
	おたっしゅサークル	2か所	79か所	
生活支援	新聞販売店	1 営業所	23営業所	
	牛乳配達営業店	—	8か所	
	コンビニエンスストア	3か所	33か所	
	農業組合法人	1 か所	9か所	
	郵便局	—	17か所	
	周遊バス バス停	2か所	30か所	
住まい	サービス付高齢者向け住宅	—	3か所	
	グループホーム	—	12か所	

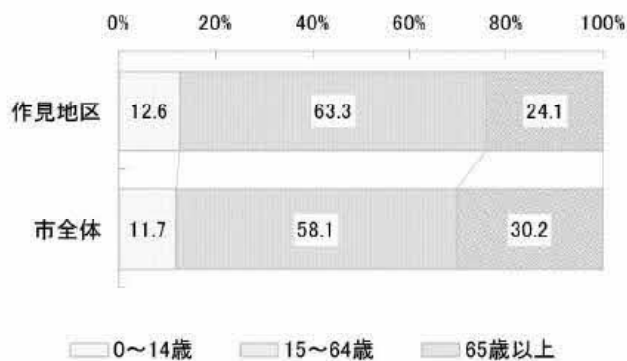
1. 地区名

作見（作見）

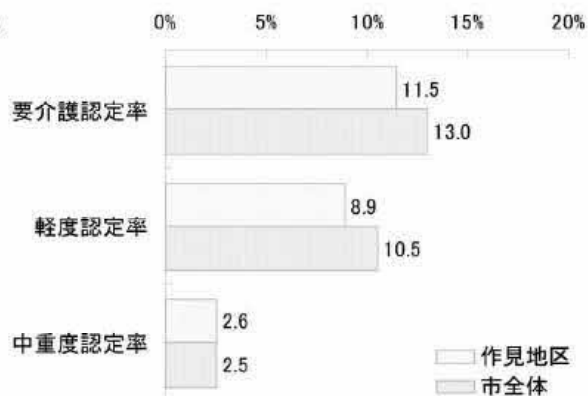
2. 地区図



3区分別人口割合



要介護認定率（軽度・中重度）



3. 基礎情報

項目	単位	数値		圏域合計・平均		市合計・平均		備考
人 口	人	7,972		7,972		70,885		平成26年4月1日現在
65歳以上人口（人）	人	1,920		1,920		21,376		平成26年4月1日現在
前期高齢者人口・割合	人・％	1,040	54.2	1,040	54.2	10,982	51.4	前期高齢者人口/人口
後期高齢者人口・割合	人・％	880	45.8	880	45.8	10,394	48.6	後期高齢者人口/人口
高齢化率（％）	％	24.1		24.1		30.2		65歳以上人口/人口
要介護認定者数（在宅のみ）	人	220		220		2,782		平成26年4月1日現在
要介護認定率	％	11.5		11.5		13.0		要介護認定者数/65歳以上人口
軽度認定率	％	8.9		8.9		10.5		軽度認定者数/65歳以上人口
中重度認定率	％	2.6		2.6		2.5		中重度認定者数/65歳以上人口
認知症高齢者数・割合	人・％	255	13.3	255	13.3	2,595	12.1	認知症高齢者数/65歳以上人口
在宅サービス利用率	人・％	161	73.2	161	73.2	2,077	74.7	在宅サービス利用者数/要介護認定者数（在宅のみ）
1人当り療養諸費費用額	円	—		—		355,925		平成24年度
悪性新生物年齢調整死亡率	率	—		—		129.1		平成24年度
心疾患年齢調整死亡率	率	—		—		47.5		平成24年度
脳血管疾患年齢調整死亡率	率	—		—		41.5		平成24年度
新規申請数（1位）	件	認知症	20	20		136		平成25年4月
新規申請数（2位）	件	悪性新生物 （がん）	5	5		67		平成25年4月
新規申請数（2位）	件	脳卒中	5	5		104		平成25年4月
新規申請数（2位）	件	高血圧症	5	5		42		平成25年4月
在宅寝たきり者数	人	208		208		2,717		平成26年10月
二次予防事業対象者数	人	268		268		3,444		平成25年度
特定健診受診率	％	36.1		—		37.5		平成24年度
喫煙率	％	—		—		16.1		平成25年度
民生委員活動	延べ件数	4,031		4,031		72,040		平成25年度
	述べ日数	1,923		1,923		24,819		
見守り支えあい制度	登録者数	286		286		3,527		平成25年度
市営住宅入居者世帯数 （うち高齢者単身世帯）	世帯	—		—		374 （177）		平成25年4月1日現在

4. 相談事業、実態調査からみた市民の相談内容

	相談内容等	件数 (件)	カテゴリー内 割合 (%)	全体割合 (%)	総括
医療	1. 特定疾患の相談	31	49.2	5.1	・ カテゴリー別で相談件数の多いものをみると、1位「介護予防」身体機能について、2位「介護」認知症に関する相談、3位「介護」デイサービス・デイケア利用について、4位「医療」特定疾患の相談、5位「介護」介護認定の新規申請の依頼、となっています。
	2. 自分の病気について	12	19.0	2.0	
	3. 退院後の生活について	7	11.1	1.1	
	4. リハビリの利用	5	7.9	0.8	
	4. 自分の病気についての相談	5	7.9	0.8	
	6. その他	3	4.8	0.5	
	小 計	63	100.0	10.3	
介護	1. 認知症に関する相談	93	36.9	15.2	・ 相談内容は、全体と同様の傾向ではありますが、身体機能についての相談が上位に上がってきています。
	2. デイサービス・デイケア利用について	46	18.3	7.5	
	3. 介護認定の新規申請の依頼	27	10.7	4.4	
	4. 在宅サービスの利用にあたっての相談	21	8.3	3.4	
	5. 在宅サービスによる入浴希望	12	4.8	2.0	
	5. 施設入所相談	12	4.8	2.0	
	7. その他	41	16.3	6.7	
	小 計	252	100.0	41.1	
介護予防	1. 身体機能について	95	59.4	15.5	・ 身体機能についての相談の内容については、転倒など身体機能が低下しており、予防事業の紹介、今後介護認定の申請をしていくかの相談したいなどとなっています。
	2. 二次予防について	25	15.6	4.1	
	3. 一次予防について	18	11.3	2.9	
	4. チェックリストについて	14	8.8	2.3	
	5. 認知症について	2	1.3	0.3	
	6. その他	6	3.8	1.0	
	小 計	160	100.0	26.1	
生活支援	1. お金の管理について	23	20.7	3.8	
	1. 虐待問題について	23	20.7	3.8	
	3. 家族関係、人間関係について	13	11.7	2.1	
	4. ひとり暮らしによる不安に対する生活相談	12	10.8	2.0	
	5. おたっしゃ訪問	6	5.4	1.0	
	6. その他	34	30.6	5.5	
	小 計	111	100.0	18.1	
住まい	1. 住宅改修に関わる介護申請について	13	48.1	2.1	
	2. 手すりの設置、段差の解消要望	11	40.7	1.8	
	3. トイレの改修要望	3	11.1	0.5	
	小 計	27	100.0	4.4	
	合 計	613	—	100.0	

5. 社会資源の状況

	項 目	地区内数量	市全体数量	備 考
医療	病院	1 か所	6 か所	
	医院	9 か所	46 か所	
	歯科医院	5 か所	30 か所	
	薬局	5 か所	29 か所	
介護	居宅介護支援	5 事業所	14 事業所	
	居宅介護サービス	11 事業所	54 事業所	
	地域密着サービス	2 事業所	18 事業所	
	施設サービス	3 事業所	11 事業所	
	介護予防支援	—	1 事業所	
	介護予防サービス	9 事業所	46 事業所	
介護予防	元気はつらつ塾	1 か所	4 か所	
	介護予防筋力向上トレーニング教室	—	3 か所	
	老人福祉センター	—	4 か所	
	ケアハウス	1 か所	4 か所	
	介護なんでも 110 番	4 事業所	32 か所	
	おたっしゅサークル	9 か所	79 か所	
生活支援	新聞販売店	1 営業所	23 営業所	
	牛乳配達営業店	—	8 か所	
	コンビニエンスストア	5 か所	33 か所	
	農業組合法人	2 か所	9 か所	
	郵便局	1 か所	17 か所	
	周遊バス バス停	1 か所	30 か所	
住まい	サービス付高齢者向け住宅	—	3 か所	
	グループホーム	3 か所	12 か所	

1. 地区名

山中（山中）

2. 地区図



医院

- 1 鈴木医院
- 2 山中温泉はるる診療所
- 3 吉田医院
- 4 山中温泉医療センター
- 5 京子漢方診療所

歯科

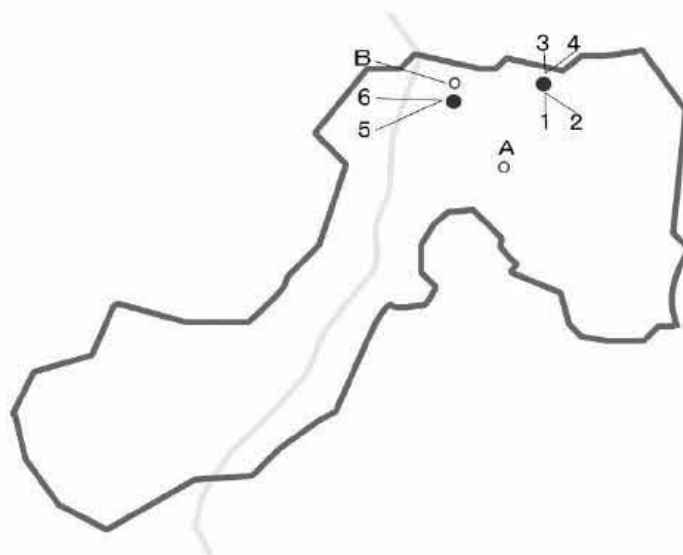
- 6 今村歯科医院

居宅介護サービス事業所

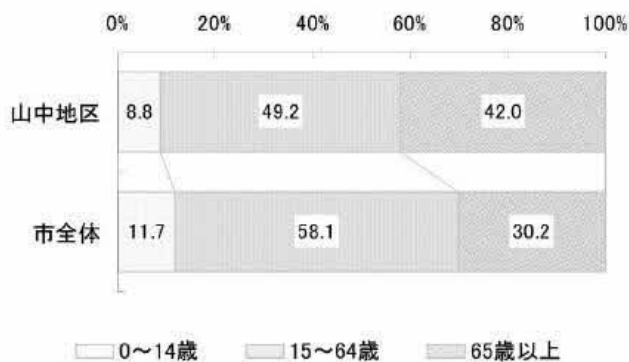
- A はるるデイサービスセンター

地域密着サービス事業所

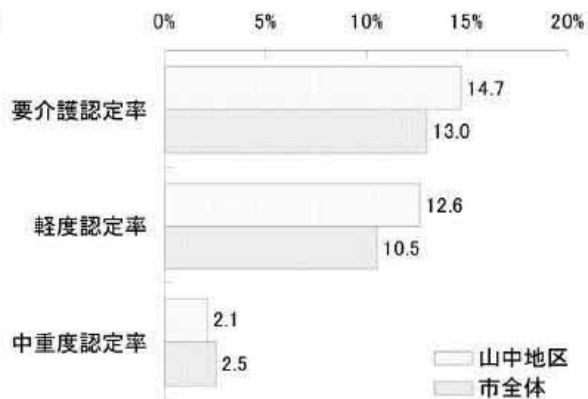
- B 富士見通りお茶の間さろん



3 区分別人口割合



要介護認定率（軽度・中重度）



3. 基礎情報

項目	単位	数値		圏域合計・平均		市合計・平均		備考
人 口	人	2,714		8,406		70,885		平成26年4月1日現在
65歳以上人口（人）	人	1,141		2,969		21,376		平成26年4月1日現在
前期高齢者人口・割合	人・％	526	46.1	1,424	48.0	10,982	51.4	前期高齢者人口/人口
後期高齢者人口・割合	人・％	615	53.9	1,545	52.0	10,394	48.6	後期高齢者人口/人口
高齢化率（％）	％	42.0		43.3		30.2		65歳以上人口/人口
要介護認定者数（在宅のみ）	人	168		421		2,782		平成26年4月1日現在
要介護認定率	％	14.7		14.2		13.0		要介護認定者数/65歳以上人口
軽度認定率	％	12.6		11.9		10.5		軽度認定者数/65歳以上人口
中重度認定率	％	2.1		2.3		2.5		中重度認定者数/65歳以上人口
認知症高齢者数・割合	人・％	123	10.8	380	12.8	2,595	12.1	認知症高齢者数/65歳以上人口
在宅サービス利用率	人・％	119	70.8	273	68.8	2,077	74.7	在宅サービス利用者/ 要介護認定者数（在宅のみ）
1人当り療養諸費費用額	円	—		—		355,925		平成24年度
悪性新生物年齢調整死亡率	率	—		—		129.1		平成24年度
心疾患年齢調整死亡率	率	—		—		47.5		平成24年度
脳血管疾患年齢調整死亡率	率	—		—		41.5		平成24年度
新規申請数（1位）	件	脳卒中	8	24		104		平成25年4月
新規申請数（2位）	件	認知症	6	11		136		平成25年4月
在宅寝たきり者数	人	169		431		2,717		平成26年10月
二次予防事業対象者数	人	187		469		3,444		平成25年度
特定健診受診率	％	35.5		—		37.5		平成24年度
喫煙率	％	—		—		16.1		平成25年度
民生委員活動	延べ件数	15,827		15,827		72,040		平成25年度 山中・河南・西谷・東谷累計
	述べ日数	4,746		4,746		24,819		
見守り支えあい制度	登録者数	295		579		3,527		平成25年度
市営住宅入居者世帯数 （うち高齢者単身世帯）	世帯	—		116 (56)		374 (177)		平成25年4月1日現在

4. 相談事業、実態調査からみた市民の相談内容

	相談内容等	件数 (件)	カテゴリ内 割合 (%)	全体割合 (%)	総括
医療	1. 自分の病気について	12	60.0	3.1	・ カテゴリ別で相談件数が多いものをみると、1位「介護」認知症に関する相談、2位「生活支援」お金の管理について、3位「介護」在宅サービス利用にあたっての相談、4位「介護予防」身体機能について、5位「介護予防」二次予防について、となっています。 ・ 相談内容は、全体と同様の傾向ではありますが、お金の管理についての相談が上位に上がってきています。 ・ お金の管理の内容については、保険等の支払いで生活費が少なく、家族の援助も限界であり、この先の生活が不安である。今後、お金の管理についてどうしたらよいか教えてほしいなどとなっています。
	2. 特定疾患の相談	3	15.0	0.8	
	3. 退院後の生活について	2	10.0	0.5	
	3. リハビリの利用意向	2	10.0	0.5	
	5. 病院への移動手段	1	5.0	0.3	
	小 計	20	100.0	5.2	
介護	1. 認知症に関する相談	68	41.2	17.8	
	2. 在宅サービスの利用にあたっての相談	36	21.8	9.4	
	3. デイサービス・デイケア利用について	19	11.5	5.0	
	4. 介護認定の新規申請の依頼	14	8.5	3.7	
	5. 施設入所相談	8	4.8	2.1	
	6. その他	20	12.1	5.2	
	小 計	165	100.0	43.1	
介護予防	1. 身体機能について	34	47.2	8.9	
	2. 二次予防について	20	27.8	5.2	
	3. 一次予防について	8	11.1	2.1	
	4. チェックリストについて	4	5.6	1.0	
	4. 予防事業の申し込みについて	4	5.6	1.0	
	6. その他	2	2.8	0.5	
	小 計	72	100.0	18.8	
生活支援	1. お金の管理について	52	49.5	13.6	
	2. 見守り、安否確認	16	15.2	4.2	
	3. おたっしゃ訪問	8	7.6	2.1	
	4. 家族関係、人間関係について	7	6.7	1.8	
	5. ひとり暮らしによる不安に対しての生活相談	5	4.8	1.3	
	6. その他	17	16.2	4.4	
	小 計	105	100.0	27.4	
住まい	1. 住宅改修に関わる介護申請について	11	52.4	2.9	
	2. 手すりの設置、段差の解消要望	5	23.8	1.3	
	3. トイレの改修要望	3	14.3	0.8	
	4. 住宅改修相談について	2	9.5	0.5	
	小 計	21	100.0	5.5	
合 計		383	—	100.0	

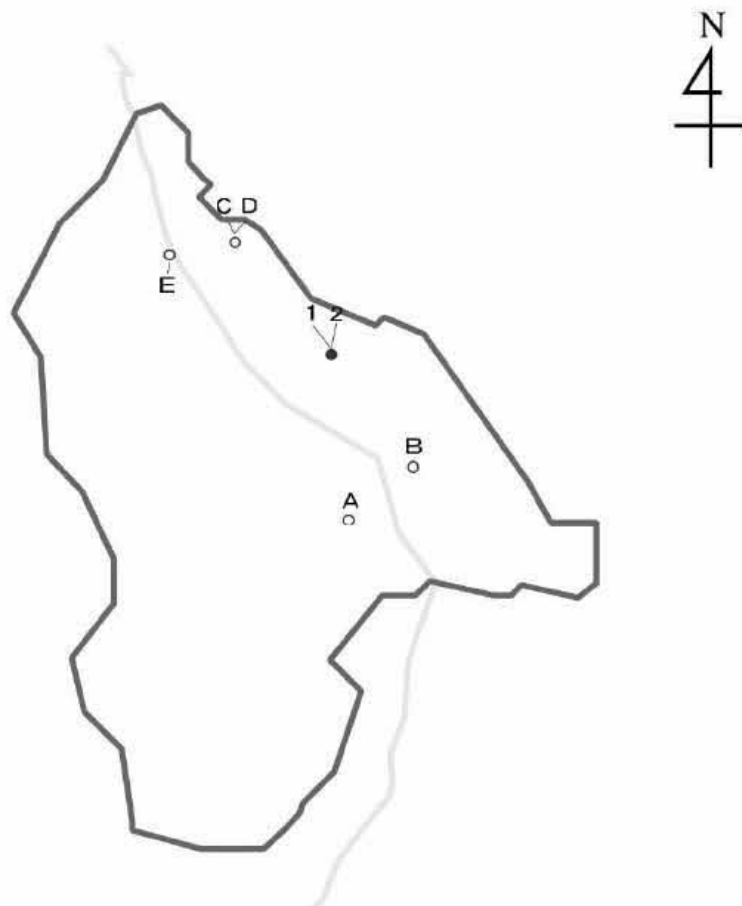
5. 社会資源の状況

	項 目	地区内数量	市全体数量	備 考
医療	病院	—	6か所	
	医院	5 か所	46か所	
	歯科医院	1 か所	30か所	
	薬局	—	29か所	
介護	居宅介護支援	—	14事業所	
	居宅介護サービス	1 事業所	54事業所	
	地域密着サービス	1 事業所	18事業所	
	施設サービス	—	11事業所	
	介護予防支援	—	1 事業所	
	介護予防サービス	1 事業所	46事業所	
介護予防	元気はつらつ塾	—	4か所	
	介護予防筋力向上トレーニング教室	1 事業所	3か所	
	老人福祉センター	1 事業所	4か所	
	ケアハウス	—	4か所	
	介護なんでも110番	—	32か所	
	おたっしゅサークル	4か所	79か所	
生活支援	新聞販売店	2営業所	23営業所	
	牛乳配達営業店	—	8か所	
	コンビニエンスストア	1 か所	33か所	
	農業組合法人	—	9か所	
	郵便局	1 か所	17か所	
	周遊バス バス停	1 か所	30か所	
住まい	サービス付高齢者向け住宅	1 か所	3か所	
	グループホーム	—	12か所	

1. 地区名

河南（山中）

2. 地区図



医院

1 上田医院

歯科

2 山中歯科医院

居宅介護サービス事業所

A つかたに

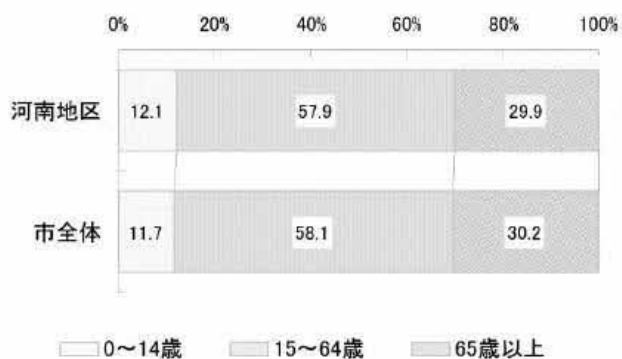
B さわらび福祉会やまなか

C 山中温泉しらさぎ苑

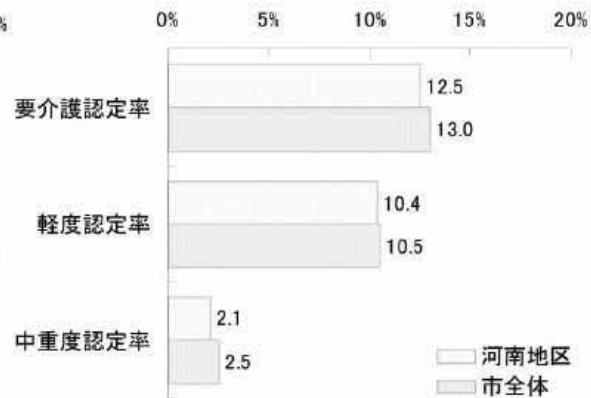
D 山中温泉福祉会デイサービスセンター

E 地域交流の家ふらっと

3 区分別人口割合



要介護認定率（軽度・中重度）



3. 基礎情報

項目	単位	数値		圏域合計・平均		市合計・平均		備考
人 口	人	4,218		8,406		70,885		平成26年4月1日現在
65歳以上人口（人）	人	1,263		2,969		21,376		平成26年4月1日現在
前期高齢者人口・割合	人・％	653	51.7	1,424	48.0	10,982	51.4	前期高齢者人口/人口
後期高齢者人口・割合	人・％	610	48.3	1,545	52.0	10,394	48.6	後期高齢者人口/人口
高齢化率（％）	％	29.9		43.3		30.2		65歳以上人口/人口
要介護認定者数（在宅のみ）	人	158		421		2,782		平成26年4月1日現在
要介護認定率	％	12.5		14.2		13.0		要介護認定者数/65歳以上人口
軽度認定率	％	10.4		11.9		10.5		軽度認定者数/65歳以上人口
中重度認定率	％	2.1		2.3		2.5		中重度認定者数/65歳以上人口
認知症高齢者数・割合	人・％	158	12.5	380	12.8	2,595	12.1	認知症高齢者数/65歳以上人口
在宅サービス利用率	人・％	130	82.3	273	68.8	2,077	74.7	在宅サービス利用数/ 要介護認定者数（在宅のみ）
1人当り療養諸費費用額	円	—		—		355,925		平成24年度
悪性新生物年齢調整死亡率	率	—		—		129.1		平成24年度
心疾患年齢調整死亡率	率	—		—		47.5		平成24年度
脳血管疾患年齢調整死亡率	率	—		—		41.5		平成24年度
新規申請数（1位）	件	脳卒中	11	24		104		平成25年4月
新規申請数（2位）	件	認知症	4	11		136		平成25年4月
新規申請数（2位）	件	悪性新生物 （がん）	4	5		67		平成25年4月
新規申請数（2位）	件	関節症	4	6		58		平成25年4月
在宅寝たきり者数	人	169		431		2,717		平成26年10月
二次予防事業対象者数	人	192		469		3,444		平成25年度
特定健診受診率	％	46.9		—		37.5		平成24年度
喫煙率	％	—		—		16.1		平成25年度
民生委員活動	延べ件数	15,827		15,827		72,040		平成25年度 山中・河南・西谷・東谷累計
	述べ日数	4,746		4,746		24,819		
見守り支えあい制度	登録者数	208		579		3,527		平成25年度
市営住宅入居者世帯数 （うち高齢者単身世帯）	世帯	98 (46)		116 (56)		374 (177)		平成25年4月1日現在

4. 相談事業、実態調査からみた市民の相談内容

	相談内容等	件数 (件)	カテゴリー内 割合 (%)	全体割合 (%)	総括
医療	1. 特定疾患の相談	38	64.4	8.3	・ カテゴリー別で相談件数の多いものをみると、1位「介護」デイサービス・デイケア利用について、2位「介護予防」身体技能について、3位「介護」認知症に関する相談、4位「医療」特定疾患の相談、5位「介護」家族介護による介護者の心身疲労について、となっています。
	2. 自分の病気について	8	13.6	1.8	
	3. リハビリの利用意向	4	6.8	0.9	
	3. 医薬管理の利用	4	6.8	0.9	
	5. 自分の病気についての相談	2	3.4	0.4	
	5. 退院後の生活について	2	3.4	0.4	
	7. その他	1	1.7	0.2	
	小 計	59	100.0	12.9	
介護	1. デイサービス・デイケア利用について	48	22.5	10.5	・ 相談内容は、全体と同様の傾向ではありますが、家族介護による介護者の心身疲労についての相談が上位に上がってきています。
	2. 認知症に関する相談	45	21.1	9.8	
	3. 家族介護による介護者の心身疲労について	34	16.0	7.4	
	4. 在宅サービスによる入浴希望	25	11.7	5.5	
	5. 介護認定の新規申請の依頼	24	11.3	5.3	
	6. その他	37	17.4	8.1	
	小 計	213	100.0	46.6	
介護予防	1. 身体機能について	47	46.5	10.3	・ 家族介護による介護者の心身疲労については、入浴全介助、重度化しており介護することが少し限界になってきた、介護者の心身の疲労が多い、などとなっています。
	2. 二次予防について	25	24.8	5.5	
	3. 一次予防について	12	11.9	2.6	
	4. チェックリストについて	7	6.9	1.5	
	5. 予防事業の申し込みにについて	6	5.9	1.3	
	6. その他	4	4.0	0.9	
	小 計	101	100.0	22.1	
生活支援	1. ひとり暮らしによる不安に対する生活相談	16	21.6	3.5	
	2. 見守り、安否確認	13	17.6	2.8	
	2. 家族関係、人間関係について	13	17.6	2.8	
	4. 虐待問題について	12	16.2	2.6	
	5. お金の管理について	7	9.5	1.5	
	6. その他	13	17.6	2.8	
	小 計	74	100.0	16.2	
住まい	1. トイレの改修要望	4	40.0	0.9	
	1. 手すりの設置、段差の解消要望	4	40.0	0.9	
	3. 住宅改修に関わる介護申請について	2	20.0	0.4	
	小 計	10	100.0	2.2	
	合 計	457	—	100.0	

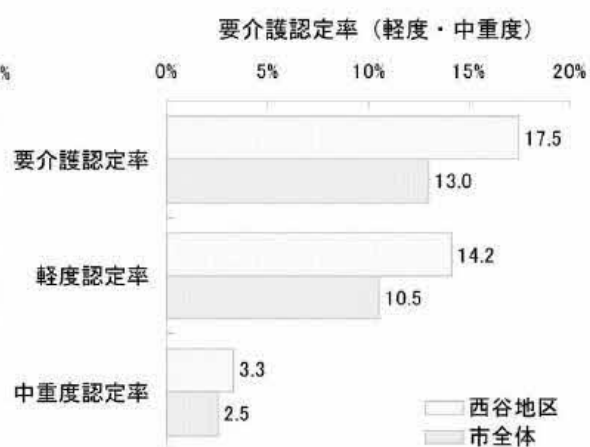
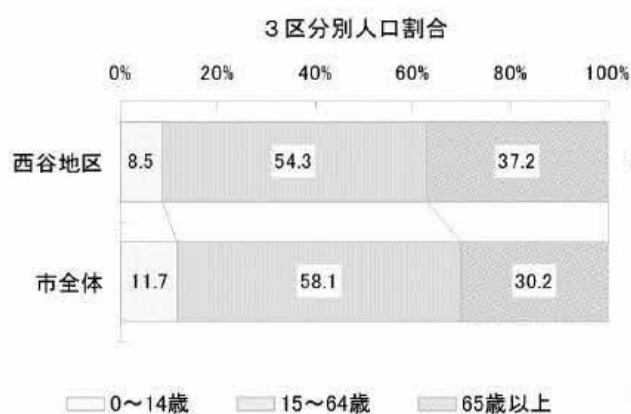
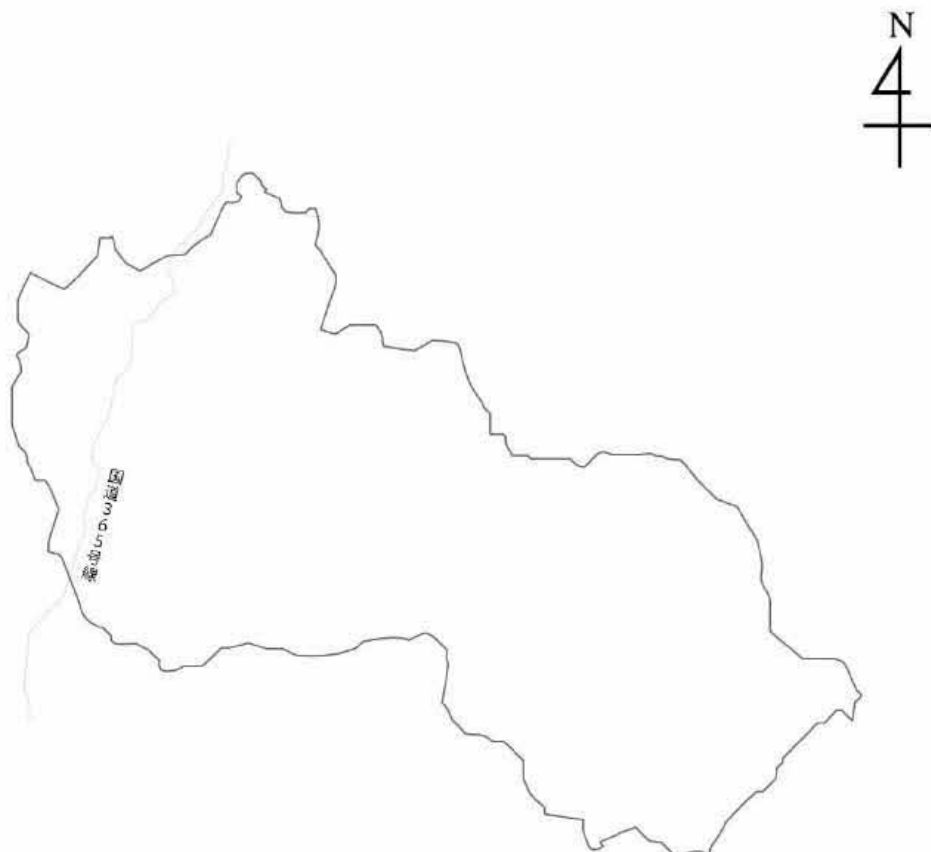
5. 社会資源の状況

	項 目	地区内数量	市全体数量	備 考
医療	病院	—	6か所	
	医院	1 か所	46か所	
	歯科医院	1 か所	30か所	
	薬局	1 か所	29か所	
介護	居宅介護支援	1 事業所	14 事業所	
	居宅介護サービス	5 事業所	54 事業所	
	地域密着サービス	1 事業所	18 事業所	
	施設サービス	1 事業所	11 事業所	
	介護予防支援	—	1 事業所	
	介護予防サービス	5 事業所	46 事業所	
介護予防	元気はつらつ塾	1 事業所	4か所	
	介護予防筋力向上トレーニング教室	—	3か所	
	老人福祉センター	—	4か所	
	ケアハウス	—	4か所	
	介護なんでも 110 番	3 事業所	32か所	
	おたっしゃサークル	6か所	79か所	
生活支援	新聞販売店	1 営業所	23 営業所	
	牛乳配達営業店	—	8か所	
	コンビニエンスストア	1 か所	33か所	
	農業組合法人	1 か所	9か所	
	郵便局	2か所	17か所	
	周遊バス バス停	1 か所	30か所	
住まい	サービス付高齢者向け住宅	—	3か所	
	グループホーム	1 か所	12か所	

1. 地区名

西谷（山中）

2. 地区図



3. 基礎情報

項目	単位	数値		圏域合計・平均		市合計・平均		備考
人 口	人	1, 141		8, 406		70, 885		平成 26 年 4 月 1 日現在
65 歳以上人口（人）	人	424		2, 969		21, 376		平成 26 年 4 月 1 日現在
前期高齢者人口・割合	人・％	208	49. 1	1, 424	48. 0	10, 982	51. 4	前期高齢者人口/人口
後期高齢者人口・割合	人・％	216	50. 9	1, 545	52. 0	10, 394	48. 6	後期高齢者人口/人口
高齢化率（％）	％	37. 2		43. 3		30. 2		65 歳以上人口／人口
要介護認定者数（在宅のみ）	人	74		421		2, 782		平成 26 年 4 月 1 日現在
要介護認定率	％	17. 5		14. 2		13. 0		要介護認定者数/65 歳以上人口
軽度認定率	％	14. 2		11. 9		10. 5		軽度認定者数/65 歳以上人口
中重度認定率	％	3. 3		2. 3		2. 5		中重度認定者数/65 歳以上人口
認知症高齢者数・割合	人・％	55	13. 0	380	12. 8	2, 595	12. 1	認知症高齢者数/65 歳以上人口
在宅サービス利用率	人・％	51	68. 9	273	68. 8	2, 077	74. 7	在宅サービス利用数/ 要介護認定者数（在宅のみ）
1 人当り療養諸費費用額	円	—		—		355, 925		平成 24 年度
悪性新生物年齢調整死亡率	率	—		—		129. 1		平成 24 年度
心疾患年齢調整死亡率	率	—		—		47. 5		平成 24 年度
脳血管疾患年齢調整死亡率	率	—		—		41. 5		平成 24 年度
新規申請数（１位）	件	脳卒中	5	24		104		平成 25 年 4 月
新規申請数（２位）	件	喘息	2	2		3		平成 25 年 4 月
在宅寝たきり者数	人	71		431		2, 717		平成 26 年 10 月
二次予防事業対象者数	人	71		469		3, 444		平成 25 年度
特定健診受診率	％	35. 5		—		37. 5		平成 24 年度
喫煙率	％	—		—		16. 1		平成 25 年度
民生委員活動	延べ件数	15, 827		15, 827		72, 040		平成 25 年度 山中・河内・西谷・東谷累計
	述べ日数	4, 746		4, 746		24, 819		
見守り支えあい制度	登録者数	62		579		3, 527		平成 25 年度
市営住宅入居者世帯数 （うち高齢者単身世帯）	世帯	18 (10)		116 (56)		374 (177)		平成 25 年 4 月 1 日現在

4. 相談事業、実態調査からみた市民の相談内容

	相談内容等	件数 (件)	カテゴリー内 割合 (%)	全体割合 (%)	総括
医療	1. 特定疾患の相談	12	63.2	7.9	・ カテゴリー別で相談件数の多いものをみると、1位「介護」認知症に関する相談、2位「介護」デイサービス・デイケア利用について、3位「医療」特定疾患の相談、同じく3位「介護予防」二次予防について、5位「介護予防」身体機能について、となっています。
	2. 自分の病気について	6	31.6	4.0	
	3. 在宅医療の利用についての相談	1	5.3	0.7	
	小 計	19	100.0	12.6	
介護	1. 認知症に関する相談	15	24.2	9.9	・ 相談内容は、全体と同様の傾向ではありますが、二次予防についての相談が上位に上がってきています。
	2. デイサービス・デイケア利用について	13	21.0	8.6	
	3. 施設入所相談	7	11.3	4.6	
	4. 介護認定の新規申請の依頼	6	9.7	4.0	
	5. 食事、掃除の依頼のための介護申請	5	8.1	3.3	
	6. その他	16	25.8	10.6	
	小 計	62	100.0	41.1	
介護予防	1. 二次予防について	12	38.7	7.9	・ 二次予防について相談の内容は、糖尿病など生活習慣病になっており、なかなか運動もできなくなった。食事に気をつけないといけないので、予防講座に参加して、今後食生活等に気をつけたいなどとなっています。
	2. 身体機能について	11	35.5	7.3	
	3. 一次予防について	4	12.9	2.6	
	3. チェックリストについて	4	12.9	2.6	
	小 計	31	100.0	20.5	
生活支援	1. 家族関係、人間関係について	7	25.0	4.6	
	2. 入浴サービスについて	5	17.9	3.3	
	3. 本人の現状について	4	14.3	2.6	
	4. お金の管理について	3	10.7	2.0	
	5. その他	9	32.1	6.0	
	小 計	28	100.0	18.5	
住まい	1. 手すりの設置、段差の解消要望	5	45.5	3.3	
	2. 住宅改修に関わる介護申請について	4	36.4	2.6	
	3. トイレの改修要望	2	18.2	1.3	
	小 計	11	100.0	7.3	
	合 計	151	—	100.0	

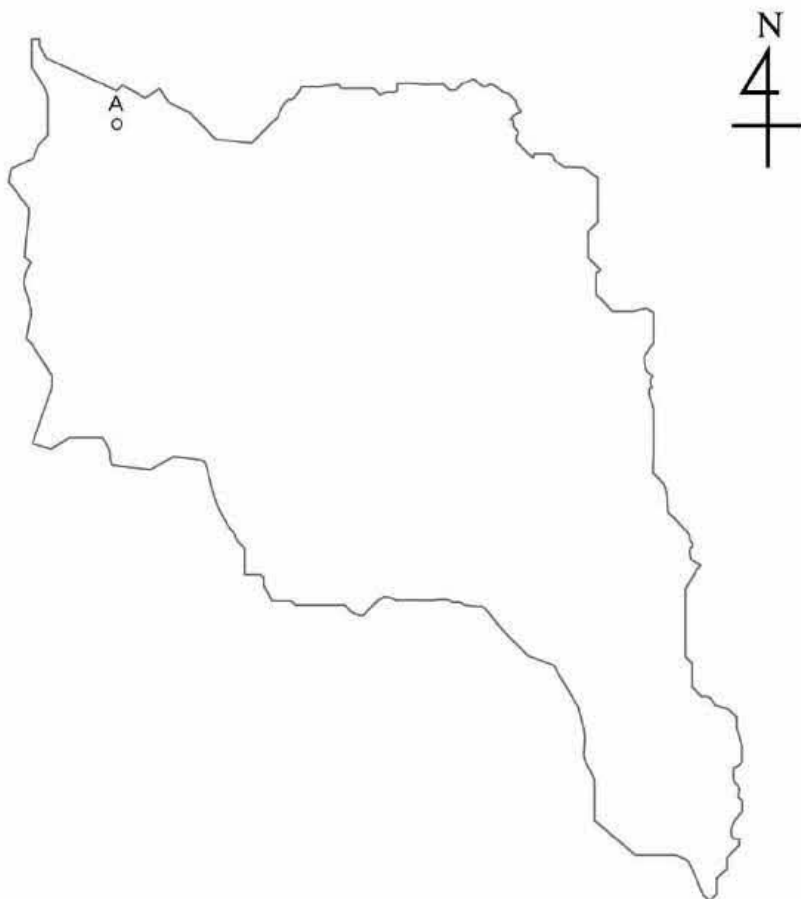
5. 社会資源の状況

	項 目	地区内数量	市全体数量	備 考
医療	病院	—	6か所	
	医院	—	46か所	
	歯科医院	—	30か所	
	薬局	—	29か所	
介護	居宅介護支援	—	14事業所	
	居宅介護サービス	—	54事業所	
	地域密着サービス	—	18事業所	
	施設サービス	—	11事業所	
	介護予防支援	—	1事業所	
	介護予防サービス	—	46事業所	
介護予防	元気はつらつ塾	—	4か所	
	介護予防筋力向上トレーニング教室	—	3か所	
	老人福祉センター	—	4か所	
	ケアハウス	—	4か所	
	介護なんでも110番	—	32か所	
	おたっしゃサークル	1か所	79か所	
生活支援	新聞販売店	—	23営業所	
	牛乳配達営業店	—	8か所	
	コンビニエンスストア	—	33か所	
	農業組合法人	1か所	9か所	
	郵便局	—	17か所	
	周遊バス バス停	—	30か所	
住まい	サービス付高齢者向け住宅	1か所	3か所	
	グループホーム	—	12か所	

1. 地区名

東谷（山中）

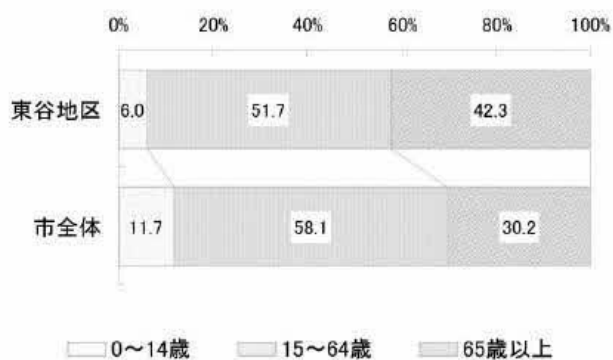
2. 地区図



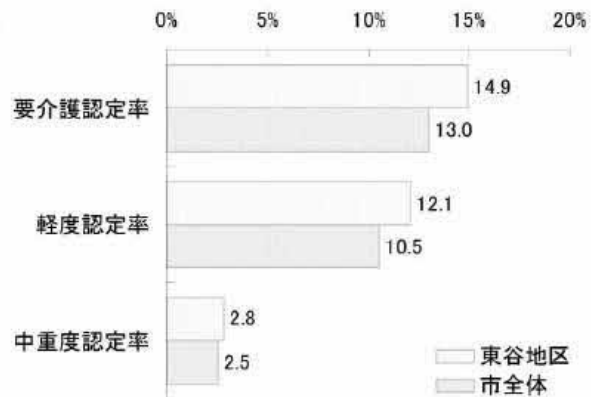
居宅介護サービス事業所

A サンライフたきの里（グループホームしゃくなげ）

3 区分別人口割合



要介護認定率（軽度・中重度）



3. 基礎情報

項目	単位	数値		圏域合計・平均		市合計・平均		備考
人 口	人	333		8,406		70,885		平成26年4月1日現在
65歳以上人口（人）	人	141		2,969		21,376		平成26年4月1日現在
前期高齢者人口・割合	人・％	37	26.2	1,424	48.0	10,982	51.4	前期高齢者人口/人口
後期高齢者人口・割合	人・％	104	73.8	1,545	52.0	10,394	48.6	後期高齢者人口/人口
高齢化率（％）	％	42.3		43.3		30.2		65歳以上人口/人口
要介護認定者数（在宅のみ）	人	21		421		2,782		平成26年4月1日現在
要介護認定率	％	14.9		14.2		13.0		要介護認定者数/65歳以上人口
軽度認定率	％	12.1		11.9		10.5		軽度認定者数/65歳以上人口
中重度認定率	％	2.8		2.3		2.5		中重度認定者数/65歳以上人口
認知症高齢者数・割合	人・％	44	31.2	380	12.8	2,595	12.1	認知症高齢者数/65歳以上人口
在宅サービス利用率	人・％	27	128.6	273	68.8	2,077	74.7	在宅サービス利用者/ 要介護認定者数（在宅のみ）
1人当り療養諸費費用額	円	—		—		355,925		平成24年度
悪性新生物年齢調整死亡率	率	—		—		129.1		平成24年度
心疾患年齢調整死亡率	率	—		—		47.5		平成24年度
脳血管疾患年齢調整死亡率	率	—		—		41.5		平成24年度
新規申請数（1位）	件	大腿骨骨折	2	7		18		平成25年4月
在宅寝たきり者数	人	22		431		2,717		平成26年10月
二次予防事業対象者数	人	19		469		3,444		平成25年度
特定健診受診率	％	39.7		—		37.5		平成24年度
喫煙率	％	—		—		16.1		平成25年度
民生委員活動	延べ件数	15,827		15,827		72,040		平成25年度 山中・河内・西谷・東谷累計
	述べ日数	4,746		4,746		24,819		
見守り支えあい制度	登録者数	14		579		3,527		平成25年度
市営住宅入居者世帯数 （うち高齢者単身世帯）	世帯	—		116 (56)		374 (177)		平成25年4月1日現在

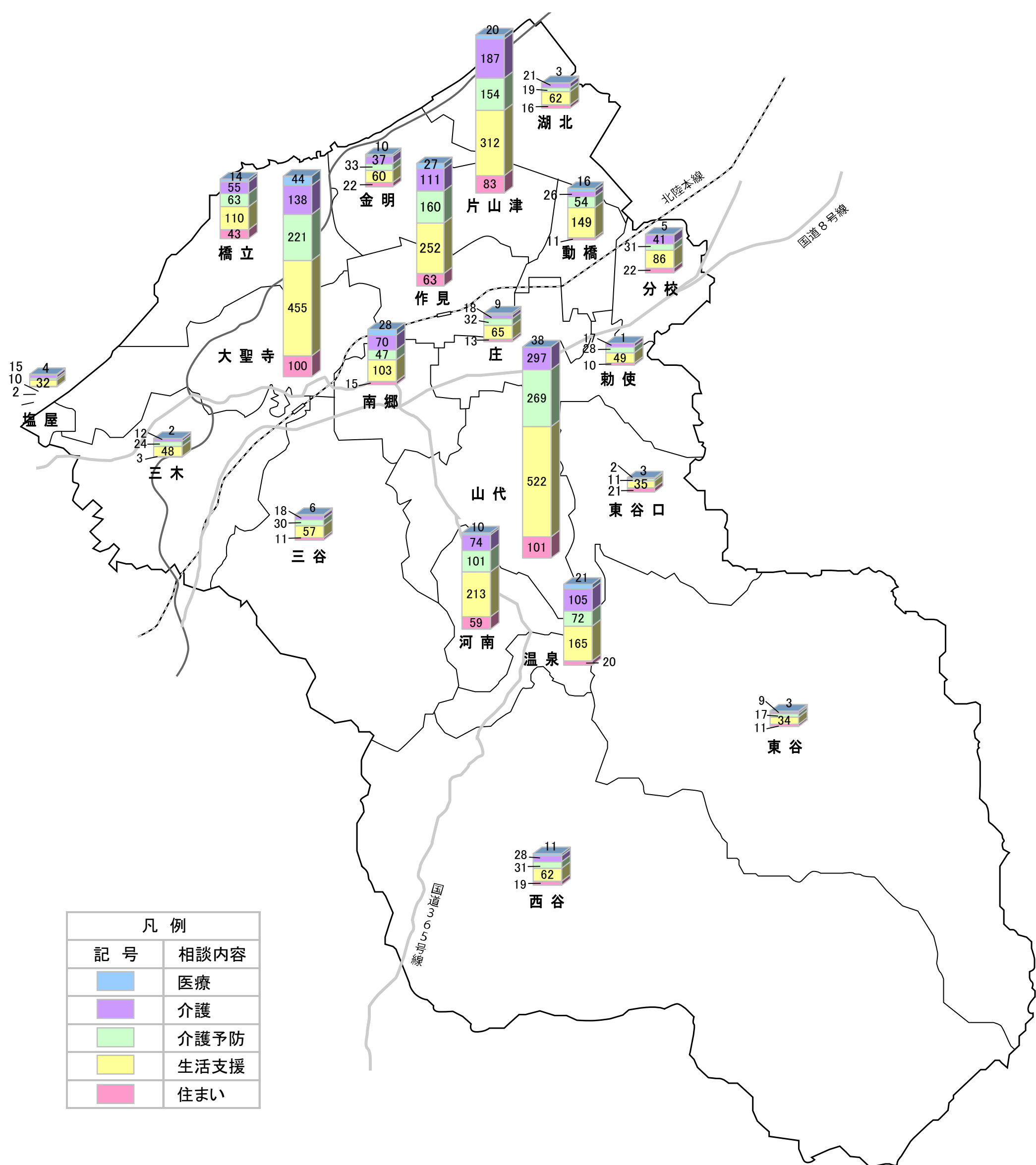
4. 相談事業、実態調査からみた市民の相談内容

	相談内容等	件数 (件)	カテゴリー内 割合 (%)	全体割合 (%)	総括
医療	1. 特定疾患の相談	8	72.7	10.8	・ カテゴリー別で相談件数の多いものをみると、1位「介護」認知症に関する相談、2位「介護」デイサービス・デイケア利用について、同じく2位「介護予防」身体機能について、4位「医療」特定疾患の相談、5位「介護予防」一次予防について、となっています。 ・ 相談内容は、全体と同様の傾向ではありますが、特定疾患の相談が上位に上がってきています。 ・ 特定疾患の相談の内容については特定疾患(統合失調症、神経変性疾患、病変分変調症、パーキンソン病)に対するケアの相談で、病状に応じたサービスを利用したい、などとなっています。
	2. 退院後の生活について	2	18.2	2.7	
	3. 病院への移動手段	1	9.1	1.4	
	小 計	11	100.0	14.9	
介護	1. 認知症に関する相談	10	29.4	13.5	
	2. デイサービス・デイケア利用について	9	26.5	12.2	
	3. 在宅サービスの利用にあたっての相談	4	11.8	5.4	
	3. 在宅サービスによる入浴希望	4	11.8	5.4	
	3. 家族介護による介護者の心身疲労について	4	11.8	5.4	
	6. その他	3	8.8	4.1	
	小 計	34	100.0	45.9	
介護予防	1. 身体機能について	9	52.9	12.2	
	2. 一次予防について	6	35.3	8.1	
	3. チェックリストについて	1	5.9	1.4	
	3. 二次予防について	1	5.9	1.4	
	小 計	17	100.0	23.0	
生活支援	1. 家族関係、人間関係について	3	33.3	4.1	
	2. ひとり暮らしによる不安に対しての生活相談	2	22.2	2.7	
	3. お金の管理について	1	11.1	1.4	
	3. 入浴サービスについて	1	11.1	1.4	
	3. 見守り、安否確認	1	11.1	1.4	
	3. 買い物、歩けるか、車の移動	1	11.1	1.4	
	小 計	9	100.0	12.2	
住まい	1. 住宅改修に関わる介護申請について	1	33.3	1.4	
	1. 手すりの設置、段差の解消要望	1	33.3	1.4	
	1. トイレの改修要望	1	33.3	1.4	
	小 計	3	100.0	4.1	
	合 計	74	—	100.0	

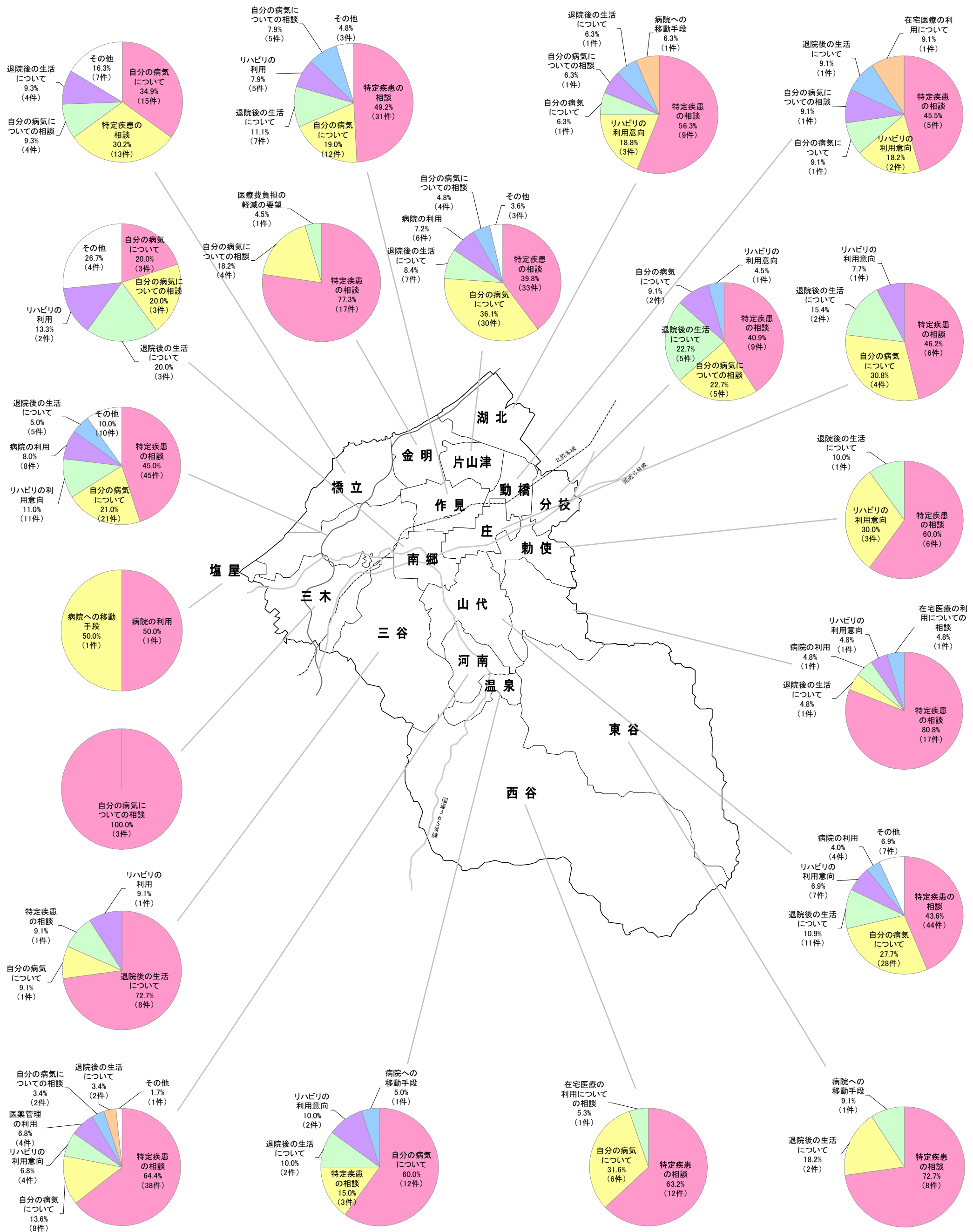
5. 社会資源の状況

	項 目	地区内数量	市全体数量	備 考
医療	病院	—	6か所	
	医院	—	46か所	
	歯科医院	—	30か所	
	薬局	—	29か所	
介護	居宅介護支援	1事業所	14事業所	
	居宅介護サービス	1事業所	54事業所	
	地域密着サービス	1事業所	18事業所	
	施設サービス	1事業所	11事業所	
	介護予防支援	—	1事業所	
	介護予防サービス	1事業所	46事業所	
介護予防	元気はつらつ塾	—	4か所	
	介護予防筋力向上トレーニング教室	—	3か所	
	老人福祉センター	—	4か所	
	ケアハウス	—	4か所	
	介護なんでも110番	1か所	32か所	
	おたっしやサークル	1か所	79か所	
生活支援	新聞販売店	—	23営業所	
	牛乳配達営業店	—	8か所	
	コンビニエンスストア	—	33か所	
	農業組合法人	—	9か所	
	郵便局	—	17か所	
	周遊バス バス停	—	30か所	
住まい	サービス付高齢者向け住宅	—	3か所	
	グループホーム	1か所	12か所	

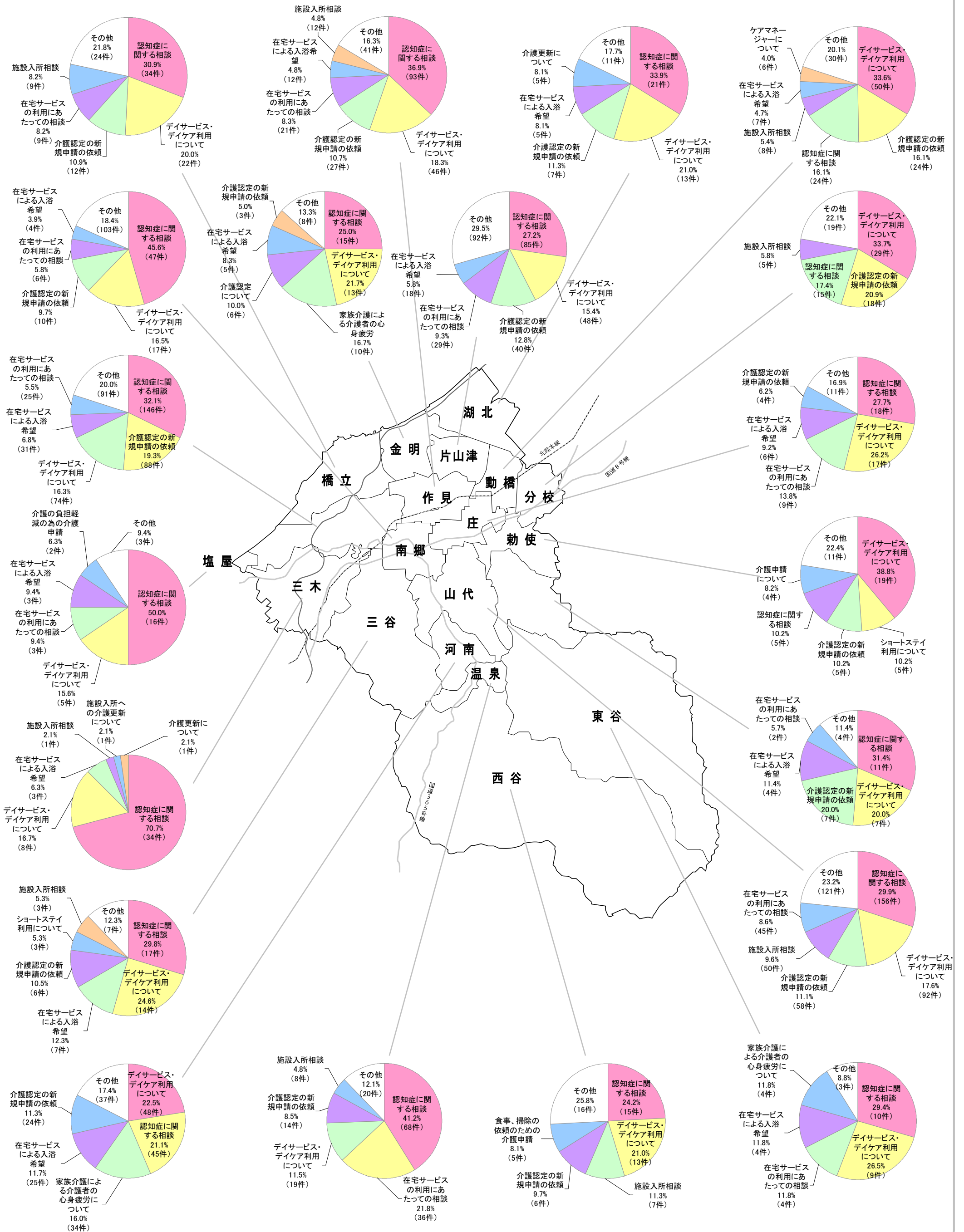
地区別相談件数（全体）



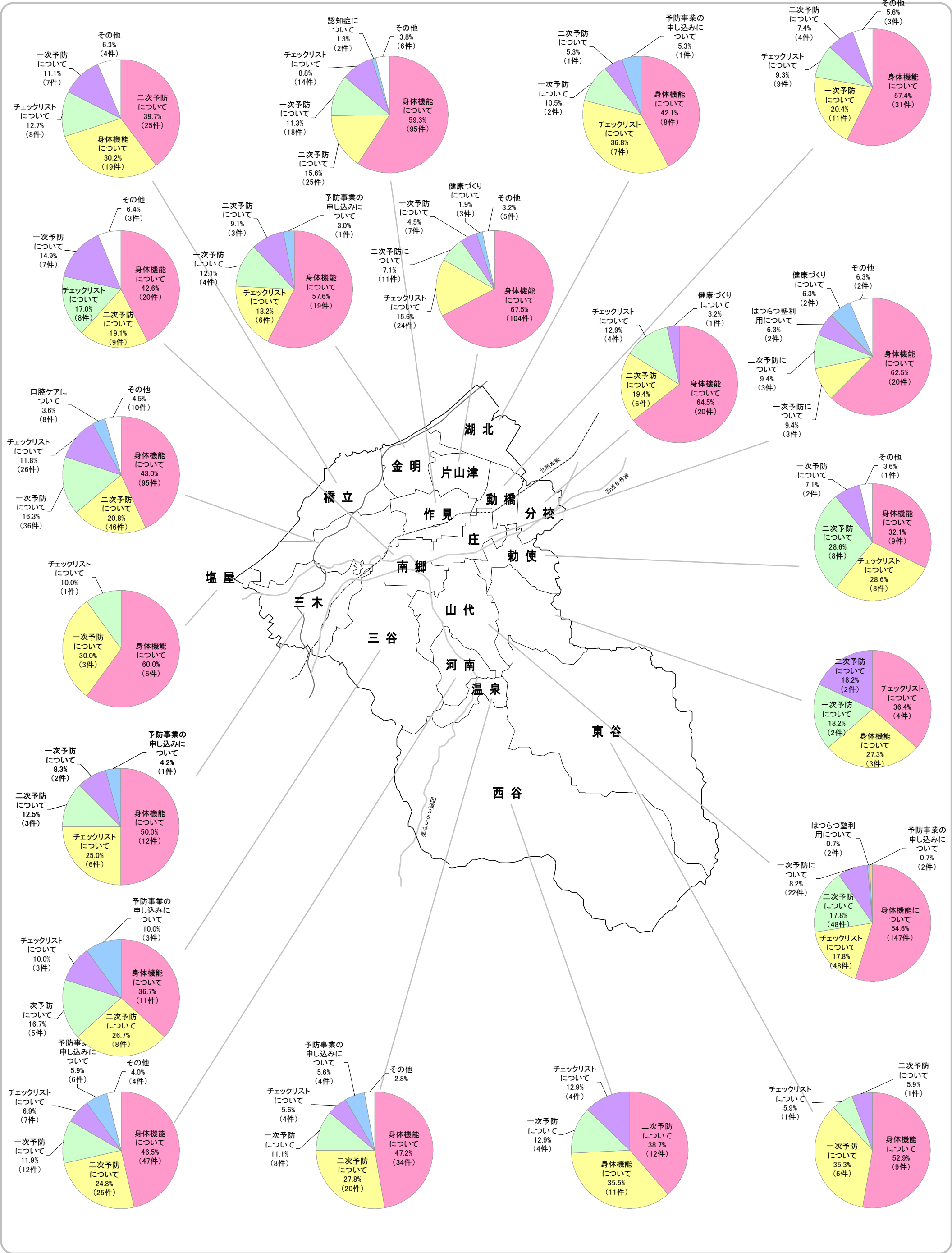
地区別相談内容（医療）



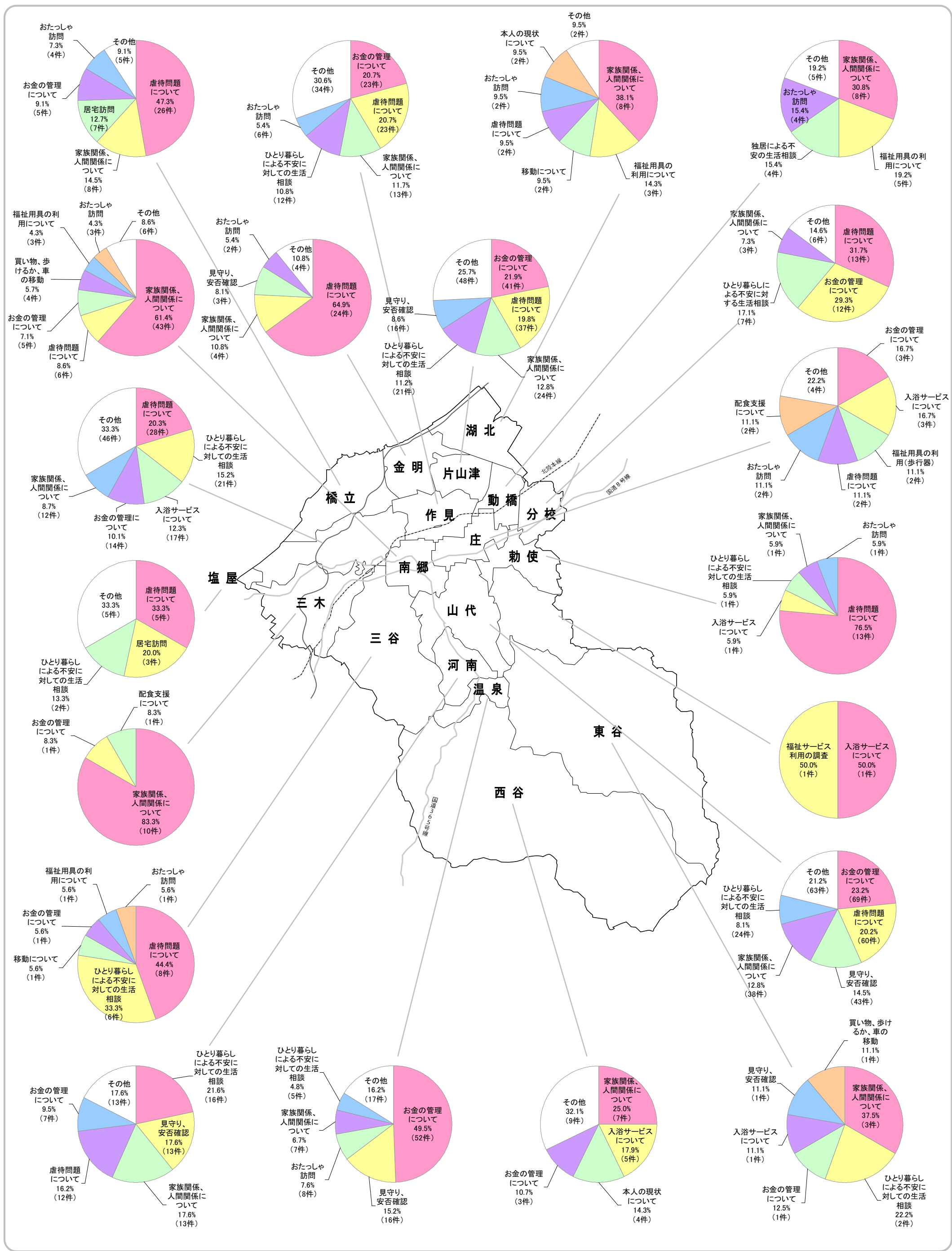
地区別相談内容（介護）



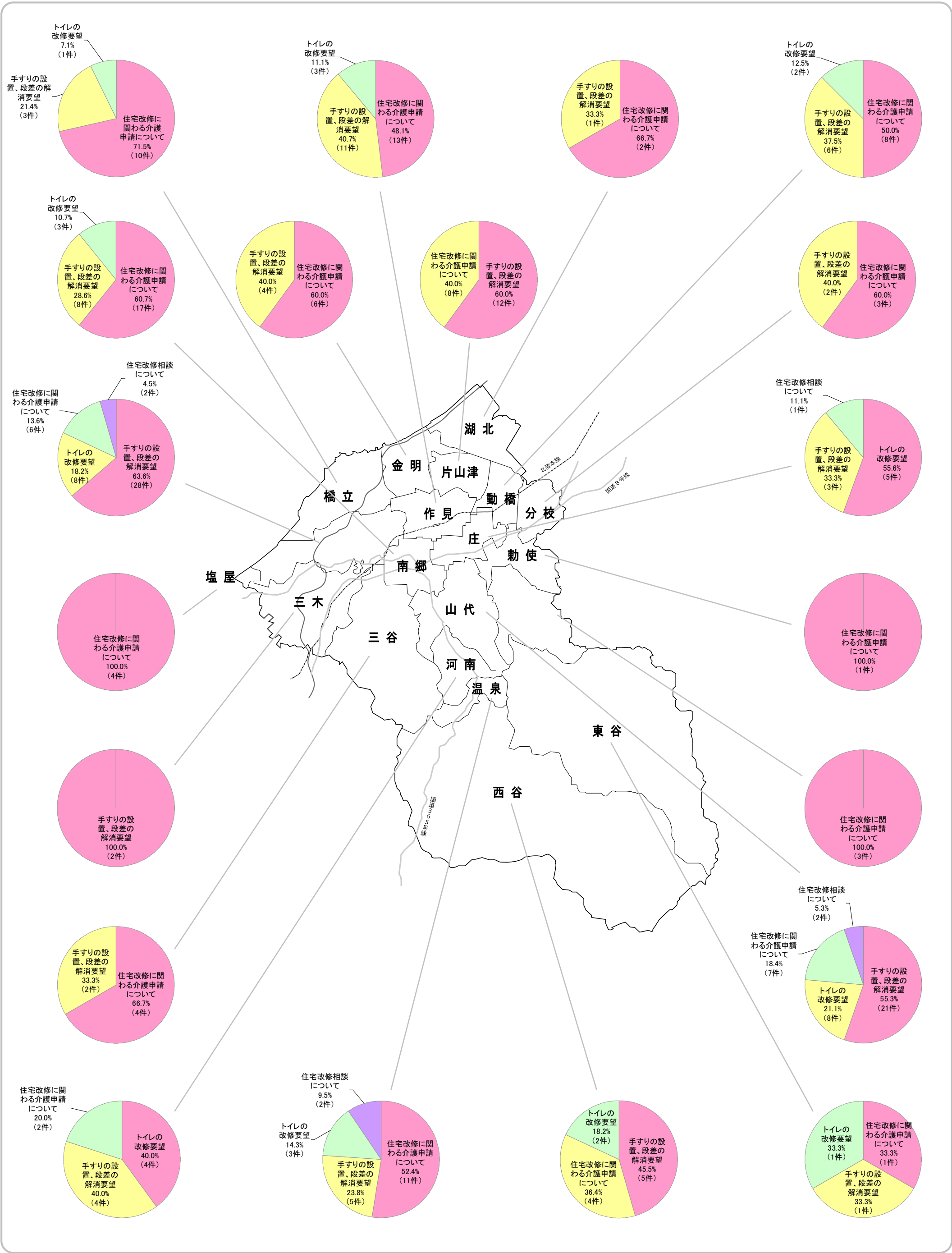
地区別相談内容（介護予防）



地区別相談内容（生活支援）



地区別相談内容（住まい）



地区座談会の声（圏域別）

- ・ 景観が良く自然の資源がたくさんある。
- ・ 小学校（片山津）の児童数が少なく少子化が心配。
- ・ 買い物に行くのが困難になる。
- ・ 自然がいっぱいで癒される（白山、柴山湯、温泉）。
- ・ まちづくり等の活動が活発。

- ・ 車が運転できる時は良いが交通機関がないので心配。
- ・ 町内の人がほとんど顔見知り。
- ・ 近所にも高齢世帯が多くなる。助け合いができるかどうか。
- ・ 町内のつながり・まとまりが強い。
- ・ 海が美しい。

- ・ 坂が多いのでバスが必要。
- ・ 大型スーパーや電気店・薬局などたくさんあるが車でないと行けない。
- ・ 松が丘・白山台は高台だから水害の心配はないし、災害に強い。
- ・ 周辺の環境（中央公園・体育施設）が良い。
- ・ 若い人がいなくなり、町内の人口が減る一方。
- ・ 駅・病院・商店が近くにある。



- ・ 隣近所との距離があり、そのことがよくもあり、万一の時の不安となっている。
- ・ 男性の行く場所がない（将棋 etc）。
- ・ おたっしやクラブが活発なこと。
- ・ 駅・病院・ショッピングセンターに近い。
- ・ 町民がわかっているので変な人がいるとすぐにわかる。
- ・ 意欲のある高齢者が多い。お稽古ごとが盛ん。
- ・ 町内の一人暮らしが多くなった。
- ・ 近所の仲良しの人と一緒にいたい。昼は一人でも安心のため、夜は一緒に寝たい。
- ・ 高齢者同士仲がよい。

- ・ ぐず焼き祭りが年々盛り上がっている。
- ・ 近所に買い物する所がなく遠い。
- ・ 駅が近くにある。
- ・ バス乗り場が遠い。バスがない。
- ・ 川の氾濫が心配。
- ・ 町全体、隣近所など繋がりが深くてよいと思う。顔・名前がわかる。

- ・ 昔はバスが通っていたが、今は乗り合いタクシー。
- ・ 地区のよいところは、元気なうちは畑仕事に行くこと。運動にもなるし生きがいにもなる。
- ・ 地域のおじいちゃん・おばあちゃんが集まる家がある（たまり場）。
- ・ 地域が農作業に協力的。
- ・ 誰も墓守をしない。
- ・ 廃屋旅館、空き家の問題。
- ・ アパートが多い、2階だと困る。
- ・ 総湯に行くコミュニケーションがとれる。
- ・ 古くからの町なので祭りや文化的なものが実はある。

- ・ 山中・河南は観光客が多い。
- ・ 温泉が近くにある。
- ・ 今は車に乗っているが、運転しなくなると風呂に行けない（総湯）。
- ・ 町内のリーダーとなる人の高齢化による支援が手薄。
- ・ 病院が遠くなること。
- ・ 高齢の方が元気で畑仕事をやって健康によい。